
久喜市

栗橋宿跡Ⅳ

首都圏氾濫区域堤防強化対策における
埋蔵文化財発掘調査報告

2019

国土交通省 関東地方整備局
公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



1 出土髪飾り



2 出土下駄

序

埼玉県北部の県境を流れる利根川は、日本の河川の長男として「坂東太郎」の異名を持つ日本最大級の河川です。その広大な流域には肥沃な農地が広がり、約1,280万人の人々が暮らしています。

利根川は、「刀^と弥^お河^か泊^ぼ」として万葉集の恋歌にも詠まれており、古くから人々に親しまれてきました。また、交通路として、農業・生活・工業用水の供給源としても限らない恵みをもたらしています。その一方、過去にたびたび恐ろしい水害を引き起こしてきました。国土交通省ではこのような災害を未然に防ぐため、様々な対策を講じています。首都圏の安全を確保するための氾濫区域の堤防強化対策事業もその一環です。

本事業地のある加須・羽生・久喜地区には、周知の埋蔵文化財包蔵地が多数存在しています。今回、発掘調査を行った久喜市の栗橋宿跡もその一つです。発掘調査は同事業に伴う事前調査であり、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、当事業団が実施いたしました。

栗橋宿は、江戸時代には日光道中の宿場で、商人や職人の住まいが並んでいました。また、利根川を渡る房川渡しに栗橋関所が置かれ、交通の要所としても栄えていました。

今回の調査では、宿場の町屋に建ち並ぶ建物跡や、火災の後片付けの痕跡などが発見されました。また、陶磁器や、商売に使った荷札、鮮やかな蒔絵^{まきえ}で飾られた漆塗りの櫛などが出土し、当時の生活をうかがうことができる貴重な発見となりました。

本書は、これらの発掘調査成果をまとめたものです。埋蔵文化財の保護並びに普及・啓発の資料として、また学術研究の基礎資料として、多くの方々に活用していただければ幸いです。

最後に、本書の刊行にあたり、発掘調査の諸調整に御尽力いただきました埼玉県教育局市町村支援部文化資源課をはじめ、国土交通省関東地方整備局、久喜市教育委員会並びに地元関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

令和元年12月

公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 藤 田 栄 二

例 言

- 1 本書は久喜市に所在する栗橋宿跡第7地点の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡名と代表地番、発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。
栗橋宿跡第7地点 (No.86-011)
久喜市栗橋中央2丁目3521-2 他
平成26年7月4日付け教文第2-23号
- 3 発掘調査は、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に伴う埋蔵文化財記録保存のための事前調査である。埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課（当時）が調整し、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所の委託を受け、公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
- 4 各事業の委託事業名は、下記の通りである。
発掘調査事業（平成26年度）
「首都圏氾濫区域堤防強化対策（加須・久喜地区）における平成26年度埋蔵文化財発掘調査」（栗橋宿跡第7地点第1次調査）
整理・報告書作成事業（平成30・31年度）
「首都圏氾濫区域堤防強化対策における平成30年度埋蔵文化財発掘調査（整理）」
「首都圏氾濫区域堤防強化対策における平成31年度埋蔵文化財発掘調査（整理）」
- 5 発掘調査・整理報告書作成事業はⅠ-3に示した組織により実施した。
発掘調査は、第7地点を平成26年7月1日から平成27年3月31日まで実施し、山本禎、坂下貴則が担当した。
整理・報告書作成事業は、平成30年9月1日から令和元年10月31日まで実施し、矢部曠が担当した。報告書は令和元年12月20日に埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第458集として印

- 刷・刊行した。
- 6 発掘調査における基準点測量は、株式会社東京航業研究所に委託した。
- 7 発掘調査における空中写真は、株式会社シン技術コンサル、中央航業株式会社に委託した。
- 8 発掘調査における自然科学分析は、株式会社パレオ・ラボに委託した。整理作業における自然科学分析は、バリノ・サーヴェイ株式会社、漆器文化財研究所に委託した。
- 9 発掘調査における写真撮影は各担当者が行い、出土遺物の写真撮影は矢部が、文字資料の写真撮影は魚水環が行った。巻頭図版用の遺物撮影は、小川忠博氏に委託した。
- 10 文字資料の釈文については、久喜市教育委員会の協力を得た。
- 11 出土品の整理・図版作成は矢部が行い、陶磁器・瓦・石製品については村山卓・水村雄功、金属製品は瀧瀬芳之・井上真帆の協力を得た。町並の復元、文献調査にあたっては、剣持和夫の協力を得た。
- 12 本書の執筆はⅠ-1を埼玉県教育局市町村支援部文化資源課、その他を矢部が行った。
- 13 本書の編集は矢部が行った。
- 14 本書にかかる諸資料は平成31年1月以降、埼玉県教育委員会が管理・保管する。
- 15 発掘調査や本書の作成にあたり、下記の関係機関及び方々から御教示・御協力を賜った。記して感謝いたします（敬称略五十音順）。
久喜市教育委員会 江戸遺跡研究会
江戸在土器研究会 池尻 篤 栗原史郎
島村範久 鈴木伸哉 中村和夫 堀内謙一
巻島千明 山崎吉弘

凡 例

- 1 遺跡全体におけるX・Yの数値は、世界測地系、国家標準平面直角座標第IX系（原点北緯36° 00′ 00″、東経139° 50′ 00″）に基づく座標値を示す。また、各挿図に記した方位は全て座標北を指す。

G 7 - B10グリッド杭の座標は X = 15390.000m、Y = -11610.000m、北緯36° 08′ 19.1136″、東経139° 42′ 15.5826″である。

- 2 調査に際して使用したグリッド名称は、事業地内の全体を覆うように設定した。座標値X = 16000.000m、Y = -12300.000mを北西の原点（A 1 - A 1グリッド）とし、100×100mのグリッドを設定し、さらにその中を10×10mの小グリッドに細分した。

- 3 グリッドの名称は、北西原点を基点に北から南にアルファベット（A・B・C…）、西から東に数字（1・2・3…）を付し、アルファベットと数字を組み合わせた。同様に小グリッドは各グリッドの北西隅を基点に、北から南にA～J、西から東に1～10とし、グリッド内を100に区分した。これらを合わせた呼称は、ハイフオン（ー）をはさみ、グリッドを左に、小グリッドを右に表記した。（グリッド）ー（グリッド）

- 4 本書の本文・挿図・表・写真図版に記した遺構の略号は、以下のとおりである。

S B…建物跡 S K…土壌 S D…溝跡

S E…井戸跡 P…ピット

- 5 本書における挿図は、一部の例外を除き以下の縮尺を原則とした。

全測図 1/400

遺構図 1/80・1/60・1/30

遺物実測図・拓影図 1/2・1/3・1/4

遺構番号振替・欠番一覧表

新	旧
SE2	補14
杭列6	新規発番
杭列7	新規発番
杭列8	新規発番

新	旧
杭列9	新規発番
杭列10	新規発番
S08	杭列1
S09	杭列3

新	旧
SD10	杭列4
欠番	SK5
(SK4に吸収)	
SK78	SB1

新	旧
SK144	SK1
SK145	SK2
欠番	P5
欠番	P11

- 6 遺構断面図に表記した水準数値は、全て海拔標高（単位m）を表す。

- 7 遺物観察表の表記方法は以下のとおりである。

・遺物計測値は陶磁器、土器等をcm、銭貨をmm、重さをg単位とした。

・土器計測値の（ ）は復元推定値、[]は現存値を示す。

・瓦の計測値は「長さ」に瓦当面からの長さ、「幅」に全幅、「厚さ」に平瓦部厚さ、「高さ」に接地面からの高さ、「径」に瓦当径を記載した。

・陶磁器の輪高台状のつまみを有するフタは、つまみを底径、受口を口径として計測した。

・胎土は特徴的な鉱物等を記号で示した。

A：雲母 B：片岩 C：角閃石 D：長石
E：石英 F：軽石 G：砂粒子 H：赤色粒子
I：白色粒子 J：針状物質 K：黒色粒子
L：その他 M：チャート

・焼成は良好・普通・不良の3段階に分けた。

・残存率は器形に対する大まかな遺存程度を%で示した。

・備考には出土位置、煤の付着、推定生産地、文様の特徴等を記した。

- 8 遺物実測図の網かけは漆、被熱の範囲を表す。網かけの濃度によって区分し図中に例示した。

赤漆20% 茶漆30% 黒漆35% 炭化50%
漆器については観察表に示した。

- 9 本書に掲載した地形図類は国土地理院発行の1/50000地形図、久喜市発行の1/2500都市計画図を編集のうえ、使用した。

- 10 文中の引用文献等は、（著者 発行年）の順で表記し、参考文献とともに巻末に掲載した。

目 次

巻頭図版

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1	2 第二面の遺構と遺物	132
1 発掘調査に至る経過	1	(1) 埋設桶	132
2 発掘調査・報告書作成の経過	2	(2) 井戸跡	138
(1) 発掘調査	2	(3) 溝跡	140
(2) 整理・報告書の作成	2	(4) 土城	146
3 発掘調査・報告書作成の組織	3	(5) ビット	235
II 遺跡の立地と環境	4	(6) グリッド出土遺物	236
1 地理的環境	4	3 文字資料	237
2 歴史的環境	5	4 出土遺物一覧表と遺構の時期	240
III 遺跡の概要	11	V 自然科学分析	255
IV 遺構と遺物	20	1 土城内灰白色物の材質分析	255
1 第一面の遺構と遺物	20	2 寄生虫卵分析	259
(1) 建物跡	20	3 土城出土の大型植物遺体	260
(2) 埋設桶	30	4 樹種同定・炭化材同定	268
(3) 杭列	31	5 「丸に三つ葵紋漆絵碗」の科学分析	276
(4) 溝跡	34	VI 調査のまとめ	281
(5) 土城	44	写真図版	
(6) ビット	130		
(7) グリッド出土遺物	131		

挿 図 目 次

第1図 埼玉県の地形	4	第9図 第二面遺構全体図	17
第2図 栗橋宿跡周辺の地形	5	第10図 第二面遺構分割図(1)	18
第3図 周辺の遺跡	6	第11図 第二面遺構分割図(2)	19
第4図 遺跡位置図	12	第12図 建物跡(1)	20
第5図 基本土層	13	第13図 建物跡(2)	21
第6図 第一面遺構全体図	14	第14図 建物跡(3)	22
第7図 第一面遺構分割図(1)	15	第15図 建物跡(4)	23
第8図 第一面遺構分割図(2)	16	第16図 建物跡(5)	24

第17図	建物跡 (6)	25	第54図	土城出土遺物 (8)	63
第18図	建物跡出土遺物 (1)	26	第55図	土城出土遺物 (9)	64
第19図	建物跡出土遺物 (2)	27	第56図	土城出土遺物 (10)	65
第20図	建物跡出土遺物 (3)	27	第57図	土城出土遺物 (11)	66
第21図	建物跡出土遺物 (4)	28	第58図	土城出土遺物 (12)	67
第22図	建物跡出土遺物 (5)	29	第59図	土城出土遺物 (13)	68
第23図	埋設桶	30	第60図	土城出土遺物 (14)	69
第24図	埋設桶出土遺物	31	第61図	土城出土遺物 (15)	70
第25図	杭列 (1) ・ 第2号杭列出土遺物 ...	32	第62図	土城出土遺物 (16)	71
第26図	杭列 (2)	33	第63図	土城出土遺物 (17)	72
第27図	杭列 (3)	34	第64図	土城出土遺物 (18)	73
第28図	溝跡 (1)	35	第65図	土城出土遺物 (19)	74
第29図	溝跡 (2)	36	第66図	土城出土遺物 (20)	75
第30図	溝跡 (3)	37	第67図	土城出土遺物 (21)	76
第31図	溝跡 (4)	38	第68図	土城出土遺物 (22)	77
第32図	溝跡 (5)	39	第69図	土城出土遺物 (23)	78
第33図	溝跡出土遺物 (1)	40	第70図	土城出土遺物 (24)	79
第34図	溝跡出土遺物 (2)	41	第71図	土城出土遺物 (25)	80
第35図	溝跡出土遺物 (3)	42	第72図	土城出土遺物 (26)	91
第36図	土壇 (1)	45	第73図	土城出土遺物 (27)	91
第37図	土壇 (2)	46	第74図	土城出土遺物 (28)	92
第38図	土壇 (3)	47	第75図	土城出土遺物 (29)	93
第39図	土壇 (4)	48	第76図	土城出土遺物 (30)	94
第40図	土壇 (5)	49	第77図	土城出土遺物 (31)	95
第41図	土壇 (6)	50	第78図	土城出土遺物 (32)	96
第42図	土壇 (7)	51	第79図	土城出土遺物 (33)	97
第43図	土壇 (8)	52	第80図	土城出土遺物 (34)	98
第44図	土壇 (9)	53	第81図	土城出土遺物 (35)	100
第45図	土壇 (10)	54	第82図	土城出土遺物 (36)	101
第46図	土壇 (11)	55	第83図	土城出土遺物 (37)	102
第47図	土壇出土遺物 (1)	56	第84図	土城出土遺物 (38)	103
第48図	土壇出土遺物 (2)	57	第85図	土城出土遺物 (39)	104
第49図	土壇出土遺物 (3)	58	第86図	土城出土遺物 (40)	105
第50図	土壇出土遺物 (4)	59	第87図	土城出土遺物 (41)	106
第51図	土壇出土遺物 (5)	60	第88図	土城出土遺物 (42)	109
第52図	土壇出土遺物 (6)	61	第89図	土城出土遺物 (43)	110
第53図	土壇出土遺物 (7)	62	第90図	土城出土遺物 (44)	111

第91図	土壌出土遺物 (45)	112	第128図	土壌出土遺物 (4)	158
第92図	土壌出土遺物 (46)	113	第129図	土壌出土遺物 (5)	159
第93図	土壌出土遺物 (47)	114	第130図	土壌出土遺物 (6)	160
第94図	土壌出土遺物 (48)	115	第131図	土壌出土遺物 (7)	161
第95図	土壌出土遺物 (49)	116	第132図	土壌出土遺物 (8)	162
第96図	土壌出土遺物 (50)	117	第133図	土壌出土遺物 (9)	163
第97図	土壌出土遺物 (51)	118	第134図	土壌出土遺物 (10)	164
第98図	土壌出土遺物 (52)	119	第135図	土壌出土遺物 (11)	165
第99図	土壌出土遺物 (53)	123	第136図	土壌出土遺物 (12)	166
第100図	土壌出土遺物 (54)	125	第137図	土壌出土遺物 (13)	167
第101図	土壌出土遺物 (55)	126	第138図	土壌出土遺物 (14)	168
第102図	土壌出土遺物 (56)	127	第139図	土壌出土遺物 (15)	169
第103図	土壌出土遺物 (57)	128	第140図	土壌出土遺物 (16)	170
第104図	ピット	130	第141図	土壌出土遺物 (17)	171
第105図	グリッド出土遺物	131	第142図	土壌出土遺物 (18)	172
第106図	埋設桶 (1)	133	第143図	土壌出土遺物 (19)	173
第107図	埋設桶 (2)	134	第144図	土壌出土遺物 (20)	174
第108図	埋設桶出土遺物 (1)	135	第145図	土壌出土遺物 (21)	175
第109図	埋設桶出土遺物 (2)	136	第146図	土壌出土遺物 (22)	176
第110図	埋設桶出土遺物 (3)	137	第147図	土壌出土遺物 (23)	177
第111図	第1・2号井戸跡	139	第148図	土壌出土遺物 (24)	178
第112図	井戸跡出土遺物	140	第149図	土壌出土遺物 (25)	179
第113図	溝跡 (1)	141	第150図	土壌出土遺物 (26)	180
第114図	溝跡 (2)	142	第151図	土壌出土遺物 (27)	181
第115図	溝跡出土遺物 (1)	143	第152図	土壌出土遺物 (28)	182
第116図	溝跡出土遺物 (2)	144	第153図	土壌出土遺物 (29)	194
第117図	溝跡出土遺物 (3)	145	第154図	土壌出土遺物 (30)	194
第118図	土壌 (1)	148	第155図	土壌出土遺物 (31)	195
第119図	土壌 (2)	149	第156図	土壌出土遺物 (32)	196
第120図	土壌 (3)	150	第157図	土壌出土遺物 (33)	197
第121図	土壌 (4)	151	第158図	土壌出土遺物 (34)	198
第122図	土壌 (5)	152	第159図	土壌出土遺物 (35)	199
第123図	土壌 (6)	153	第160図	土壌出土遺物 (36)	200
第124図	土壌 (7)	154	第161図	土壌出土遺物 (37)	201
第125図	土壌出土遺物 (1)	155	第162図	土壌出土遺物 (38)	202
第126図	土壌出土遺物 (2)	156	第163図	土壌出土遺物 (39)	203
第127図	土壌出土遺物 (3)	157	第164図	土壌出土遺物 (40)	204

第165図	土壌出土遺物 (41)	205
第166図	土壌出土遺物 (42)	206
第167図	土壌出土遺物 (43)	207
第168図	土壌出土遺物 (44)	208
第169図	土壌出土遺物 (45)	209
第170図	土壌出土遺物 (46)	210
第171図	土壌出土遺物 (47)	211
第172図	土壌出土遺物 (48)	212
第173図	土壌出土遺物 (49)	213
第174図	土壌出土遺物 (50)	214
第175図	土壌出土遺物 (51)	215
第176図	土壌出土遺物 (52)	216
第177図	土壌出土遺物 (53)	217
第178図	土壌出土遺物 (54)	218
第179図	土壌出土遺物 (55)	219
第180図	土壌出土遺物 (56)	220
第181図	土壌出土遺物 (57)	226
第182図	土壌出土遺物 (58)	227
第183図	土壌出土遺物 (59)	228
第184図	土壌出土遺物 (60)	229
第185図	土壌出土遺物 (61)	230
第186図	土壌出土遺物 (62)	232

第187図	土壌出土遺物 (63)	233
第188図	土壌出土遺物 (64)	234
第189図	ビット	235
第190図	ビット出土遺物	235
第191図	グリッド出土遺物 (1)	236
第192図	グリッド出土遺物 (2)	237
第193図	土壌内から検出された灰白色物	257
第194図	灰白色物中の珪藻化石	258
第195図	産出した寄生虫卵	259
第196図	大型植物遺体 (1)	266
第197図	大型植物遺体 (2)	267
第198図	木材 (1)	272
第199図	木材 (2)	273
第200図	木材 (3)	274
第201図	木材 (4)	275
第202図	木材 (5)	276
第203図	漆器塗膜層断面顕微鏡写真	279
第204図	塗膜層の赤外線吸収スペクトル	280
第205図	蛍光X線スペクトル (朱漆)	280
第206図	栗橋宿跡第7地点の区画	281
第207図	火災処理に係る土壌	283

表 目 次

第1表	周辺の遺跡一覧	7
第2表	第一面建物跡一覧表	20
第3表	建物跡出土遺物観察表 (1)	28
第4表	建物跡出土遺物観察表 (2)	28
第5表	建物跡出土遺物観察表 (3)	28
第6表	建物跡出土遺物観察表 (4)	29
第7表	埋設桶出土遺物観察表	31
第8表	第一面埋設桶一覧表	31
第9表	第一面杭列一覧表	31
第10表	杭列出土遺物観察表	32
第11表	第一面溝跡一覧表	34
第12表	溝跡出土遺物観察表 (1)	41

第13表	溝跡出土遺物観察表 (2)	43
第14表	第一面土壌一覧表	44
第15表	土壌出土遺物観察表 (1)	81
第16表	土壌出土遺物観察表 (2)	91
第17表	土壌出土遺物観察表 (3)	91
第18表	土壌出土遺物観察表 (4)	93
第19表	土壌出土遺物観察表 (5)	98
第20表	土壌出土遺物観察表 (6)	106
第21表	土壌出土遺物観察表 (7)	120
第22表	土壌出土遺物観察表 (8)	124
第23表	土壌出土遺物観察表 (9)	128
第24表	第一面ビット一覧表	130

第25表	グリッド出土遺物観察表	131
第26表	第二面埋設桶一覧表	132
第27表	埋設桶出土遺物観察表(1)	137
第28表	埋設桶出土遺物観察表(2)	138
第29表	埋設桶出土遺物観察表(3)	138
第30表	第二面井戸跡一覧表	138
第31表	井戸跡出土遺物観察表	140
第32表	第二面溝跡一覧表	140
第33表	溝跡出土遺物観察表(1)	144
第34表	溝跡出土遺物観察表(2)	145
第35表	第二面土城一覧表	147
第36表	土城出土遺物観察表(1)	182
第37表	土城出土遺物観察表(2)	194
第38表	土城出土遺物観察表(3)	194
第39表	土城出土遺物観察表(4)	196
第40表	土城出土遺物観察表(5)	197
第41表	土城出土遺物観察表(6)	220
第42表	土城出土遺物観察表(7)	227
第43表	土城出土遺物観察表(8)	233
第44表	土城出土遺物観察表(9)	235
第45表	第二面ビット一覧表	235
第46表	ビット出土遺物観察表	236

第47表	グリッド出土遺物観察表(1)	237
第48表	グリッド出土遺物観察表(2)	237
第49表	第7地点文字資料積文	238
第50表	写真掲載文字資料一覧表	239
第51表	第一面瓦計測表	241
第52表	第二面瓦計測表	242
第53表	第一面出土具類一覧表	243
第54表	第二面出土具類一覧表	243
第55表	出土遺物一覧表	244
第56表	主要遺構出土遺物組成表	250
第57表	遺構時期推定一覧表	253
第58表	分析試料とその特徴	255
第59表	湿式篩分け・重液分離の結果	256
第60表	堆積物中の珪藻化石産出表	256
第61表	粒子のX線分析結果	258
第62表	分析資料一覧	259
第63表	試料の計量値と寄生虫卵数	259
第64表	出土した大型植物遺体	260
第65表	種実同定結果	263
第66表	主な種実遺体の計測値	264
第67表	樹種同定結果	270

写真図版目次

巻頭図版1	出土髪飾り
2	出土下駄
図版1	1 調査区遠景(南から)
2	調査区全景(北から)
図版2	1 第一面全景(南から)
2	第二面全景(南東から)
図版3	1 第2～4号建物跡、第9・10号溝跡
2	第2号建物跡
3	第2号建物跡南辺
4	第2号建物跡捨杭検出状況
5	第2号建物跡北辺
6	第3号建物跡

7	第4号建物跡
8	第5号建物跡
図版4	1 第5号建物跡西辺
2	第5号建物跡捨杭検出状況
3	第5号建物跡東辺
4	第5号建物跡西辺
5	第5号建物跡南辺
6	第5号建物跡北辺
7	第1号埋設桶
8	第2号埋設桶
図版5	1 第4号埋設桶
2	第5・6号埋設桶

	3	第8号埋設桶遺物出土状況
	4	第9号埋設桶
	5	第9号埋設桶遺物出土状況
	6	第13号埋設桶
	7	第15号埋設桶
	8	第1号井戸跡
図版6	1	第2号井戸跡
	2	第2号杭列
	3	第5号杭列
	4	第1号溝跡
	5	第2号溝跡
	6～8	第3号溝跡(1)～(3)
図版7	1	第4号溝跡
	2	第5号溝跡
	3	第6号溝跡
	4	第7号溝跡
	5・6	第8号溝跡(1)・(2)
	7	第9号溝跡
	8	第10号溝跡
図版8	1	第3号土壇
	2	第4・6・18・19号土壇
	3	第10号土壇遺物出土状況
	4	第11号土壇遺物出土状況
	5	第12号土壇遺物出土状況
	6	第14号土壇
	7	第16・17・56号土壇
	8	第21号土壇遺物出土状況
	9	第22号土壇遺物出土状況
	10	第34～37号土壇
	11	第42号土壇遺物出土状況
	12	第45号土壇
	13	第47号土壇
	14・15	第50号土壇遺物出土状況 (1)・(2)
	16	第61号土壇
	17	第65号土壇遺物出土状況
	18	第66号土壇

図版9	1	第67号土壇
	2	第67号土壇遺物出土状況
	3	第73号土壇
	4	第75・76号土壇
	5	第79号土壇遺物出土状況
	6	第80号土壇遺物出土状況
	7	第81号土壇遺物出土状況
	8	第82号土壇遺物出土状況
	9	第87・93号土壇遺物出土状況
	10	第90号土壇遺物出土状況
	11	第95号土壇遺物出土状況
	12	第96号土壇
	13	第100・123号土壇
	14	第100・123号土壇遺物出土状況
	15	第104号土壇
	16	第104号土壇遺物出土状況
	17	第105号土壇遺物出土状況
	18	第106・107号土壇遺物出土状況
図版10	1	第107号土壇遺物出土状況
	2	第111・112号土壇遺物出土状況
	3	第111号土壇遺物出土状況
	4	第117・118・138号土壇
	5	第122号土壇遺物出土状況
	6	第125・126・137号土壇
	7～10	第129号土壇遺物出土状況 (1)～(4)
	11	第130号土壇遺物出土状況
	12	第132号土壇遺物出土状況
	13	第139号土壇遺物出土状況
	14	第143号土壇
	15	第144号土壇
	16	ビット3
	17	ビット6
	18	ビット6遺物出土状況
図版11	1	第3号溝跡出土遺物
	2～5	第4号土壇出土遺物
	6・7	第6号土壇出土遺物

	8	ヨーロッパ陶器集合	2	第72号土壌出土遺物
	9	第15号土壌出土遺物	3～7	第78号土壌出土遺物
	10	第25号土壌出土遺物	8～13	第144号土壌出土遺物
	11	植木鉢集合	14～16	第145号土壌出土遺物
	12・13	第35・36号土壌出土遺物	17～20	文字資料
	14	第48号土壌出土遺物	図版17	1 第5号建物跡、文字資料
図版12	1	第67号土壌出土遺物		2～13 文字資料
	2	第73号土壌出土遺物	図版18～22	文字資料
	3～5	第144号土壌出土遺物	図版23	1～7 文字資料
	6～8	第145号土壌出土遺物	8	第80号土壌出土遺物
	9	第82号土壌出土遺物	9～11	第81号土壌出土遺物
	10・11	第95号土壌出土遺物	12～14	第82号土壌出土遺物
図版13	1	第95号土壌出土遺物	図版24	1～4 第82号土壌出土遺物
	2～7	第111号土壌出土遺物	5	第93号土壌出土遺物
	8	第122号土壌出土遺物	6	第95号土壌出土遺物
	9	第129号土壌出土遺物	7	第107号土壌出土遺物
	10	グリッド出土遺物	8～10	第122号土壌出土遺物
図版14	1	第5号建物跡出土遺物	11～19	第132号土壌出土遺物
	2～4	第3号溝跡出土遺物	20	第134号土壌出土遺物
	5	第3号土壌出土遺物	21	第136号土壌出土遺物
	6・8	第4号土壌出土遺物	22～24	文字資料
	7・9～11	第6号土壌出土遺物	図版25	1 第一面土製品小壺
	12	第11号土壌出土遺物	2	第11号土壌出土遺物
	13	第15号土壌出土遺物	3	第19号土壌出土遺物
	14～17	第19号土壌出土遺物	4・17	第48号土壌出土遺物
	18	第21号土壌出土遺物	5	第二面土製品小壺
	19・20	第24号土壌出土遺物	6	第98号土壌出土遺物
図版15	1・2	第22号土壌出土遺物	7	第6号土壌出土遺物
	3	第25号土壌出土遺物	8	第14号土壌出土遺物
	4	第27号土壌出土遺物	9	第38号土壌出土遺物
	5	第28号土壌出土遺物	10・16	第45号土壌出土遺物
	6・7	第33号土壌出土遺物	11	第144号土壌出土遺物
	8	第34号土壌出土遺物	12・13	第82号土壌出土遺物
	9	第35・36号土壌出土遺物	14	第8号溝跡
	10～12	第42号土壌出土遺物	15	第4号土壌
	13～18	第48号土壌出土遺物	図版26	1 第67号土壌出土遺物
図版16	1	第59号土壌出土遺物	2	第75・76号土壌出土遺物

	3～5 第144号土城出土遺物		13・15・16 第95号土城出土遺物
	6 第145号土城出土遺物		17 第101号土城出土遺物
	7 第8号埋設桶出土遺物		18 第107号土城出土遺物
	8 第122号土城出土遺物	図版29	1～3 第107号土城出土遺物
	9 第129号土城出土遺物		4・5 第111号土城出土遺物
	10 第86号土城出土遺物		6 第116号土城出土遺物
	11 第一面泥面子		7～12 第122号土城出土遺物
	12 第二面泥面子		13 第123号土城出土遺物
図版27	1 第5号建物跡出土遺物		14 第129号土城出土遺物
	2 第2号溝跡出土遺物		15 第130号土城出土遺物
	3 第43号土城出土遺物	図版30	1・2 第130号土城出土遺物
	4 第70号土城出土遺物		3 第132号土城出土遺物
	5～8・12 第144号土城出土遺物		4 第133号土城出土遺物
	9 第6号土城出土遺物		5 第142号土城出土遺物
	10 第10号土城出土遺物		6 第一・二面簪
	11 第42号土城出土遺物		7 第一面金属製品
	13 第24号土城出土遺物		8 第一・二面煙管
	14 第6号溝跡出土遺物	図版31	1 第二面金属製品
	15 第79号土城出土遺物		2 第6号溝跡鉄滓
	16 第95号土城出土遺物		3 第12号土城出土遺物
	17 第103号土城出土遺物		4 第6号土城出土遺物
	18 第111号土城出土遺物		5 第130号土城出土遺物
	19 第122号土城出土遺物		6 第132号土城出土遺物
図版28	1 第25号土城出土遺物		7～9 第144号土城出土遺物
	2 第33号土城出土遺物		10 第145号土城出土遺物
	3 第67号土城出土遺物	図版32	1 第一面磨石
	4 第45号土城出土遺物		2 第一面砥石
	5・6 第144号土城出土遺物		3 第一面硯
	7 第6号埋設桶出土遺物		4～7 第2号建物跡基礎石1～4
	8 第79号土城出土遺物		8 第二面石製品
	9 第83号土城出土遺物		9 第107号土城出土遺物
	10～12・14 第93号土城出土遺物	図版33～36	文字資料(木製品)

I 発掘調査の概要

1 発掘調査に至る経過

国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所では「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画【大臣管理区間】」に基づき、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業として、利根川右岸の堤防を拡幅し、強化する事業を進めている。

埼玉県教育局市町村支援部文化資源課では、国が実施するこうした公共開発事業に係る埋蔵文化財の保護について、従前より関係機関と事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に係る埋蔵文化財の所在及び取扱いについては、利根川上流河川事務所長から平成17年1月20日付け利上沿第18号で、埼玉県教育委員会教育長あて、埋蔵文化財の所在及びその取扱いについて照会がなされた。

事業予定区域については埼玉県指定旧跡や周知の埋蔵文化財包蔵地が所在すること、埋蔵文化財の詳細な状況等を把握するための確認調査を実施する必要がある旨を、平成17年3月17日付け教生文第1780号で回答した。

当該箇所については、近世絵図等から栗橋宿の範囲であることは明らかであったが、遺構の状況等を把握するために平成23年12月に試掘調査を実施した。その結果、近世の遺構、遺物が多量に検出され、「栗橋宿跡」(No.86-011)として埋蔵文化財包蔵地として登載した。

上記の埋蔵文化財の所在が明確になったことから、利根川上流河川事務所長あてに、計画上やむ

を得ず現状を変更する場合は、記録保存のための発掘調査が必要な旨を回答し、取扱いについて協議を重ねたが、現状保存が困難であることから記録保存の措置を講ずることとなった。

調査に際し、発掘調査実施機関である公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団と、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所、生涯学習文化財課(当時)の三者で、工事日程、調査計画、調査期間などについて定期的に会議を開催し、各種の調整を行った。

文化財保護法第94条の規定による埋蔵文化財発掘通知が利根川上流河川事務所長から平成24年2月9日付け国関利上沿第27号で、埼玉県教育委員会教育長あてに提出された。それに対する埼玉県教育委員会教育長からの発掘調査が必要な旨の勧告は下記のとおりでである。

平成24年2月9日付け教生文第4-1337号

また、同法第92条の規定により公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から提出された発掘調査届に対する埼玉県教育委員会教育長からの指示通知は下記のとおりでである。

平成26年7月4日付け教生文第2-23号

(埼玉県教育局市町村支援部文化資源課)

2 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

栗橋宿跡第7地点の調査は首都圏氾濫区域堤防強化対策工事に先立ち、平成26年度に実施した。調査面積は3,214㎡である。

第7地点の調査は、平成26年7月1日から平成27年3月31日まで実施した。

事前準備として7月1日から7日に囲柵の設置、7月1日に発掘調査事務所の設置を行った。

重機による表土除去作業を7月8日から8月8日に実施し、第一面の調査を開始した。8月14日からは補助員による作業を開始し、遺構確認作業を行った。8月7日から11日に遺構測量用の基準点測量及びグリッド杭打設作業委託を実施した。

遺構確認作業の結果、建物跡、埋設桶、杭列、溝跡、土壌などの遺構が検出された。確認された遺構は掘削・精査を行い、順次遺構断面図、平面図、写真撮影等の記録作成作業を行った。

第一面の調査終了後、12月1日から16日にかけて重機による掘削作業を行い、第二面の調査を開始した。12月17日から22日に基準点測量及びグリッド杭打設作業委託を実施した。

遺構確認作業の結果、埋設桶、井戸跡、溝跡、土壌が検出された。順次、遺構の精査、遺構断面図、平面図、写真撮影等の記録作成作業を行った。

平成27年1月に自然科学分析委託を行い、大型植物遺体、土壌分析、寄生虫卵分析を実施した。2月27日に空中写真撮影委託を実施した。

3月13日まで補助員作業を実施した。その後、重機による危険箇所の埋め戻し、器材の撤収、発掘調査事務所の撤去を行い、現地調査を終了した。3月25日に発見届(幸手警察署長宛)と保管証(埼玉県教育委員会宛)を提出した。

(2) 整理・報告書の作成

整理報告書の作成作業は、平成30年9月1日から令和元年10月31日までの二箇年度にわたって実施した。平成30年度は、建物跡、井戸跡、溝跡、杭列、埋設桶と出土遺物、令和元年度は土壌と出土遺物を対象に整理を行った。

各年度の作業は、出土遺物の水洗・注記から開始し、接合・復元作業に着手した。復元を終えた遺物は順次実測、トレース、採拓を経て、パソコンで印刷用の挿図を作成した。実測には磁気式3次元位置計測装置、正射投影画像撮影機を活用した。版組が終了した遺物については図版用の遺物写真を撮影し、遺物写真図版を作成した。

同時に、発掘調査で記録した遺構の断面図や平面図等を照合し、修正を加えた第二原図を作成した。第二原図は仮版組を行った上で、スキャナでパソコンに取り込み、画像編集ソフトを用いてトレースした。土層説明等を組み込んで印刷用の挿図版下データを作成した。

自然科学分析は木製品の樹種同定、大型植物遺体の種実同定、漆塗膜分析を委託した。口絵写真は、特徴的な遺物を対象に令和元年9月に写真撮影を委託した。

遺構・遺物のデータ、自然科学分析結果等を基に、原稿執筆を行った。また、遺構・遺物の挿図と写真図版等を組み合わせて、報告書の割付・編集を行った。入稿後、3回の校正を経て、令和元年12月20日に埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第458集『栗橋宿跡Ⅳ』(本書)を刊行した。

図面や写真などの記録類や遺物は、令和元年10月に整理分類のうえ、埼玉県文化財収蔵施設の収蔵庫へ仮収納した。

3 発掘調査・報告書作成の組織

平成26年度（発掘調査）

理 事 長	樋 田 明 男
常務理事兼総務部長	大 嶋 紳一郎
総務部	
総 務 部 副 部 長	瀧 瀬 芳 之
総 務 課 長	藤 倉 英 明

調査部

調 査 部 長	昼 間 孝 志
調 査 部 副 部 長	富 田 和 夫
主幹兼調査第二課長	木 戸 春 夫
主 査	山 本 禎
主 事	坂 下 貴 則

平成30年度（整理・報告書作成）

理 事 長	藤 田 栄 二
常務理事兼総務部長	川 目 晴 久
総務部	
総 務 部 副 部 長	田 中 広 明
総 務 課 長	新 井 了 悟

調査部

調 査 部 長	瀧 瀬 芳 之
調査部副部長兼整理第二課長	山 本 靖
主 任	矢 部 瞳

平成31年度（整理・報告書作成）

理 事 長	藤 田 栄 二
常務理事兼総務部長	高 津 導
総務部	
総 務 部 副 部 長	山 本 靖
総 務 課 長	新 井 了 悟

調査部

調 査 部 長	黒 坂 禎 二
調査部副部長兼整理第一課長	上 野 真由美
主幹兼整理第二課長	福 田 聖
主 任	矢 部 瞳

II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

栗橋宿跡第7地点は、久喜市栗橋中央二丁目3521-2他に所在する。J R宇都宮線、東武日光線の栗橋駅から北東0.8kmにあたる。久喜市は埼玉県北東部に位置し、利根川を挟んで茨城県古河市、五霞町に接している。J R宇都宮線、東武日光線が通り、国道4・125号、県道3号さいたま栗橋線・12号川越栗橋線が交差する、県北東部における鉄路・陸路の結節点である。

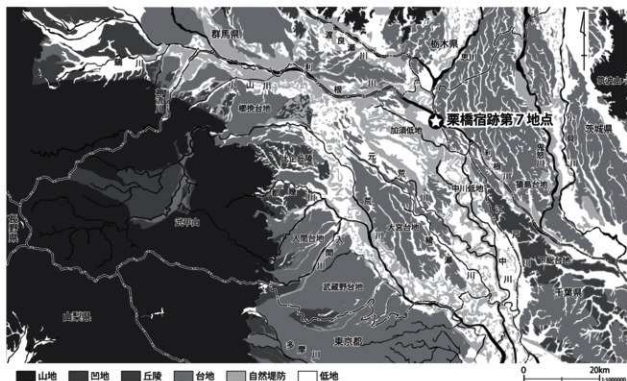
久喜市は平成22年に久喜市・栗橋町・菖蒲町・鷲宮町が合併して、新市としての久喜市となった。旧栗橋町域は現在でも栗橋地区と称されている。

栗橋地区は日光街道の宿場町として栄え、南流する利根川を用いた舟運と合わせて、現代に至るまで大いに賑わいをみせている。また、市街を離れると、水田の中に自然堤防に沿った帯状の屋敷林が点在する景観となる。

遺跡は中川低地の北に位置している。中川低地は関東平野のほぼ中央、利根川中流域低地である加須低地の南東側に当たる。南側は大宮台地、東側は利根川を越えて古河台地になる。

妻沼低地、加須低地付近は関東造盆地運動の最も沈降の度合いが強い地域として知られ、現在でも沈降が進んでいる。羽生市小松1号墳が地下約3mに埋没しているのは、沈降が進んだ結果である(矢口・瀧瀬1996)。沈降前の利根川は現在の荒川筋を流れており、この造盆地運動によって現在の利根川の方へと東遷したとされている。しかし、その流路は安定せず、多くの蛇行する流路跡とそれに伴う自然堤防が形成された。

近世初頭段階の利根川本流筋として、会の川、合の川、利根川分流、北川辺蛇行流路、島川、渡良瀬川、浅間川、大落古利根川、庄内古川が考え



第1図 埼玉県の地形

られ、それ以外にも細かな流路が推定される。

中川低地にはこうした多くの河川の流下によって、砂礫が多く供給され、その両岸には自然堤防が発達した。また、浅間川と会の川が大落古利根川に合流する久喜市（旧栗橋町）高柳には、大河の証しである河畔砂丘が形成され、微高地として旧鷲宮町以南に連続して分布している。

栗橋宿跡は、近世初頭以前に渡良瀬川の右岸に

形成された北西－南東方向の長さ約300m、幅120mほどの自然堤防上に立地している。後述する江戸幕府に始まる東遷事業後は、遺跡の北を流れることとなった利根川の右岸に位置し、現在では利根川の堤防に接している。遺跡付近の標高は11～12mで、南側の後背湿地に営まれる水田との比高差は約1.0mである。遺構の覆土や地山は、砂質もしくはシルト質である。

2 歴史的環境

（1）中世の栗橋とその周辺

栗橋宿跡の所在する中川低地周辺の地表は、地形の沈降と河川の乱流による堆積土に厚く覆われている。

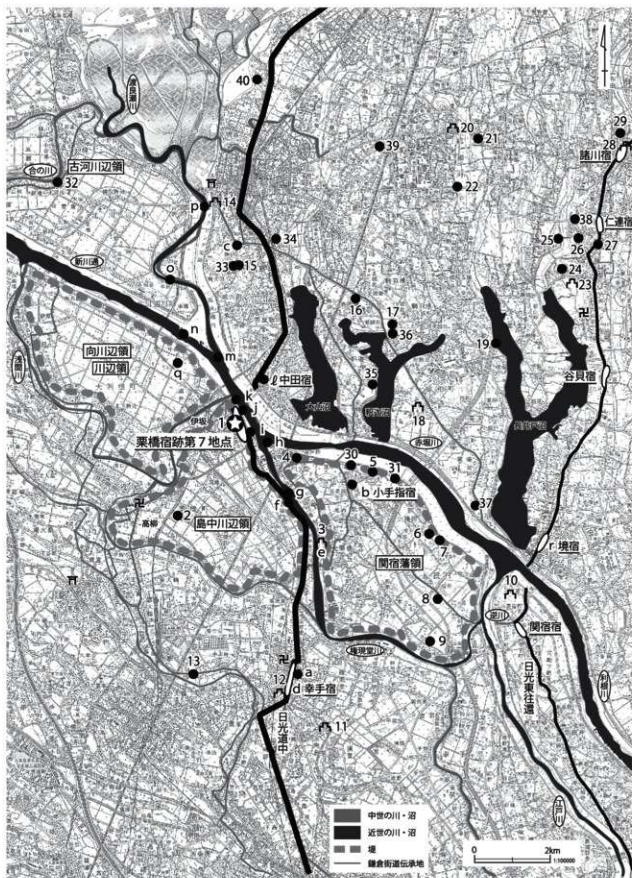
旧大利根町や旧栗橋町などの地域では、中世の遺跡はほとんど検出されていない。唯一、旧栗橋町の佐間小草原遺跡（2）が知られるのみである。

一方、渡良瀬川（太日川）の左岸、および権現堂川の左岸では、栗橋城址、古河城址をはじめとする数多くの遺跡が知られている。

近世初期までの「栗橋」といえば、現在の茨城県猿島郡五霞町の元栗橋を指す。享徳4年（1455）の享徳の乱後、御座所を古河に移した鎌倉公方足利成氏が古河公方と称して以降、元栗橋にはその



第2図 栗橋宿跡周辺の地形



第3図 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡一覧（第3図）

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	栗橋宿本陣跡・栗橋宿跡	21	本田山遺跡	a	田宮町
2	佐間小草原遺跡	22	蔵王遺跡	b	小手指宿
3	栗橋城址	23	東の門西の門城址	c	徳政院
4	宿北・宿東遺跡	24	北山田北久保遺跡	d	拳手宿
5	釈迦新田遺跡	25	御領遺跡	e	道標
6	同所新田遺跡	26	大膳屋敷跡	f	一里塚
7	新田遺跡	27	関根家族屋敷跡	g	勘平の渡し
8	板井前遺跡	28	諸川西門城址	h	川妻の渡し
9	瀬沼遺跡	29	本田遺跡	i	下河岸跡
10	関宿城址	30	上原遺跡	j	栗橋河岸
11	天神島城址	31	殿山塚	k	房川の渡し
12	拳手城址	32	碓井陣屋遺跡	l	中田宿
13	渡辺氏原敷跡	33	城地遺跡	m	本郷渡し
14	古河城址	34	石行塚遺跡	n	中渡し
15	酒薬館跡	35	羽黒遺跡	o	鈴木の渡し
16	磯部館跡	36	釈迦才伝遺跡	p	古河の渡し
17	香取東遺跡	37	清水遺跡	q	旗井小学校
18	水海城址	38	新屋敷遺跡	r	境宿
19	向坪B遺跡	39	大塚遺跡		
20	円満寺城址（小堀城址）	40	野木宿遺跡		

支城の栗橋城（3）が置かれた。

鎌倉街道中ツ道（奥州道）の利根川の渡河点があった栗橋城は、水陸の要衝として後北条氏の関宿城（10）攻略の拠点となった。天正2年（1574）に関宿城開城後は北関東攻略の起点となったが、豊臣秀吉の小田原攻めにより天正18年（1590）に開城する。

古河城（14）も栗橋城同様に、後北条支配下の足利氏によって戦国城郭として整えられたが、やはり小田原攻めによって破却された。その後、徳川家康に従っていた小笠原秀征が古河城を修復し、近世以降も幕閣を含む歴代の城主によって拡張され、古河は城下町として栄えていく（古河市史編さん委員会1985、茨城県古河市教育委員会2004）。

（2）近世の栗橋とその周辺

利根川の改修

近世の栗橋に大きな影響を与えたのが、利根川改修事業、所謂利根川の東遷である。徳川幕府は、家康の関東入府後早々に利根川の改修に着手した。それまでの本流であった浅間川、会の川、古利根

川の川筋から、新川通、赤堀川を開削して常陸川に結び、合わせて権現堂川を介して江戸川とつなぐ大規模な流路変更で、利根川東遷事業として知られている。その目的は、江戸を水害から守るためという治水が第一義とされてきた。また、古河城を合わせた江戸の北の防衛線とする説も知られている。最近では、「内川廻し」と呼ばれる内陸航路の確保、水田開発目的とする説も有力である。

栗橋周辺では、文禄3年（1594）忍城主松平忠吉の命を受けた忍藩家老小笠原三郎左衛門が羽生市上新郷で会の川を締め切ったのに端を発する。元和7年（1621）には、利根川と常陸川を結びつける意図のもとに旧大利根町佐波から旧栗橋町中渡までの新川通、五霞町川妻から境町長井戸への赤堀川が開削された。しかし、当初の赤堀川の掘削は失敗に終わり猿島郡釈迦沼にまでしか至らず、現在の五霞町域に甚大な被害をもたらした。その後、2度の拡張、増掘（二番堀、三番堀）を経て、漸く承応3年（1654）に通水に成功した。銚子へ至る新たな利根川的主流路が形成されたのである。

更に、天保9年(1838)に合の川と浅間川が完全に締め切られ、利根川の流れは新川通の流路へと一本化され、現在に至っている。

利根川本流の開削、整備とは別に、天正4年(1576)の権現堂堤の築堤に始まる五霞町、幸手市域でも大規模な河川改修が行われた。赤堀川通水以前の利根川では、寛永18年(1641)に逆川が開削される。これにより常陸川と寛永12年(1635)から開削が進められていた江戸川が、関宿の北で繋がった。江戸川は、更に拡張工事が進められ正保元年(1644)に完成し、前述の赤堀川三番堀の完成以前は、利根川、渡良瀬川両大河の水は、一部逆川を介して常陸川に注ぐものの、ほとんどはこの江戸川を流れていた。

このような利根川を中心とした河川改修の結果、前述の「内川廻し」の航路とともに、利根川上流域の上野、渡良瀬川上流域の下野との航路が確保され、北関東が江戸を中心とする経済圏の一部となった。また、利根川、荒川両大河の河川改修は、埼玉平野に広大な新田開発をもたらし、航路の開発とともに、その経済効果は絶大であった。

更に、栗橋地区を含む島中川辺領は、外縁部に囲堤が造られ河川の流路が固定されるとともに、領域全体が輪中となり、治水環境が整えられた。

日光道中と栗橋宿の成立

日光道中は、元の奥州街道のうち江戸・宇都宮間を含み込み成立したものと捉えられる。寛永13年(1636)に日光東照宮の造替が竣工し、徳川家光・家綱が盛んに社参を行うようになる頃には、日光道中としての整備も進んだと考えられる。一方、元栗橋は、利根川の河川改修による度重なる洪水が発生し、宿と房川渡しは荒廃した。そのため、栗橋宿の位置を現在地に移したようで、『栗橋町史』では、その時期を元和7年(1621)前後と想定している。なお、『新編武蔵風土記稿』では、慶長年中に池田鴨之介と並木五郎兵衛による開墾と伝え、明治45年の『栗橋町郷土誌』では、その

時期を慶長19年(1614)としている。

寛永期に入ると「今栗橋」と「元栗橋」を区別した史料がある。また、宿内深廣寺の石造名号塔群の銘文には、承応3年(1654)7月までに建てられた8基が「新栗橋」とみえるが、同年8月以降に建てられた12基は「栗橋」とのみあり、「新栗橋」「今栗橋」が「栗橋」として定着していく過程がうかがわれる。

寛永元年(1624)には栗橋関所が開設され、明治2年(1869)に関所が廃止されるまで、245年間にわたり日光道中六番目の関所として機能した。

徳川幕府は、河川改修による舟運の整備と合わせて、陸路、五街道の整備を行った。日光道中は、江戸日本橋を起点に下野国坊中までの20宿、36里11町の街道である。県内では、草加、越ヶ谷、粕壁、杉戸、幸手、栗橋宿があった。栗橋の対岸の下総側には中田、古河があり、野木、間々田、小山、新田、小金井、石橋、雀宮、宇都宮、徳次郎、大沢、今市、鉢石を経て日光坊中に至る。

栗橋宿は、江戸から14里15町、幸手から2里3町で、江戸から7番目の宿である。対岸の中田宿と合宿で、栗橋町史に引かれている『日光道中宿村大概帳』には、宿高689石余、宿往還の長さ15町13間余、宿町並10町30間、宿の家数40軒、本陣・脇本陣各1軒、旅籠屋25軒、人口1741人(男性869人、女性872人)と記されている。日光道中では規模は小さい宿場であるが、渡しを控える立地上、旅籠屋や茶店が多いのが特徴である。

また、文化文政期に編まれた『新編武蔵風土記稿』には「小名」として上町、中町、下町、三ツ俣、船戸、鍛冶町の六つの町名が記されている。このうち、栗橋宿の中心は北部の上町と船戸であり、主要な施設が集中していた。商店の多くも上町と船戸に集中し、南下するに従って農家の割合が多くなっていった。

栗橋宿跡は、当事業団が平成24年度から調査を継続している。これまでに、本陣跡、脇本陣を含

む西本陣跡に加え、宿跡の9地点を調査し、調査面積は32,000㎡に及ぶ。

合宿としての中宿宿は、宿高456石余、宿往還の長さ12町18間余、宿町並4町50間、宿の家数69軒、本陣・脇本陣各1軒、旅籠屋6軒、人口403人（男性169人、女性234人）である。

栗橋宿と舟運

利根川では舟運による輸送が発達しており、栗橋近辺でも権現堂河岸と関宿河岸が古くから知られている。栗橋河岸は、近世当初の元禄年間には年貢米を江戸へ送る「津出し湊（河岸）」ではなかったが、明和8年（1771）には中里村の、天明期（1781～89）には加須市域の水深村の津出しが行われ、近世中・後期にはその役割があった。栗橋町史に『武蔵国郡村誌』から作成した栗橋町域の明治初期の船の一覧が掲載されているが、その数610艘に上る。いかに栗橋区域が舟運と密接な生活を送っていたかが分かる。

この内、栗橋宿が有していた舟運に関わった所謂川船は、高瀬舟10艘、小高瀬舟2艘、似漣（にたりひらた）船8艘、星形船17艘である。

江戸へ向かう下り船は大豆に代表される農産物などを積み、空となった帰りの上り船には、塩、砂糖、干鰯、灰などの肥料、木綿、乾物、陶磁器などが積まれた。水揚げされた河岸場は、地域経済の要であった。

栗橋河岸には、房川渡しから堤沿いに続く舟戸町の船着き場と、やや下った利根川と権現堂川の分岐付近の下河岸があった。

栗橋関所では、船改め役を務める船問屋が船荷を改める「船改め」が行われていた。『栗橋関所史料一』によれば、船改めは享保年間（1716～36）に下河岸で行われていた。しかし浅間山噴火（1783）の泥流の影響で、利根川の川筋が変化して下河岸に接岸できなくなり、舟戸町近辺に場所を移したとされている。従って、津出し湊や、江戸との川船の往来に利用されたのは舟戸町の河岸

場と推定される。

近世の栗橋村

近世初頭では栗橋宿を含む井坂、松長、佐間、島川、広島、河原代、狐塚、中里、小右衛門の各村は幕府の蔵入地で、代官伊奈半十郎忠治によって支配されていた。伊奈氏の支配は関東諸国に及び、特に武蔵国東部の低地開発を強力に推し進めたことで知られている。その結果、開発された広大な新田は伊奈氏の支配地として引き継がれていった。利根川東遷事業による新田開発もその一環とも言えるだろう。

元禄10年（1697）の所謂元禄の地方直しでは、高柳村、高柳新田は酒井対馬守、島平村は酒井監物、広島村は久津見斧太郎、河原代村は久津見斧太郎・榊原大膳の旗本知行へ支配替えが行われた。

加えて、松長、間鎌、間鎌新田、佐間、佐間新田、井坂の各村は、18世紀中葉の延享年間（1744～48）、19世紀前半から中葉の文政年間から安政年間に徳川御三卿への支配替えとなった。

近世の周辺遺跡

栗橋周辺の近世遺跡は、日光道中と將軍の宿城である古河城を中心に展開する。

古河城（14）は、近世以降小笠原、松平、奥平、永井、土井、堀田、松平の多くの幕閣を含む歴代の城主によって、拡張、城下町の整備が行われた。特に、度々將軍の日光参詣の宿城となったため、その都度、特別な手当金が支給され整備が進んだ。

利根川の東側は、利根川の河川改修以降も、この古河城を中心として遺跡が展開している。

旧総和町香取東遺跡（17）では18～19世紀の土壌（墓域）、井戸跡、溝跡が検出された。南側に隣接する釈迦才仏遺跡（36）（茨城県教育財団1998）には、南北11.4m、東西8.4m、高さ1.0mの不整形丸方形を呈する近世後半の塚が造られた。

長井戸沼の奥になる本田山遺跡（21）は、中世に引き続き近世でも墓地として継続している。柳橋城の南側となる旧総和町向坪B遺跡（19）（茨

城東教育財団1986)からは近世の土壌、溝跡が検出され、土壌層が含まれていると考えられる。長井戸沼東側の旧鎌倉街道は栃木県多功に通ずる日光東街道として、元和年間には整備されていたとされている。街道には仁連宿、谷貝宿が設けられた。仁連宿の北、諸川には中世から続く本田遺跡(29)(技研測量設計株式会社2010)があり、17世紀後半を中心とする掘立柱建物跡、堅穴状遺構、地下式坑、土城、墓域、井戸跡、溝跡が検出された。

(3) 近世から近代への栗橋

幕末の栗橋宿

幕末の19世紀中葉には、天保の飢饉に端を発する打ちこわし、慶應2年(1866)から始まる武州世直し一揆、元治元年(1864)の水戸浪士による天狗党の乱など、社会情勢が不安定になった。栗橋でも、慶應4年(1868)羽生陣屋焼き払いに始まる打ちこわしが波及した。『足立家文書御関所日誌』には、9000人余りが宿内へ侵入し、名主良右衛門宅に放火し、仲町百姓弥平次宅、本陣池田由右衛門宅を打ちこわし、また関所へも押し入り、番士が関所から退去したとある。

明治2年2月には、葛飾県役所から関所廃止の通知が出された。番士4家は関所道具を栗橋宿へ預け、関所改めの廃止を各所に通知し、関所を引き払った。一方栗橋宿は、明治22年(1889)に町村制が施行され、北葛飾郡栗橋町となった。交通の要衝としての役割は引き継がれていった。

近代の栗橋地区

本陣池田家の池田鴨平は、明治新体制下において、葛飾県の組合取締役・勸農取締役方を務め、行政区画が埼玉県に移行すると、第八区区长となった。明治9年(1876)の明治天皇行幸に際しては、案内人を務めている。

交通網における大きな変化は、大宮～宇都宮間の鉄道敷設で、明治18年7月に栗橋駅までが開通する。当所、渡船連絡であった利根川の渡河も、翌年7月には鉄橋が架設された。一方、明治10年

内国通運会社が東京深川から栗橋を経て、生井(栃木県小山市)まで蒸気船通運丸を就航させた。同13年には長島良幸が長島丸を、同35年には栗橋の廻船問屋古川平兵衛が古川丸を就航させるが、内国通運会社との競争に敗れ撤退している。その後、鉄道の発達により、舟運は衰退し、大正8年(1919)、内国通運も撤退している。

このころの栗橋町の様子は、明治35年(1902)に全国営業便覧発行社から刊行された『埼玉県営業便覧』(以下『営業便覧』)にみることができる。『営業便覧』には当時の栗橋町の家並みが収録されており、旧日光道中の表通りには商家が連なり、回漕、運送業に関わる店が多いのも特徴である。明治31年に町の地主や商人による出資で開業した栗橋銀行や、明治33年開業の栗橋商業銀行、いずれも池田鴨平が設立に関わった栗橋学校(明治5年に私塾として開校)・淑徳女学館(明治22年)等、主要な施設が旧宿場内に設置されていたことが分かる。利根川沿いの船戸町には回漕業や料理店等が立ち並び、田山花袋が度々訪れたという鯉料理店の稲荷楼(稲荷屋)も船戸町にあった。

近世の宿場町を骨子としつつ、近代化を遂げた栗橋町であったが、前代に引き続き水害・災害と直面することも多かった。明治43年の水害では冠水を逃れたが、それ以前の明治23年の水害では栗橋町の戸数の25%強が冠水したとされる。

明治33年からは、利根川の抜本的な改修計画(利根川改修計画)が始まり船戸・鍛冶町は河川敷となる。利根川における近代治水事業は以後、継続的に実施されている。

栗橋宿跡の利根川渡河地点という立地は、交通の要衝としての発展と、水害によるリスクが表裏一体の関係にあったと言える。

引用・参考文献については、紙数の都合上全てを挙げることができない。埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第448集『栗橋宿跡Ⅰ』の引用・参考文献一覧を参照されたい。

III 遺跡の概要

栗橋宿跡の調査は、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に伴って実施したものである。栗橋宿跡は久喜市栗橋中央二丁目ほかに所在する。

栗橋宿は、慶長年間に池田鴨之助、並木五郎平らが元栗橋から移住して開宿した宿場と伝わる。南北に走る日光道中を挟んで町家が並んでいた。『日光道中宿村大概帳』には、宿高689石余、宿往還の長さ15町13間余、宿町並10町30間、宿の家数404軒、本陣・脇本陣各1軒、旅籠屋25軒、人口1741人（男性869人、女性872人）と記されている。

栗橋宿関連の発掘調査は、すでに報告された平成24年の栗橋宿所番土屋敷跡・栗橋宿跡第1地点に始まり、継続的に続けられ、調査範囲も広範囲に及ぶ。このため、調査区全体を網羅するように、大グリッドと小グリッドを組み合わせて方眼を組んでいる。詳細は凡例と第4図に示した。今回報告する栗橋宿跡第7地点は、大グリッドのF-7、G-7・8グリッドにまたがるエリアであり、栗橋宿の南部に位置している。第7地点は日光道中から東におよそ25m離れており、町家の裏手にあたる場所である（第4図）。

発掘調査は、上下二面の遺構確認面を設定して実施した。確認面の標高は、第一面で10.2m前後、第二面で9.8m前後である。

第一面で検出された遺構は、建物跡4棟、埋設桶4基、杭列7条、溝跡6条、土壇79基、ピット8基で、遺構の時期は19世紀中葉である。第二面で検出された遺構は、埋設桶10基、井戸跡2基、溝跡4条、土壇65基、ピット3基で、遺構の時期は18世紀末から19世紀前半である。

第一面では敷地を区画する杭列・溝跡が検出された。杭列・溝跡は日光道中に直交する方向に造られている。敷地内には建物跡が並び、土壇が多量造られている。

第二面では溝跡や土壇などによる区画施設が造られるが、調査区全体ではなく部分的である。第一面とは異なる位置に造られた区画施設もあり、第一面と第二面で敷地の範囲が異なる場所も存在する。

第5図の基本土層は、F7-H9からG8-B1グリッドの調査区東壁で記録を行った。栗橋宿本陣跡で報告されている火災に伴う焼土層（埼玉県埋蔵文化財調査事業団2019）、栗橋宿跡第6地点で報告された細かな整地層（埼玉県埋蔵文化財調査事業団2019）は確認されなかった。

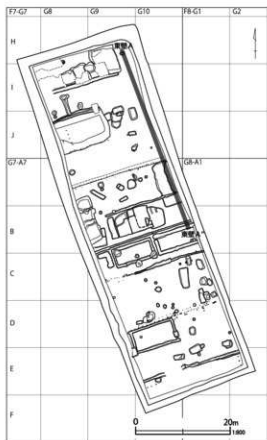
出土遺物は、土壇を中心に陶磁器類や瓦が大量に出土した。陶磁器類は、各遺構の最新期の陶磁器や特徴的な陶磁器を中心に挿入・観察表で示した。磁器では肥前系・瀬戸美濃系の碗・皿類が主体で、舶載磁器は極めて少ない。陶器では地方窯の製品が多く、次いで瀬戸美濃系、肥前系、京都信楽系が多い。

瓦類については、すべてを収蔵することが難しかったため、現地で水洗い、乾燥を行い、種別ごとに分類し、記録するように努めた。その内容は第51・52表の出土瓦計測表にまとめた。

調査地点は地下水位が高い環境である。そのため木製品が腐食せずに残存し、多く出土した。漆器などの容器類と下駄が主体で、工具や農具も少量だが出土している。

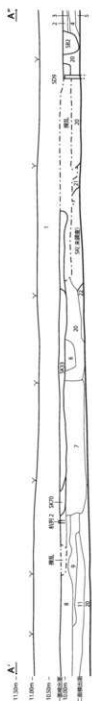
金属製品は釘が主体で、鎌・鋤・鋸、火箸、煙管、簪、縁金具など多様な器種が出土している。銭貨は、寛永通宝が主体である。石製品では砥石が多く、次いで硯や火打石が多い。他に硝子製品が少量、玩具類、貝類や種子類、動物・魚骨等の自然遺物も一定量出土している。これらの遺物については、第55表の出土遺物一覧表に数量を示し、各遺構の出土遺物について触れる中で、その傾向について記述する。



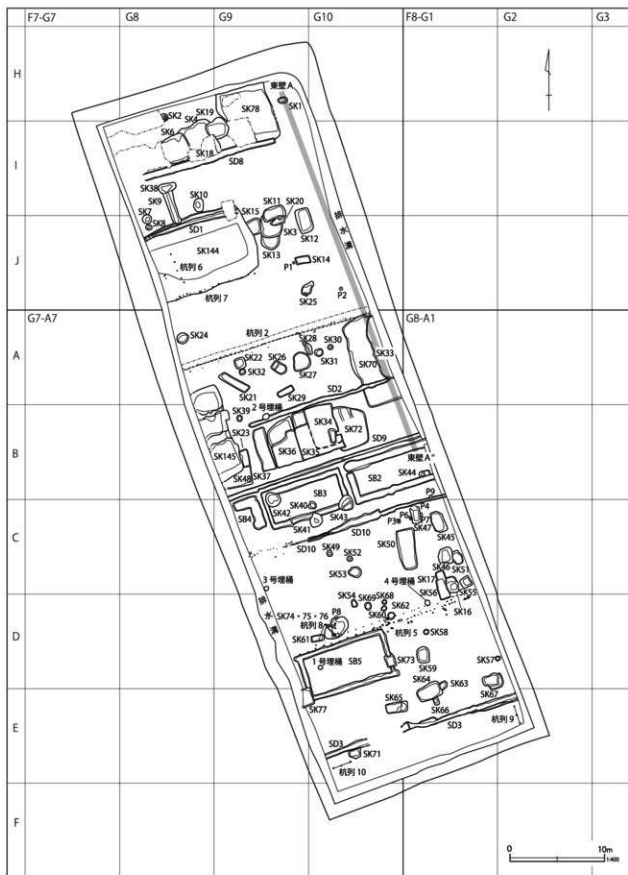


調査区東壁

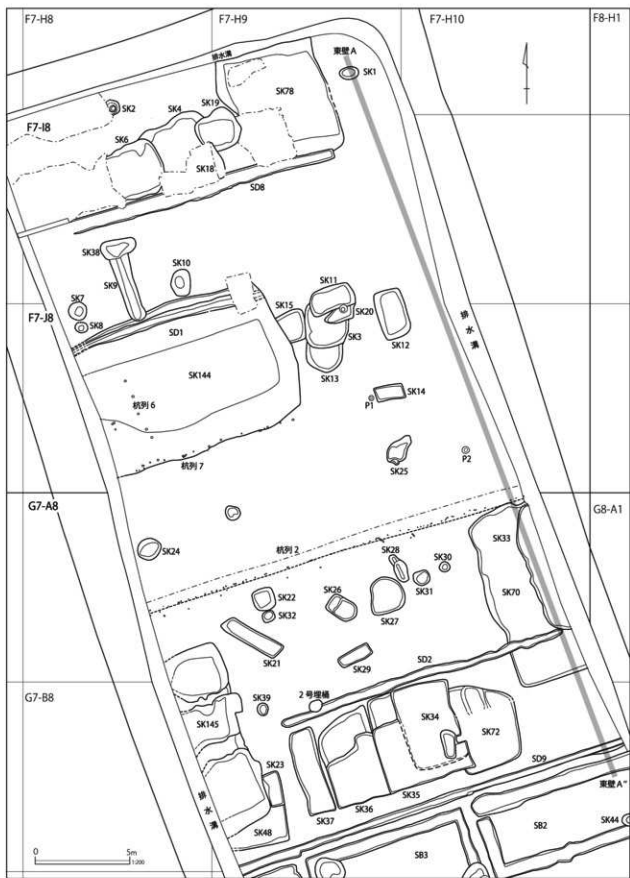
- | | | |
|----|-------|--------------------|
| 1 | 表土 | |
| 2 | 黄褐色砂 | 砂質 |
| 3 | 灰黄色土 | |
| 4 | 褐色土 | |
| 5 | 暗黄褐色土 | 褐色土含む しまり強 |
| 6 | 灰褐色土 | 粘質 木材・陶磁器含む |
| 7 | 濃褐色土 | 粘質 褐色粘土ブロック含む しまり強 |
| 8 | 灰黄褐色土 | 粘質 褐色土多量 |
| 9 | 暗灰色土 | 粘質 褐色ブロック少量 |
| 10 | 暗灰色土 | 木材・灰化物多量 |
| 11 | 暗黄褐色土 | 褐色土多量 灰化物少量 |
| 12 | 暗灰色土 | 褐色土砂層 |
| 13 | 暗灰色土 | 粘質 しまり強 |
| 14 | 濃褐色土 | 20層より黄褐色土多量 |
| 15 | 灰褐色土 | 褐色土粒子多量 |
| 16 | 灰褐色土 | 灰化物少量 |
| 17 | 灰色土 | 褐色土多量 |
| 18 | 暗黄褐色土 | 砂層 |
| 19 | 暗褐色土 | 砂層 灰色粘土ブロック微量 |
| 20 | 濃褐色土 | 灰色粘土多量 しまり強 |
| 21 | 暗褐色土 | 砂層 白色砂粒含む |
| 22 | 黒色土 | 粘質 しまり強 |
| 23 | 暗灰色土 | 粘質 |
| 24 | 暗灰色土 | 砂層 |
| 25 | 灰色土 | 灰化物少量 |



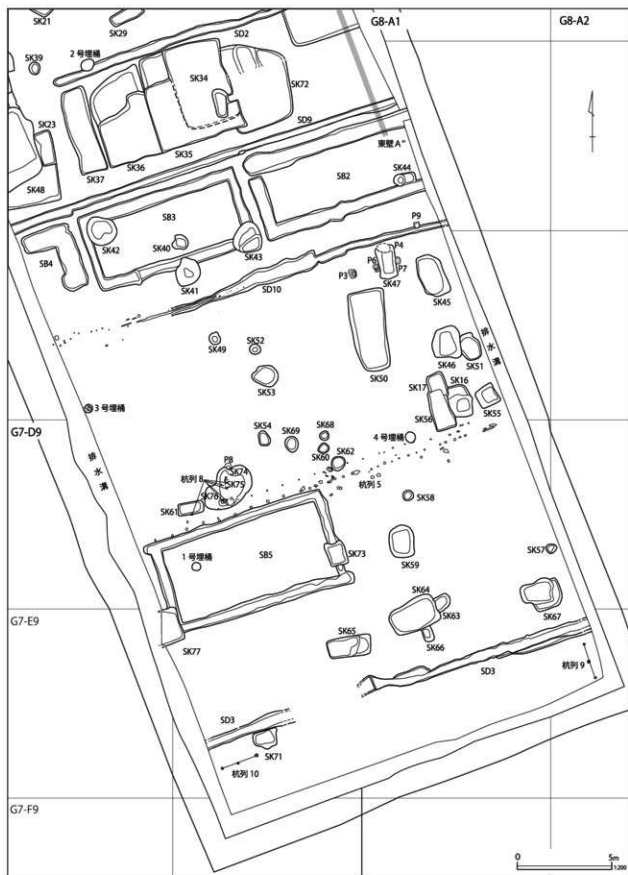
第5図 基本土層



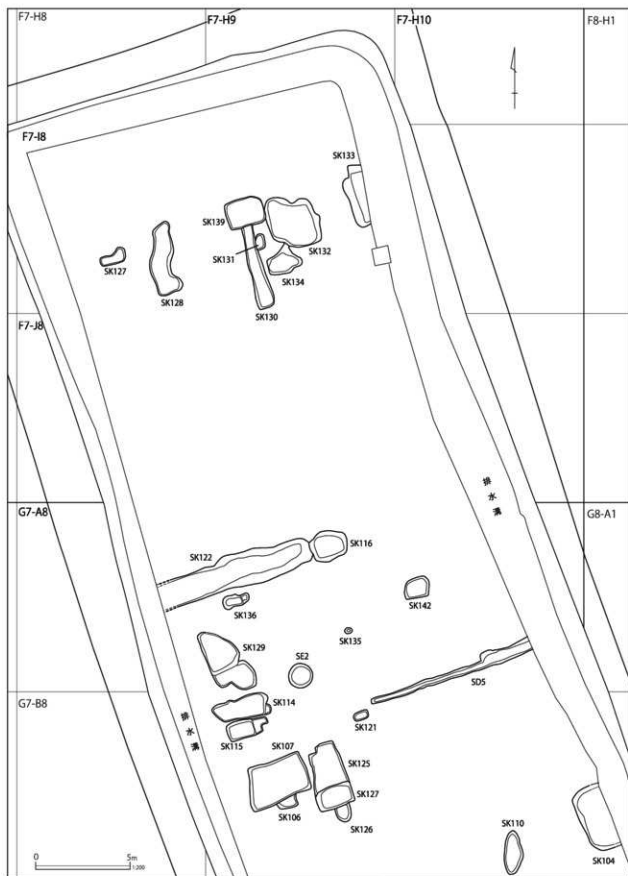
第6図 第一面遺構全体図



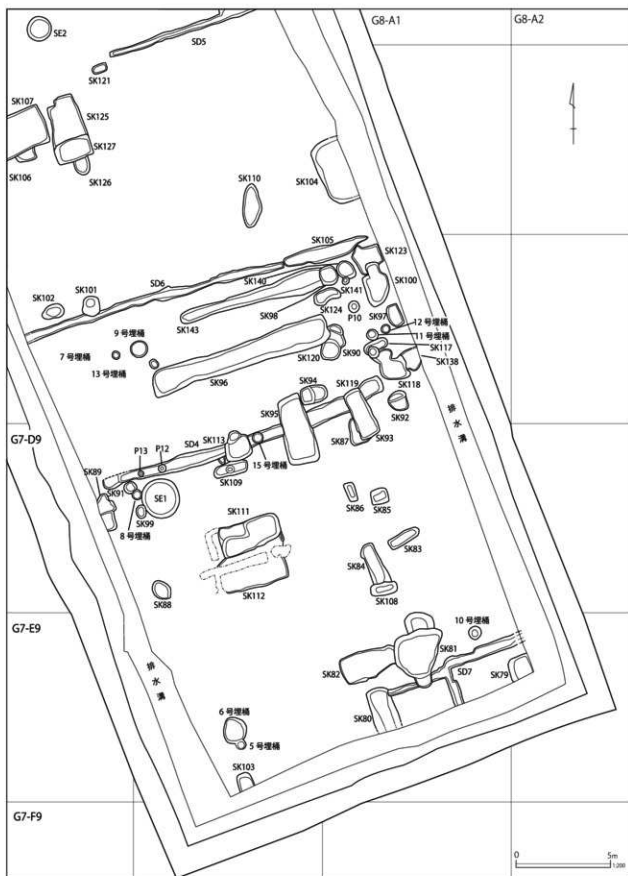
第7图 第一面遺構分割図(1)



第8図 第一面遺構分割図(2)



第10図 第二面遺構分割図(1)



第11图 第二面遺構分割図(2)

IV 遺構と遺物

1 第一面の遺構と遺物

第一面では建物跡4棟、埋設桶4基、杭列7条、

(1) 建物跡

溝跡6条、土城79基、ピット8基が検出された。

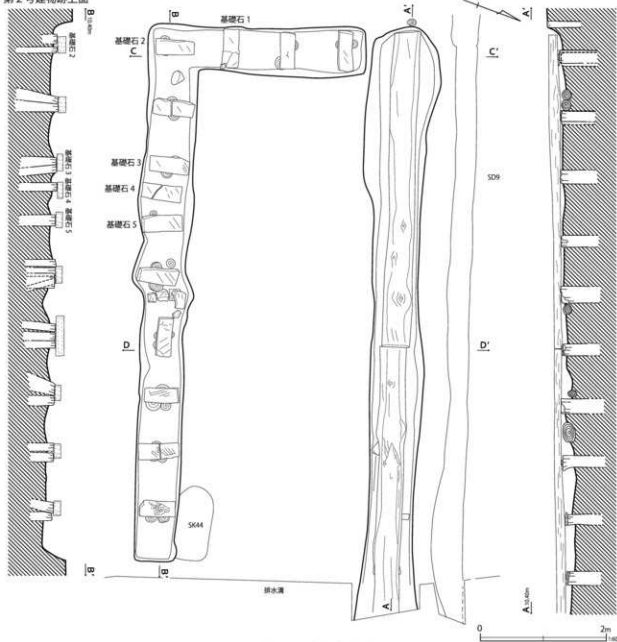
建物跡は4棟検出された。位置、規模等の基本

第2表 第一面建物跡一覧表

単位：m

番号	グリッド	桁行(長軸)	梁行(短軸)	桁行推定	梁間推定	深さ	方位	備考
2	G7-B10, C10, G8-B1	(9.92)	4.75	(8.90)	3.82	0.49	N-72°-E	SK44より新
3	G7-B9/10, C9/10	8.78	4.45	8.15	3.70	0.16	N-72°-E	SK40・41・42・43より古
4	G7-B9, C9	3.63	2.72	(1.80)	(2.65)	0.22	N-71°-E	
5	G7-D9/10, G7-E9/10	10.13	5.40	9.10	4.60	0.35	N-72°-E	SK73・77より新 桶1重複

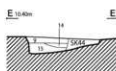
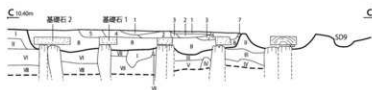
第2号建物跡上面



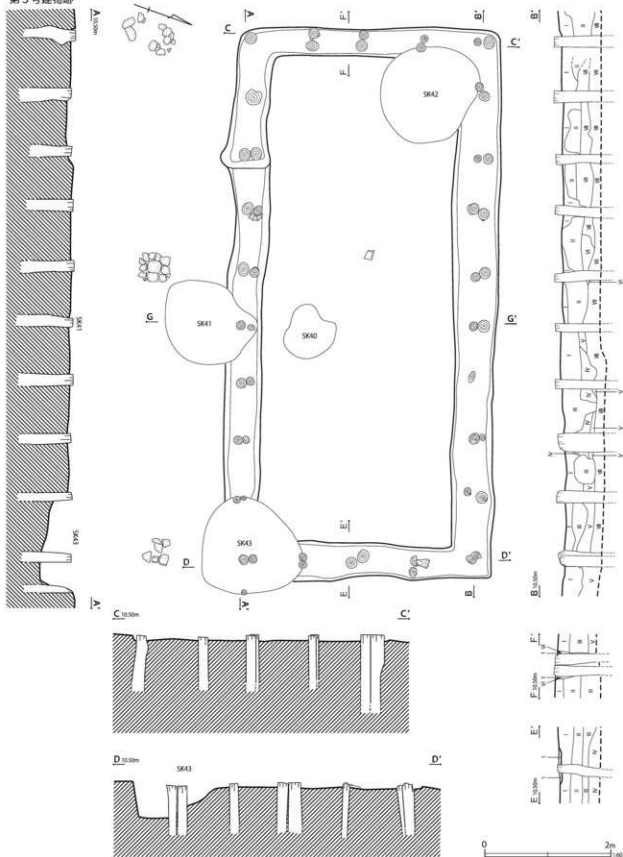
第12図 建物跡(1)

Archaeological plan and profile of Site 509. The plan view (top) shows a large rectangular structure with an internal partition, labeled with letters A, B, C, D, E, F and A', B', C', D', E', F'. A drainage ditch (排水溝) is shown at the bottom. The profile view (bottom) shows the structure's depth and internal features. A legend on the right lists 15 soil types and their characteristics.

Soil Type	Characteristics
1 灰色土	小礫多量
2 暗赤色土	砂質
3 灰黄褐色土	砂質
4 暗灰色土	砂質
5 暗黄褐色土	砂質
6 灰褐色土	砂質
7 灰黄褐色土	砂質
8	
9 黄褐色土	砂質 小礫多量
10 黄褐色土	
11 淡黄褐色土	砂質
12 淡黄褐色土	砂質 小礫少量
13 暗灰色土	砂質
14 赤褐色土	砂質
15 暗灰色土	砂質 小礫少量
I 灰黄褐色土	灰色土多量
II 淡黄褐色土	灰色土含む
III 淡黄褐色土	砂質
IV 灰色土	砂質 やや粗粒
V 灰色土	砂質
VI 灰黄褐色土	粘質
VII 淡黄褐色土	しまりあり
VIII 灰色土	炭化物含む

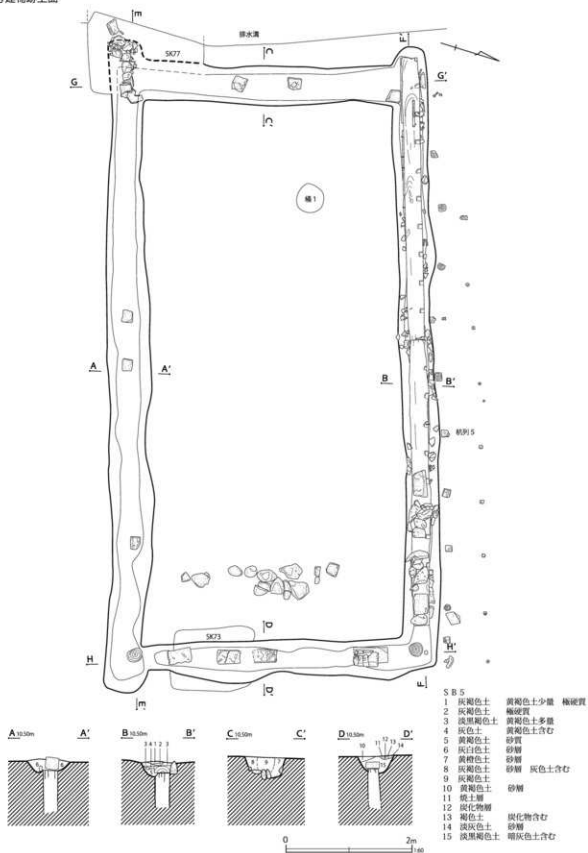


第3号建物跡



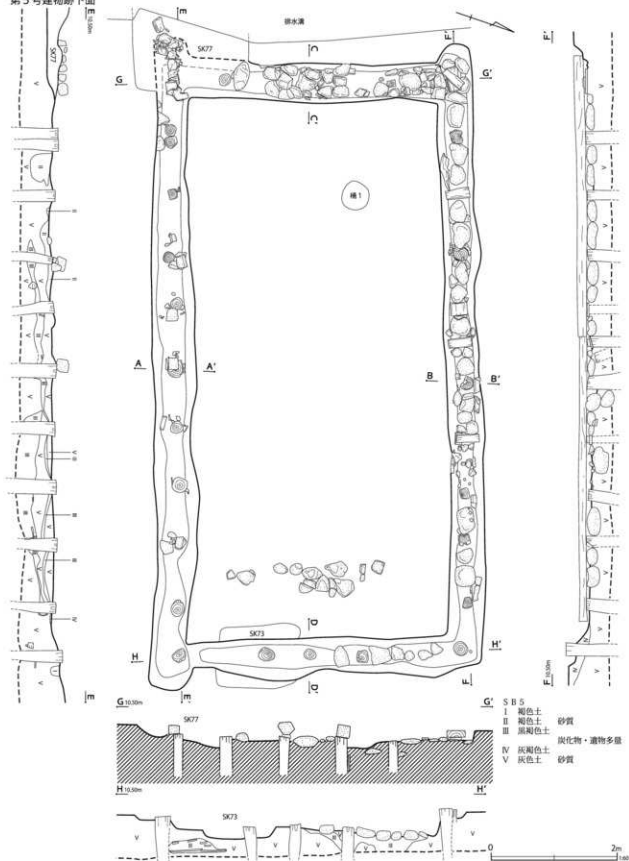
第14図 建物跡(3)

第5号建物跡上面



第16図 建物跡(5)

第5号建物跡下面

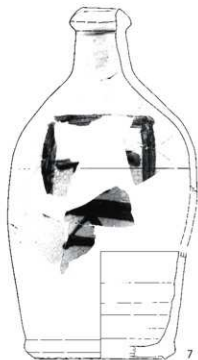
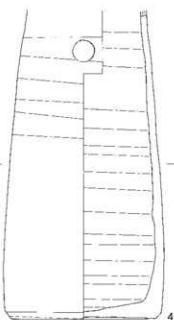


第17図 建物跡（6）

SB 3



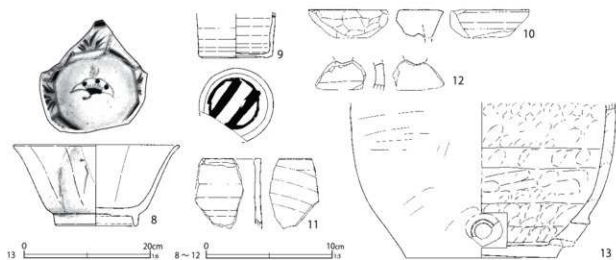
SB 5



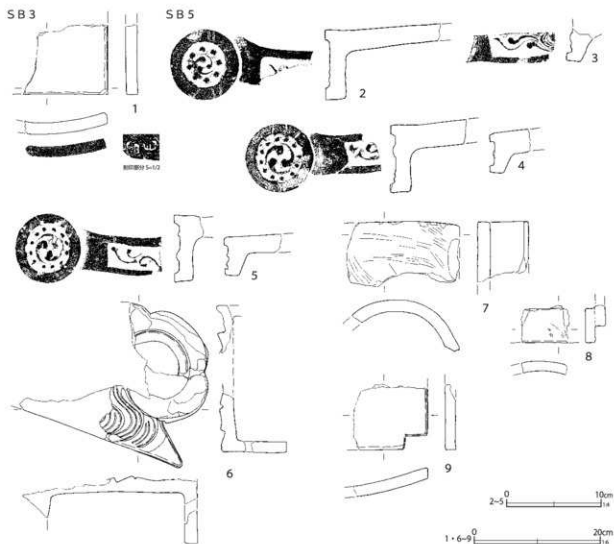
4・5 0 10cm

1-3・6・7 0 10cm

第18図 建物跡出土遺物（1）



第19図 建物跡出土遺物 (2)



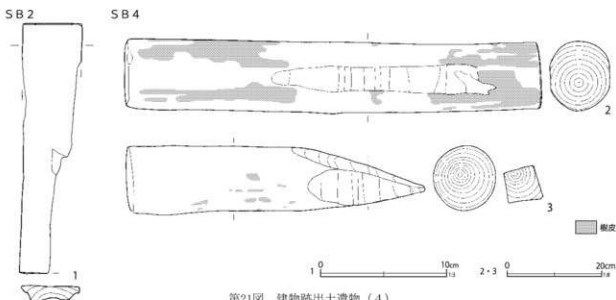
第20図 建物跡出土遺物 (3)

第3表 建物跡出土遺物観察表(1)(第18・19図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土師質土器	鍋	(12.5)	[3.7]	—	CIK	35	普通	灰白	SB3	片手鍋	
2	磁器	坏	3.8	3.7	2.7	—	95	良好	白	SB5	瀬戸美濃系 施軸 外面銅版転写染付	
3	磁器	碗	(9.8)	4.1	(3.4)	K	50	良好	白	SB5	瀬戸美濃系 施軸 型紙摺絵染付	
4	陶器	焼酎瓶	—	[32.8]	15.2	DEI	70	灰白	灰白	SB5	施軸 外面「国」・「原勢屋」銘鉄絵	17-1
5	陶器	焼酎瓶	2.6	[39.6]	15.2	EIK	60	普通	灰白	SB5	施軸 外面「国」・「原勢屋」銘鉄絵	17-1
6	陶器	徳利	—	[24.7]	10.8	I	50	良好	灰白	SB5	施軸 外面「国」・「原勢屋」銘鉄絵 同品他7個体	17-1
7	陶器	徳利	2.9	[27.8]	(10.2)	IK	50	普通	灰白	SB5	施軸 外面「国」・「原勢屋」銘鉄絵	17-1
8	磁器	鉢	(13.0)	[6.4]	6.2	IK	30	普通	白	SB5	肥前系 施軸 染付 焼継痕 輪状重ね焼き痕 按熟	
9	陶器	焼徳利	—	[3.5]	(5.0)	IK	30	良好	灰黄	SB5	京都信楽系 外面灰軸 墨書	14-1
10	土師質土器	涼鉢	—	2.2	—	AHK	5	普通	にふい橙	SB5	京都系	
11	土師質土器	涼鉢	—	[5.6]	—	HIK	10	良好	灰白	SB5	京都系	
12	土師質土器	涼鉢	—	[5.2]	—	AHK	5	不良	にふい橙	SB5	京都系 中間	
13	瓦質土器	甕	—	[24.8]	(24.1)	AHK	30	普通	灰白	SB5	砂目底 やや酸化灰焼成済み 体部下位焼成 前穿孔	

第4表 建物跡出土遺物観察表(2)(第20図)

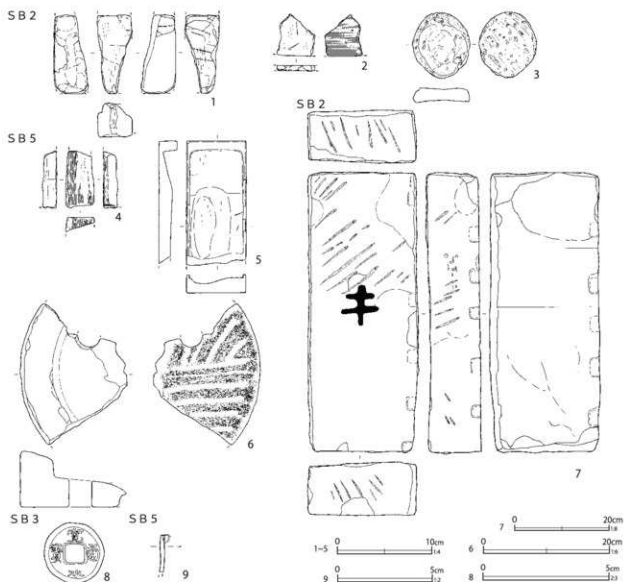
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	平瓦	[11.2]	[13.6]	1.9	[3.5]	—	AIK	良好	灰	SB3	刻印「田宮」か 外面ヘラナゲ	
2	瓦	軒棧瓦	[13.8]	[15.2]	1.9	[8.0]	7.3	CIK	良好	灰	SB5	右巻 8 連珠三巴文 銀化	
3	瓦	軒棧瓦	[3.4]	[11.4]	—	—	—	ACIK	良好	灰	SB5	銀化	
4	瓦	軒棧瓦	[9.7]	[12.7]	2.6	[7.7]	7.0	IK	良好	灰	SB5	右巻 12 連珠三巴文 胎土緻密	
5	瓦	軒棧瓦	[8.0]	[15.6]	[2.2]	[7.0]	7.0	CIK	良好	灰	SB5	右巻 12 連珠三巴文	
6	瓦	鬼瓦	26.4	30.3	2.05	[11.4]	—	AIK	良好	灰	SB5	穿孔2	
7	瓦	道具瓦	[10.6]	[17.2]	2.1	[8.2]	—	AHK	良好	灰	SB5	外面ヘラナゲ	
8	瓦	道具瓦	[6.0]	[7.8]	3.3	[3.9]	—	IK	良好	灰	SB5		
9	瓦	棧瓦	[10.5]	[11.9]	1.7	4.6	—	IK	良好	灰	SB5	銀化	



第21図 建物跡出土遺物(4)

第5表 建物跡出土遺物観察表(3)(第21図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	木札	19.7	4.7	1.2	—	—	—	板目	SB2	表面墨書 文字1	33-1
2	木製品	基礎材	88.8	15.3	12.7	—	—	—	芯持丸木	SB4	樹皮残存	
3	木製品	基礎材	63.8	13.9	13.3	—	—	—	芯持丸木	SB4	樹皮残存 杭転用	



第22図 建物跡出土遺物（5）

第6表 建物跡出土遺物観察表（4）（第22図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	砥石	[8.3]	[3.7]	[3.6]	101.8	凝灰岩	SB2	幅広工具痕 砥面4 全面摩耗	32-1
2	石製品	砥石	[4.4]	[4.0]	0.6	30.3	凝灰岩	SB2	ノコギリ痕 砥面1	
3	石製品	磨石	7.0	6.1	1.5	20.6	軽石	SB2	使用面2 自然面使用	
4	石製品	砥石	[6.0]	[3.0]	[1.6]	30.3	凝灰岩	SB5	ノコギリ痕 砥面3	
5	石製品	硯	[13.1]	6.3	—	199.0	凝灰岩	SB5	器高1.9cm 被熱	
6	石製品	石臼 (上臼)	長さ[22.5] 幅[17.1] 高8.9 径(38.4)			3358.4	安山岩	SB5		32-7
7	石製品	基礎石	59.6	23.2	11.2	32500.0	砂岩(軟質)	SB2	ツルハシ状工具痕、矢穴痕 裏面書き線 墨書	
8	鉄製品	銭貨	径24.0 厚さ1.6 重さ3.0					SB3	寛永通寶(新)	
9	銅製品	不明	長さ[2.0] 幅0.2 厚さ0.03 重さ0.1					SB5		

的な情報は第2表に、遺構図は第12～17図に示した。遺構図の平面形は、原則、日光道中を上にして構成した。

遺物の多くは下層遺構や包含層からの混在と考えられ、建物跡に直接伴う遺物は少ない。掲載遺物の抽出にあたっては最新期の陶磁器に留意した。

第2号建物跡 (第12・13図)

G7-B10・C10、G8-B1グリッドに位置する。第3・4号杭列の同一の区画内に第2～4号建物跡が一行に並ぶ。基礎構造は布掘りで北西隅が途切れる。構造は北側と西・南側で異なる。北側では捨て杭間に枕木を設置し、捨て杭の上に板と角材を載せる。西・南側では、捨て杭の上に軟質砂岩製切石を設置する。南隅から3番目の切石には「○」4番目には「キ」5番目には「○」が墨書きされている(第22図7、図版32)。陶磁器の出土は見られないが、遺構の重複関係から19世紀前半以降の構築と推定される。

第3号建物跡 (第14・15図)

G7-B9・10、C9・10グリッドに位置する。平面形は「口」の字状である。基礎構造は布掘りで、捨て杭を全周に打っている。南辺から約0.9mに位置する石材は軒柱の基礎と考えられる。中央に約20cmの石材、周辺に約10cmの石材を配置する。

第4号建物跡 (第15図)

G7-B9・C9に位置する。北東部の基礎がL字状に残っているが、基礎の大部分が調査区域

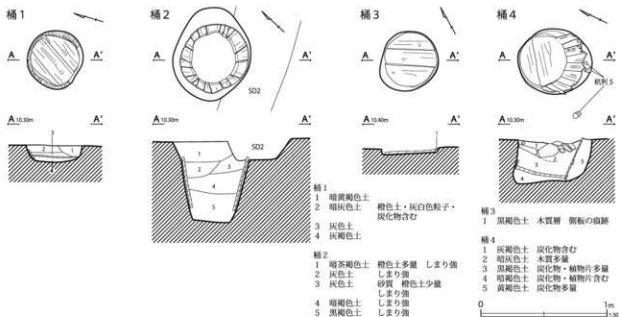
外にある。南辺は検出されなかった。基礎構造は布掘りで、捨て杭の上に丸木の枕木を載せ、上に角材を設置する。一部に杭が使われている。(第21図3) 19世紀後半以降の構築と推定される。

第5号建物跡 (第16・17図)

G7-D9・10、E9・10グリッドに位置する。平面形は「口」の字状である。基礎構造は布掘りで、北西隅、南西隅、南東隅が突出する。北辺では、捨て杭の間に石材を敷き詰め、上に板材を設置している。板材の表面には等間隔の切込みが入っており転用品と考えられる。東側が低いため板材の上に石を設置して高さを上げている。西辺と南辺では捨て杭の上に20cm角の切石を設置し、間に石材を敷き詰める。東辺では捨て杭の上に長さ約30cm、幅20cm前後の柱状の切石を設置し、間に多量の石材を敷き詰める。北側が低いためか、切石の上に石材を載せて高さを揃えている。19世紀後葉以降の構築と推定される。

(2) 埋設桶

埋設桶は4基検出された。位置、規模等の基本的な情報は第8表にまとめた。遺構図は第23図に、遺物実測図は第24図に掲載した。



第23図 埋設桶



第24図 埋設桶出土遺物

第7表 埋設桶出土遺物観察表 (第24図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	陶器	皿	(11.6)	2.5	(6.0)	1	40	良好	灰白	桶4	灰釉 内面白土塗付	

第8表 第一面埋設桶一覧表

単位: m

番号	グリッド	外径	高さ	内法		掘り方径	深さ	備考
				内径	深さ			
1	G7-D10	0.42	0.08	0.38	0.04	0.44	0.13	SB5重複
2	G7-B9	0.53	0.43	0.42	—	0.73	0.64	SD2より古
3	G7-C9	—	—	0.39	—	0.45	0.05	
4	G8-D1	0.52	0.34	0.46	0.30	0.58	0.34	杭列5重複

(3) 杭列

杭列は7条検出された。杭列の多くは溝に伴う側板と杭の痕跡と考えられる。杭列、溝跡は区画施設としての性格を持つ場合が多い。位置、規模等の基本的な情報は第9表に、遺構図は第25～27・29図にまとめた。

杭列は第一面のみで検出され、第二面での検出はなかった。遺物は少量で、周囲からの混入が多いと考えられる。時期は19世紀中葉が中心である。

検出された杭列のうち第2・5・7号杭列は、主軸方位から区画施設の性格を持つ杭列と考え

れる。第2号埋設桶では土壌分析を行った結果、1 cmあたり32個の寄生虫卵が検出された。便槽の可能性のある1000個以上を下回り、便槽遺構の可能性は低い(第V章-2)。覆土の1～5層はいずれもしまりの強い土壌であり、人為的に埋めた可能性が考えられる。

第4号埋設桶では、掘方内に底径52.0cmの桶が設置されていた。桶は斜めの状態で検出され、設置時の位置から動いていることが推定される。

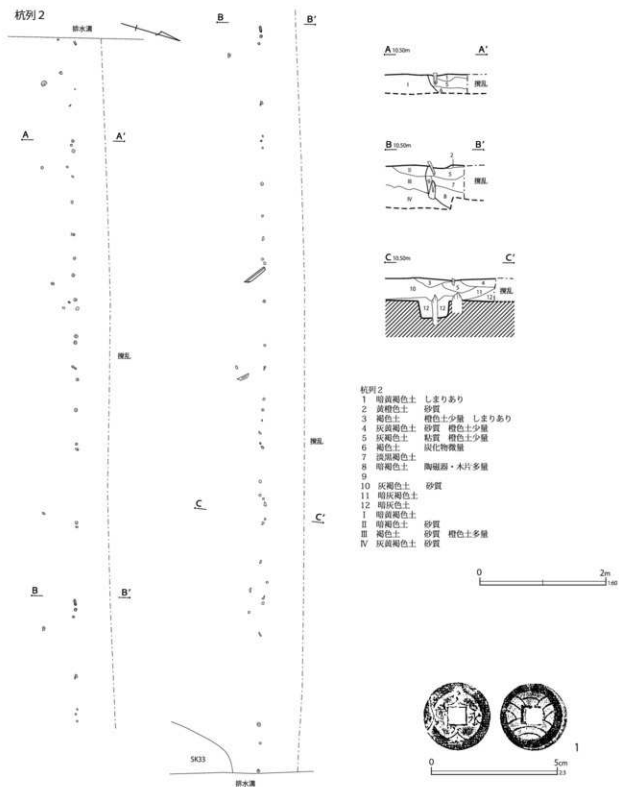
れる。第2・5号杭列では造り替えが行われていることが確認できた。第2号杭列は検出面より下に溝と杭が造られている(第25図)。第5号杭列は杭が2列打ち込まれるが、南側にも杭が点在することから造り替えが想定される(第26図)。第7号杭列は調査区域外にまで延びない短い杭列である(第27図)。

第6・8～10杭列は、区画施設と推定される杭列や溝跡に直交する軸をとることから捨て杭などの可能性が考えられる(第26・27・29図)。

第9表 第一面杭列一覧表

単位: m

番号	グリッド	長さ	方位	備考
2	G7-A8/9/10	(20.68)	N-73°-E	
5	G7-D9/10, G8-D1	19.18	N-71°-E	SK75・76より新 SK62・桶4重複
6	F7-J8	A 0.41 B 3.40	N-27°-W N-24°-W	SK144重複
7	F7-J8/9	8.84	N-72°-E	SK144重複
8	G7-D10	A 1.78 B 0.97 C 0.36	N-65°-E N-24°-W N-69°-E	SK61・75・76重複
9	G8-E2	1.96	N-18°-W	
10	G7-E10	2.08	N-69°-E	

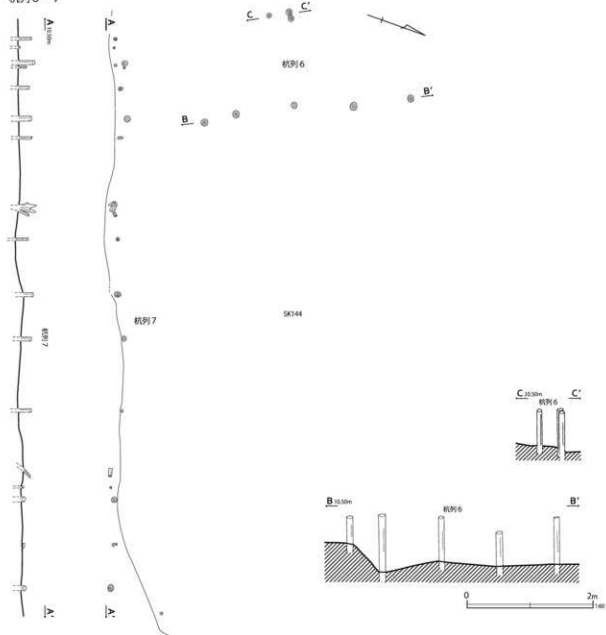


第25図 杭列（1）・第2号杭列出土遺物

第10表 杭列出土遺物観察表（第25図）

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径26.7 厚さ1.1 重さ2.7	杭列2	G7-A10 文久永寶	

杭列 6・7



第27図 杭列 (3)

(4) 溝跡

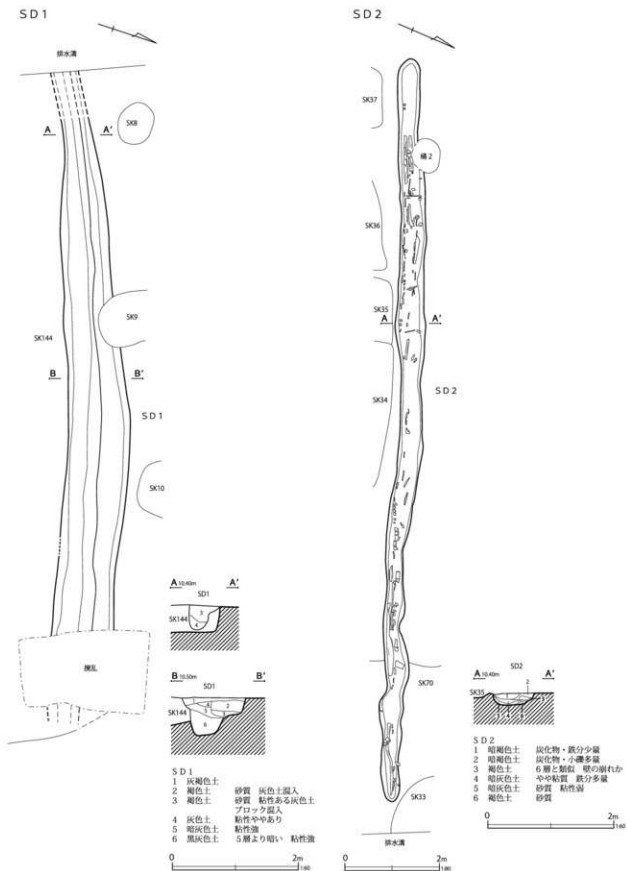
溝跡は第一面で6条検出された。このうち4条

の溝跡で、壁面を板材と杭で抑える構造が検出された。位置、規模等の基本的な情報は第11表に、

第11表 第一面溝跡一覧表

単位: m

番号	グリッド	長さ	幅	深さ	方位	備考
1	F7-I8/9, J8/9	(8.84)	0.45~1.00	0.12~0.60	N-73° -E	SK9より古 SK144より新
2	G7-A9/10, B9/10	15.65	0.35~0.65	0.18	N-72° -E	桶2・SK70より新
3	G7-E10, G8-E1/2	(20.80)	0.37~0.90	0.31	N-72° -E	
8	F7-I8/9	(18.31)	0.58~0.85	0.38	N-73° -E	SK78より新
9	G7-B9/10, G8-B1	(21.07)	0.33~0.65	0.13~0.38	N-72° -E	
10	G7-C9/10, G8-B1, C1	(21.48)	0.29~0.96	0.09~0.38	N-71° -E	P9より古



第28図 溝跡(1)

D3・杭列9・10

排水溝

トレンチ

杭列10

SK71

SD3

トレンチ

杭列9

排水溝

A 10.50m A'

B 10.50m B'

C 10.50m C'

D 10.50m D'

杭列9

杭列10

排水溝

SD3

1 黒褐色土 炭化物多量

2 灰褐色土 砂質 褐色土

3 灰色土 少量

4 灰褐色土 砂質

5 灰色土 やや粘質

6 暗灰褐色土 黄褐色土少量

7 灰褐色土 炭化物含む

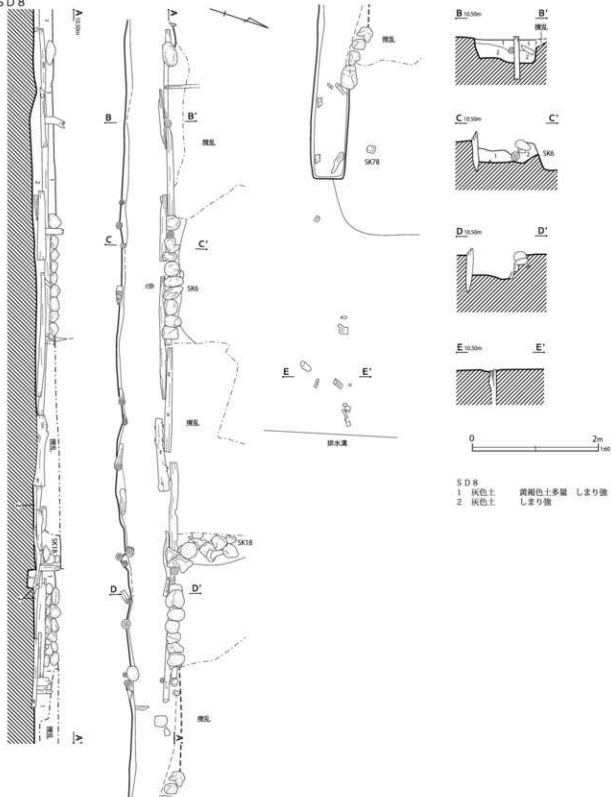
8 灰褐色土 しまりあり

9 灰色土 やや粘質

0 2m

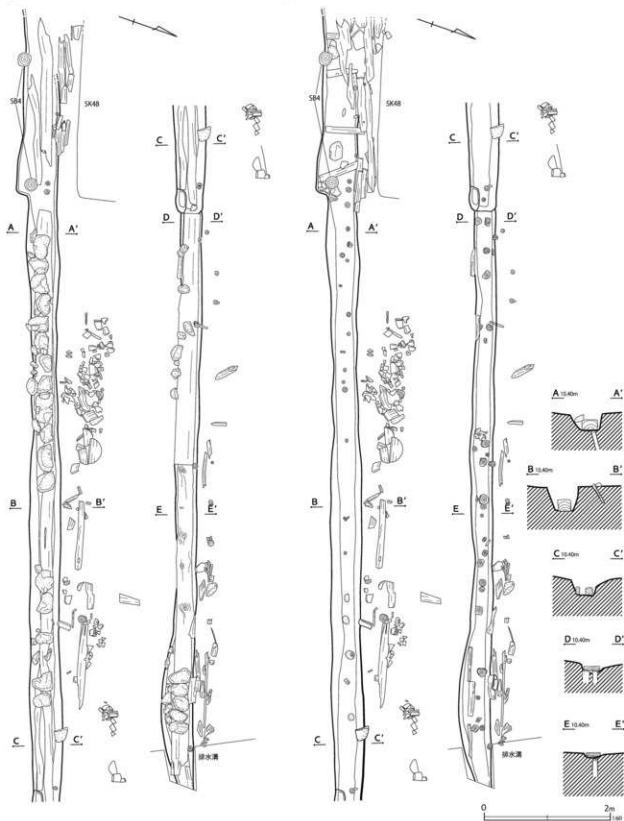
第29图 溝跡(2)、杭列9・10

SD 8



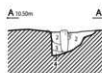
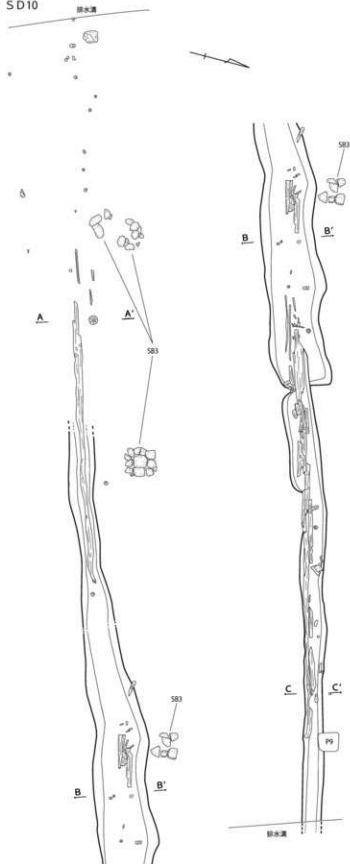
第30図 溝跡(3)

SD9

上面
排水溝下面
排水溝

第31図 溝跡(4)

SD10

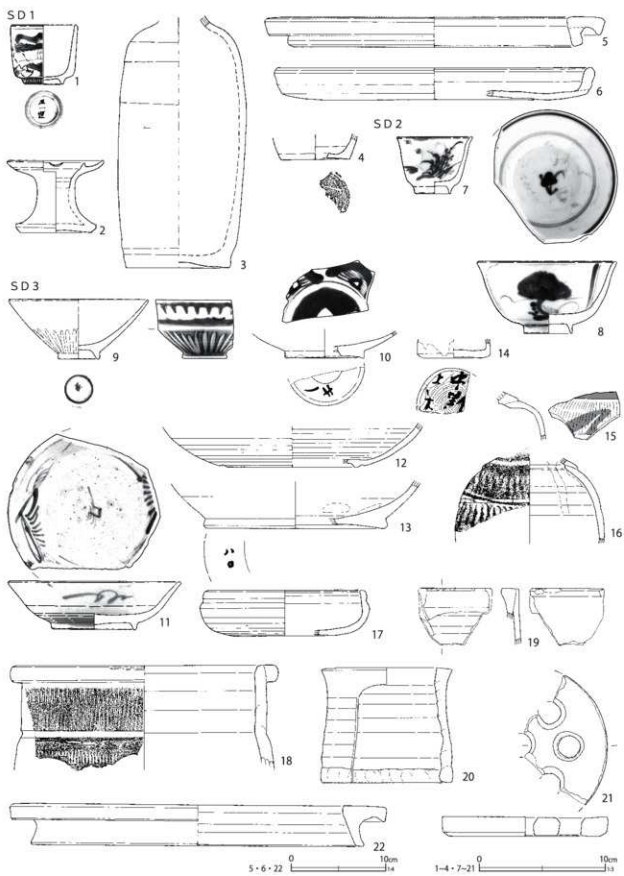


SD10

- | | | |
|----|--------|------------|
| 1 | 灰色土 | やや砂質 褐色土多量 |
| 2 | 灰白色土 | 灰白色土含む |
| 3 | 灰色土 | 砂質 しまりあり |
| 4 | 灰黄褐色土 | 砂質 褐色土含む |
| 5 | 暗黄褐色土 | 黄白色砂子含む |
| 6 | 暗褐色土 | 粘質 |
| 7 | 暗灰黄褐色土 | 粘質 |
| 8 | 淡黄褐色土 | 砂質 |
| 9 | 淡黄褐色土 | 粘質 |
| 10 | 暗黄褐色土 | 褐色土粒子少量 |
| 11 | 淡黄褐色土 | 砂質 |
| 12 | 淡黄褐色土 | 砂質 |
| 13 | 灰褐色土 | 砂質 しまりあり |
| 14 | 暗灰色土 | 粘質 |

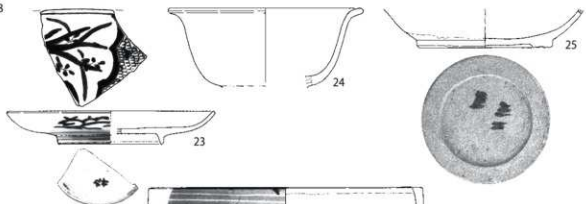
0 2m 1:60

第32図 溝跡 (5)

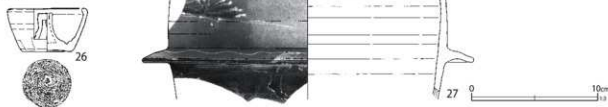


第33图 清跡出土遺物 (1)

SD8



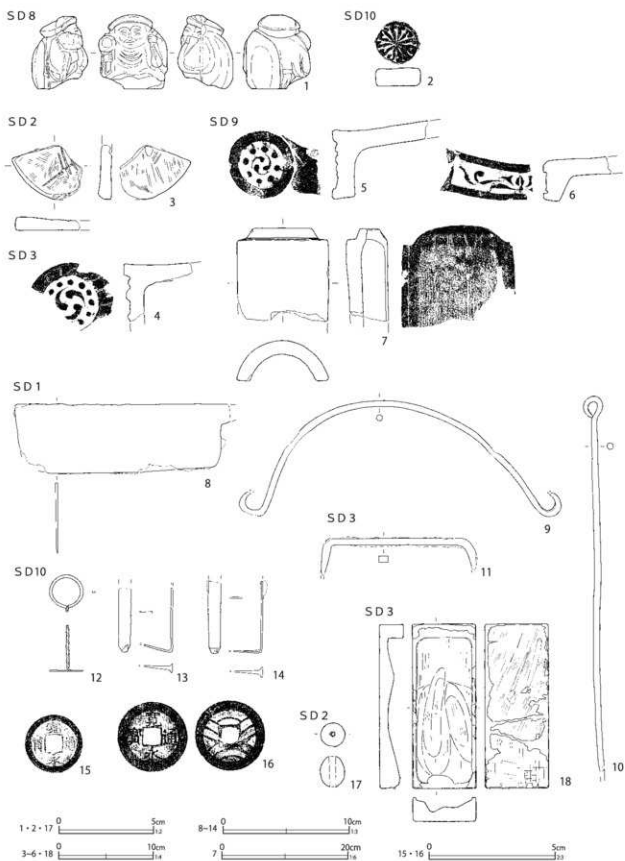
SD9



第34図 溝跡出土遺物(2)

第12表 溝跡出土遺物観察表(1)(第33・34図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	坏	5.0	4.7	3.0	—	100	良好	白	SD1	瀬戸美濃系 施軸 酸化コバルト染付	
2	陶器	灯火具	7.6	5.7	5.6	IK	80	普通	灰白	SD1	京都信楽系 灰軸 被熱	
3	陶器	德利	—	[19.8]	8.1	DK	95	良好	灰白	SD1	瀬戸美濃系 灰軸 底部拭き取り	
4	土師質土器	植木鉢	—	[2.0]	(5.4)	AHK	15	不良	橙	SD1	胎土粉質 底部回転糸切	
5	瓦質土器	竜蹄	(28.9)	3.1	(29.7)	CIK	15	普通	灰	SD1	被熱 煤付着	
6	土師質土器	焙烙	(33.0)	3.4	—	CHK	35	普通	橙	SD1	砂目底 体部下位ヘラケズリ 内面煤付着	
7	磁器	坏	6.0	4.5	2.8	—	95	良好	白	SD2	瀬戸美濃系 クロム軸青磁 外面多彩白盛	
8	磁器	碗	10.9	5.7	3.8	—	70	良好	白	SD2	瀬戸美濃系 施軸 染付	
9	磁器	碗	11.0	4.7	3.2	K	45	良好	白	SD3	瀬戸美濃系 施軸 外面酸化コバルト染付・鉄絵 外面下位縞状施文	
10	磁器	皿	—	[2.1]	(6.2)	—	10	良好	白	SD3	瀬戸美濃系 施軸 内面染付 墨書	14-2
11	陶器	皿	(13.4)	3.8	6.4	IK	50	普通	灰白	SD3	瀬戸美濃系 太白手 呉須絵	
12	陶器	行平鍋	—	[3.5]	(10.1)	EIK	5	良好	浅黄	SD3	内面灰軸	
13	陶器	こね鉢	—	[3.7]	(14.1)	IK	10	良好	灰白	SD3	灰軸 内面目跡2残存 墨書	14-3
14	陶器	蓋物か	—	[1.5]	(4.7)	—	15	普通	灰白	SD3	瀬戸美濃系 灰軸 回転糸切(右) 墨書「中町上口」	14-4
15	陶器	德利	—	[3.7]	—	IK	5	良好	灰白	SD3	灰軸 頸部鉄軸 体部鉄絵、トビガンナ	
16	陶器	德利	—	[6.7]	—	IK	20	普通	にぶい黄橙	SD3	内面植軸 頸部鉄軸 外面灰軸、トビガンナ	11-1
17	土師質土器	鍋	(12.1)	3.6	(7.9)	ACHK	45	普通	にぶい黄橙	SD3	片手鍋 体部下位ヘラケズリ 煤付着	
18	瓦質土器	火鉢	(18.4)	[8.2]	—	CHK	20	灰褐	灰褐	SD3	ほぼ酸化表焼成 口縁・体部中位ミガキ トビガンナ状文	
19	土師質土器	涼奴	—	[4.4]	—	IK	5	普通	灰白	SD3	京都系 口縁煤付着	
20	土師質土器	涼奴	(7.9)	9.1	(10.2)	CHK	10	良好	灰白	SD3	京都系か 中筒	
21	土師質土器	目皿	(13.0)	1.5	(12.0)	CHK	25	不良	淡橙	SD3	側面下位ヘラケズリ 上面白色、砂目	
22	瓦質土器	鉢	(30.6)	4.3	(35.0)	CIK	5	普通	黄灰	SD3	内面上位ヘラケズリ 撫す	
23	磁器	皿	(16.0)	2.6	(8.0)	—	20	良好	白	SD8	肥前系 施軸 染付 焼継印 輪高台型皿	
24	磁器	鉢	(15.0)	[6.3]	—	—	40	良好	白	SD8	肥前系 青磁軸	
25	陶器	片口鉢	—	[2.9]	10.3	IK	45	良好	灰黄褐	SD8	灰軸 墨痕	
26	陶器	栗壺	5.9	3.4	3.8	IK	100	良好	にぶい赤褐	SD9	鉄軸・灰軸重ね掛け 中心糸切	
27	陶器	羽釜	(20.2)	[10.6]	—	EI	20	良好	浅黄橙	SD9	灰軸 鉄化粧 外面イチン描き、呉須絵 体部下位煤付着	



第35図 溝跡出土遺物(3)

第13表 溝跡出土遺物観察表(2) 第35図

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土製品	人形	[3.9]	3.6	2.9	—	—	AHK	良好	にぶい橙	SD8	大黒 前後合わせ二枚型、中空 江戸在地系 重さ 18.4g	25-14
2	土製品	泥面子	—	—	0.9	—	2.4	HJK	良好	橙	SD10	面打 型成形 江戸在地系 重さ 6.3g	26-11
3	瓦	瓦軋用品	[5.7]	[7.5]	1.4	—	—	IK	普通	灰白	SD2	刃なし 煎両面多数あり	27-2
4	瓦	軒棧瓦	[7.6]	[9.1]	1.3	[6.2]	9.6	EIK	良好	灰	SD3	左巻 12 連珠三巴文 銀化 被熱 胎土粗	
5	瓦	軒棧瓦	[10.8]	[13.8]	2.0	[8.3]	6.9	AIK	良好	暗灰	SD9	G7B10 右巻 8 連珠三巴文	
6	瓦	軒棧瓦	[12.1]	[16.5]	1.8	[4.8]	—	AIK	良好	灰	SD9	G7B9 銀化	
7	瓦	丸瓦	[14.9]	14.7	2.3	6.6	—	IK	良好	灰	SD9	銀化	
8	鉄製品	包丁	[17.0]	刃長 16.2 刃幅 5.5 背幅 0.2	—	—	—	—	—	—	SD1	重さ 73.8g	
9	鉄製品	把手	縦 9.1 横 25.4	0.5	—	—	—	—	—	—	SD1	重さ 40.7g	
10	鉄製品	火箸	[29.7]	—	0.5	—	—	—	—	—	SD1	重さ 36.2g	
11	鉄製品	錠	[12.3]	0.7	0.5	—	—	—	—	—	SD3	重さ 38.4g	
12	銅製品	插立て	—	2.7	0.1	3.7	—	—	—	—	SD10	重さ 3.6g	
13	鉄製品	不明	[5.1]	1.0	0.1	—	—	—	—	—	SD10	重さ 4.5g	
14	鉄製品	不明	[5.7]	1.0	0.1	—	—	—	—	—	SD10	重さ 5.5g	
15	銅製品	銭貨	—	—	0.9	—	23.2	—	—	—	SD10	G7-C10 寛永通寶(新) 重さ 2.0g	
16	銅製品	銭貨	—	—	1.3	—	27.8	—	—	—	SD10	寛永通寶(新) 11 渡 重さ 5.4g	
17	石製品	碧玉	1.3	1.6	—	—	—	—	—	—	SD2	5.4g 玉髄か	
18	石製品	硯	17.3	6.7	—	2.4	—	—	—	—	SD3	砥具転用 401.2g 凝灰岩	32-3

遺構図は第28～32図にまとめた。

第1号溝跡(第28図)

F-7、J-8・9グリッドで検出された。土留めの杭、板材などは検出されなかった。出土遺物から19世紀後葉以降の遺構と考えられる。

第2号溝跡(第28図)

G-7-A9・10、B-9・10グリッドで検出された。壁面を板材、矢板、杭で抑える構造が検出された。溝跡の東部では杭や矢板で長い板材を固定している。西部では壁面に矢板が打たれている。出土遺物から19世紀後葉の遺構と推定される。

第3号溝跡(第29図)

G-7-E10、G-8-E1・2グリッドで検出された。北壁では長板と杭で壁面を抑える構造が検出された。南壁では壁際に杭が並び、一部で北壁同様の構造が検出された。北壁同様の構造があったと推定される。出土遺物から19世紀後葉以降の遺構と考えられる。

第8号溝跡(第30図)

F-7-I8～10グリッドで検出された。北壁では杭と板材で壁を抑える構造が検出された。杭と長さ約180cmの木材が交互に設置され、木材の上

には石材を積み重ねている。杭の前には杭を抑える材が据えられる。一部には転用材も使用されていた。南壁では杭のみが検出された。溝跡の東側では掘り込みが立ち上がった先に杭列が続いている。出土遺物から19世紀後葉の遺構と考えられる。

第9号溝跡(第31図)

G-7-B9・10、G-8-B1グリッドで検出された。南側に第2～4号建物跡が隣接する。溝の底面に杭を打ち、上に板材を置き、自然石を据えている。他の溝跡とは構造が異なり建物などの基礎の可能性も考えられる。北壁の北側では杭や板材が点在し、第8号溝跡のような構造も推定されるが、杭列に伴う掘り込みは検出されなかった。出土遺物から19世紀後葉以降の遺構と考えられる。

第10号溝跡(第32図)

G-7-C9・10、G-8-B1・C1グリッドで検出された。北側に第2～4号建物跡が隣接する。深さ約10cmと浅い掘り込み内に杭と板材が残存する。確認面より下に、埋もれた杭や板材があり、同様の構造が繰り返して造られていたと考えられる。出土遺物から19世紀中葉の遺構と考えられる。

(5) 土壌

土壌は第一面で79基検出された。位置、規模等

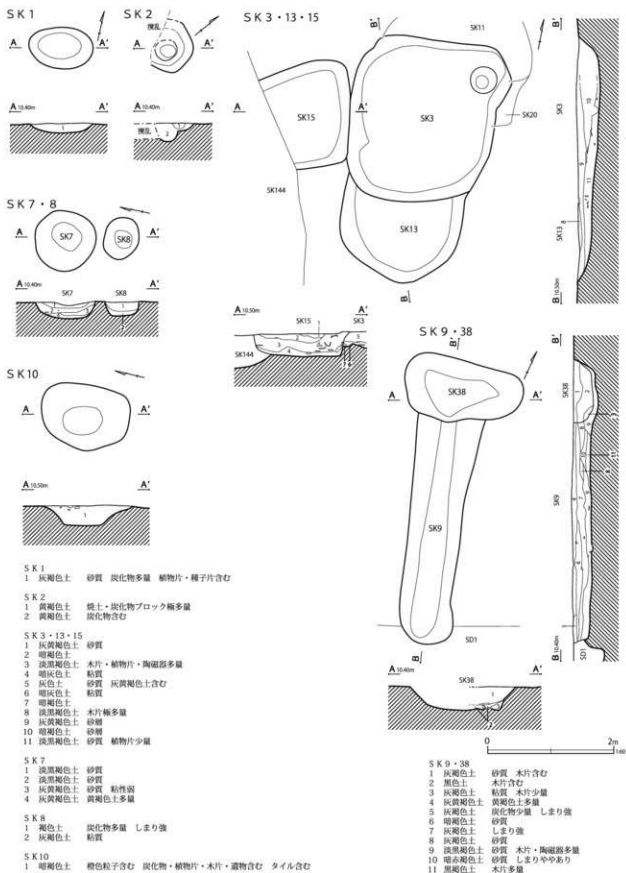
第14表 第一面土壌一覧表

単位: m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	備考
1	F7-H9	楕円形	1.02	0.65	0.15	
2	F7-H8	不整楕円形	0.80	(0.60)	0.27	
3	F7-19, J9	楕円形	2.63	2.33	0.42	SK11・15・20より古 SK13重複
4	F7-18	不整形	—	—	0.30	SK6より古 SK19より新
6	F7-18	不整形	—	—	0.62	SK4より新
7	F7-18, J8	円形	0.97	0.95	0.25	
8	F7-J8	楕円形	0.68	0.55	0.22	
9	F7-18	隅丸長方形	3.50	1.00	0.31	SK38より古 SD1より新
10	F7-J8	楕円形	1.41	1.04	0.30	
11	F7-19, J9	隅丸長方形	2.44	1.27	0.40	SK3より新 SK20重複
12	F7-110, J10	隅丸長方形	2.59	1.55	0.38	
13	F7-J9	楕円形	1.90	(1.29)	0.18	SK3重複
14	F7-J9	長方形	1.51	0.80	0.18	
15	F7-J9	隅丸長方形	1.68	1.35	0.39	SK3・SK144より新
16	G8-C1	不整形	1.75	(1.28)	0.47	SK56より古
17	G8-C1	不整長方形	(1.35)	0.98	0.40	SK56より新
18	F7-18/9	不整形	2.05	(0.48)	0.48	SK19より新
19	F7-H9, I9	不整形	—	—	0.52	SK4・18より古
20	F7-J9	不整形	1.60	(0.74)	0.14	SK3より新 SK11重複
21	G7-A9	隅丸長方形	3.25	0.90	0.44	
22	G7-A9	隅丸長方形	1.20	1.15	0.34	
23	G7-B9	隅丸長方形	1.80	(0.95)	0.23	SK48・SK145より新
24	G7-A8	楕円形	1.30	1.11	0.22	
25	G7-J9	不整形	1.70	0.99	0.27	
26	G7-A9	隅丸長方形	1.63	1.07	0.65	
27	G7-A9	楕円形	1.93	1.80	0.11	
28	G7-A9	不整形	1.60	0.70	0.27	
29	G7-A9	隅丸長方形	1.81	0.73	0.19	
30	G7-A10	円形	0.58	0.54	0.09	
31	G7-A10	楕円形	0.85	0.75	0.20	
32	G7-A9	楕円形	0.67	0.57	0.15	
33	G7-A10	不整形	6.93	(1.26)	0.19	SK70より新
34	G7-B9/10	不整形	(4.53)	3.05	0.34	SK35・36・72より新
35	G7-B9/10	不整形	5.08	4.64	0.38	SK34・36より古
36	G7-B9	隅丸長方形	4.75	2.87	0.32	SK34より古 SK35より新
37	G7-B9	隅丸長方形	4.51	1.35	0.19	
38	F7-18	楕円形	1.90	0.95	0.36	SK9より新
39	G7-B9	楕円形	0.67	0.58	0.09	
40	G7-C10	不整形	0.88	0.83	0.23	SB3より新
41	G7-C9	不整形	1.45	1.30	0.45	SB3より新

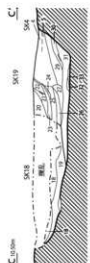
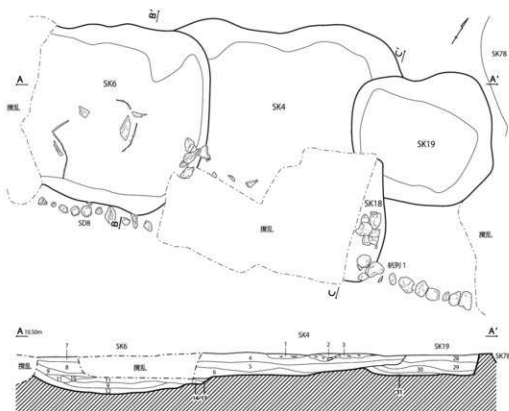
の基本的な情報は第14表に、遺構図は第36～46図にまとめた。火災処理に関わる土壌、その他特

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	備考
42	G7-B9, C9	楕円形	1.64	1.53	0.59	SB3より新
43	G7-B10, C10	楕円形	1.65	1.50	0.58	SB3より新
44	G8-B1	隅丸長方形	1.17	(0.55)	0.45	SB2より古
45	G8-C1	不整長方形	2.28	1.31	0.49	
46	G8-C1	隅丸長方形	1.65	1.37	0.54	SK51より新
47	G8-C1	隅丸長方形	1.76	1.01	0.37	
48	G7-B9	不整形	(2.74)	(1.90)	0.32	SK23・SK145より古 SD9重複
49	G7-C10	不整形	0.62	0.57	0.20	
50	G7-C10 G8-C1	隅丸長方形	4.28	1.90	0.55	
51	G8-C1	楕円形	1.45	1.05	0.20	SK46より古
52	G7-C10	円形	0.61	0.54	0.18	
53	G7-C10	不整形	1.40	1.13	0.09	
54	G7-D10	楕円形	0.82	0.60	0.13	
55	G8-C1	隅丸長方形	1.09	1.07	0.43	
56	G8-C1	不整長方形	(2.15)	1.15	0.50	SK16より新 SK17より古
57	G8-C1/2	不整形	0.55	0.50	0.06	
58	G8-D1	円形	0.55	0.53	0.09	
59	G8-D1	隅丸長方形	1.72	1.27	0.45	
60	G7-D10	隅丸長方形	0.57	0.51	0.10	
61	G7-D10	隅丸長方形	1.85	0.65	0.37	杭列8重複
62	G7-D10	楕円形	0.78	0.72	0.18	杭列5重複
63	G8-D1	楕円形	0.83	0.81	0.19	SK64より新
64	G8-D1, E1	隅丸長方形	2.58	1.71	0.41	SK63・66より古
65	G7-E10 G8-E1	隅丸長方形	2.33	1.08	0.58	
66	G8-E1	隅丸長方形	0.80	0.50	0.31	SK64より新
67	G8-D1/2	不整形	2.08	1.65	0.50	
68	G7-D10	円形	0.49	0.49	0.08	
69	G7-D10	楕円形	0.83	0.67	0.20	
70	G7-A10, B10	不整長方形	9.65	(3.78)	0.23	SK33より古 SD2より古
71	G7-E10	不整形	1.30	0.98	0.27	
72	G7-B10	不整形	4.69	3.14	0.21	SK34より古
73	G7-D10	不整長方形	1.26	1.02	0.40	SB5より古
74	G7-D10	不整形	—	—	0.12	SK75重複
75	G7-D10	不整形	—	—	0.25	SK76・杭列5・P8より古 杭列8重複
76	G7-D10	不整形	—	—	0.18	SK75より新 杭列5より古 杭列8重複
77	G7-E9/10	不整形	1.82	(1.30)	0.45	SB5より古
78	F7-H9, I9	不整形	(5.95)	5.61	0.90	SD8より古
144	F7-J8/9	不整長方形	(10.87)	8.04	0.83	SD1・SK15より古
145	G7-A8/9, B8/9	不整長方形	9.80	(3.07)	0.53	SK23より古 SK48

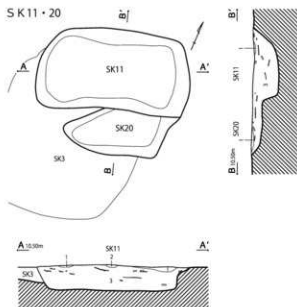


第36図 土壌(1)

SK 4・6・18・19



SK 11・20



SK 4・6・18・19

- 1 黒灰色土 炭化材多量 焼土粒子含む
- 2 灰褐色土 砂質
- 3 黒灰色土 炭化材多量 焼土粒子含む
- 4 灰褐色土 砂質
- 5 暗褐色土 炭化材含む
- 6 黒灰色土 粘質 朱色粒子・炭化材含む
- 7 暗褐色土 砂質
- 8 暗褐色土 炭化材含む
- 9 灰褐色土 木片多量
- 10 灰色土 炭化物・焼土極多量
- 11 暗灰色土 砂質
- 12 黒褐色土 木片少量
- 13 灰色土
- 14 灰色土 炭化物・焼土極多量
- 15 暗灰褐色土 砂質 炭化物含む
- 16 暗灰褐色土 粘質
- 17 暗灰色土 砂質
- 18 暗灰褐色土 小礫含む
- 19 暗灰色土 炭化物含む 粘性強
- 20 黒褐色土 炭化物・植物片含む
- 21 暗灰褐色土 炭化物・植物片多量
- 22 黒灰色土 炭化物・植物片含む
- 23 暗褐色土 炭化物・植物片含む
- 24 暗褐色土 砂質
- 25 黒灰色土 炭化物・植物片を含む
- 26 灰色土 粘質
- 27 暗灰色土 粘質
- 28 暗褐色土 砂質
- 29 暗褐色土 砂質 炭化物少量
- 30 黒灰色土 粘質 朱色粒子・炭化材含む
- 31 黒褐色土 砂質 植物片少量
- 32 暗褐色土 炭化物少量
- 33 灰色土 粘質

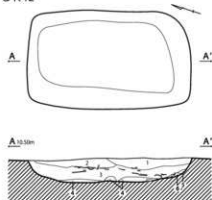
SK 11・20

- 1 灰褐色土 炭化物・植物片多量
- 2 暗褐色土 粘質
- 3 暗灰褐色土 植物片多量

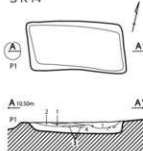
0 2m 10m

第37図 土壌 (2)

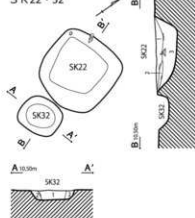
SK12



SK14



SK22・32

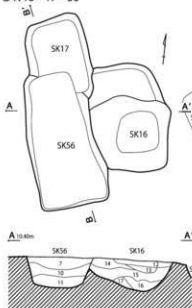


- SK12
1 黄褐色土 砂質 黒褐色土少量
2 黄褐色土 砂質 白色粒子多量
3 淡黒褐色土 植物片・陶磁器・木製品多量
4 灰黄褐色土 淡黒褐色土多量
5 暗褐色土 粘質
6 灰黄褐色土 砂質

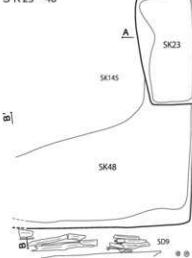
- SK14
1 灰褐色土 砂質
2 黒灰色土 ガラス・植物片含む
3 灰褐色土 砂質 朱色粒子微量
4 黒灰色土 炭化物・木片・植物片・遺物多量

- SK22
1 灰褐色土 小礫・炭化物・朱色粒子含む
2 暗褐色土 炭化物含む
3 暗灰色土 炭化物・植物片含む

SK16・17・56



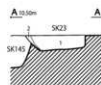
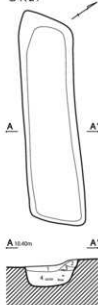
SK23・48



- SK32
1 灰褐色土 褐色土（鉄分）少量
2 灰黄褐色土

- SK16・17・56
1 灰黄褐色土 砂質 炭化物含む
2 灰黄褐色土 砂質
3 明黄褐色土 砂質 炭化物含む
4 明灰色土 暗赤色土多量
5 暗黄褐色土 砂質
6 暗灰色土 粘質
7 褐色土 炭化物少量
8 淡灰色土 黄褐色土含む しまり強
9 暗黄褐色土 炭化物少量
10 淡黒褐色土 粘質 植物片多量
11 暗灰色土 炭化物少量
12 褐色土 炭化物少量
13 褐色土 炭化物・暗赤色土多量

SK21



0 2m 100

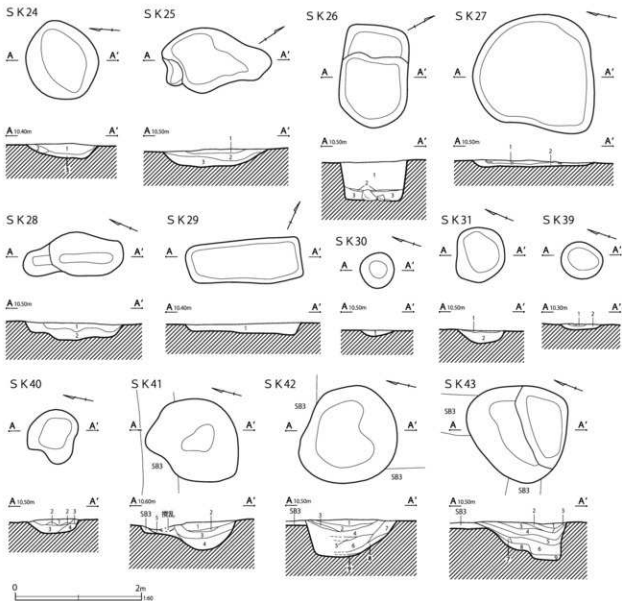
- 14 暗黄褐色土 砂質
15 灰褐色土 砂質
16 暗褐色土 植物片多量 粘質
17 暗灰色土 砂質

- SK21
1 黒褐色土 小礫・炭化物含む
2 暗褐色土 粘質 炭化物含む
3 黒灰色土 炭化物含む
4 暗黒灰色土 炭化物・植物片多量

- SK23
1 小礫層 黒褐色土・炭化物含む
2 暗褐色土 粘質

- SK48
1 灰褐色土 黄褐色土粒子含む
2 淡黒褐色土 粘質
3 褐色土 植物片多量
4 暗赤褐色土 粘質
5 暗灰褐色土 粘質

第38図 土質（3）



S K 24
1 灰色土 しまりやあり
2 灰色土 砂質
3 砂層

S K 25
1 灰褐色土 砂質
2 暗灰褐色土 3層との層理面に鉄分集中
3 暗灰褐色土 炭化物多量

S K 26
1 細礫層 小礫・多量の炭化物含む
2 暗灰褐色土 粘性ややあり 礫含まない
3 細礫層 小礫・多量の炭化物含む

S K 27
1 灰褐色土 層理面に鉄分多量
2 暗灰褐色土 やや粘質 φ1cmの炭化物含む

S K 28
1 灰色土
2 灰黄褐色土 鉄分粒多量

S K 29
1 細礫層 小礫・炭化物多量

S K 30
1 暗灰褐色土 炭化物粒子・植物片含む

S K 31
1 灰色土
2 明灰褐色土 褐色土多量 炭化物含む

S K 39
1 灰色土
2 灰褐色土

S K 40
1 灰褐色土
2 黒色灰層
3 灰黄褐色土 砂質
4 灰褐色土 砂質

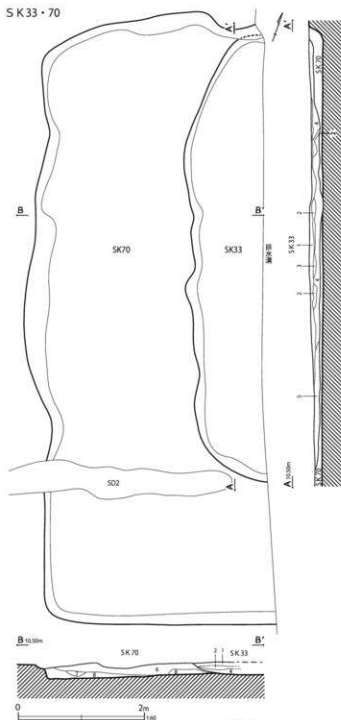
S K 41
1 灰褐色土 淡褐色土多量
2 淡褐色土 純土
3 灰褐色土 粗粒
4 濃褐色土
5 暗灰褐色土 砂質

S K 42
1 淡灰褐色土 木片多量
2 黒色土 粘質 焼土多量
3 灰褐色土 黄褐色土含む(焼土風化)
4 灰褐色土 木片極多量
5 灰褐色土 砂層
6 黒色土 木片多量
7 灰黄褐色土
8 灰褐色土 砂層
9 黒色土 木片多量

S K 43
1 暗灰黄褐色土 黄褐色砂粒含む
2 黒褐色土
3 灰白色土 粗粒 焼土ブロック含む
4 暗褐色土 シルト層 粘質
5 灰褐色土 植物片多量
6 黒褐色土 砂質
7 暗黄褐色土 砂質 褐色土少量
8 灰褐色土 粘質 植物片少量
9 黒褐色土

第39図 土壌 (4)

SK33・70



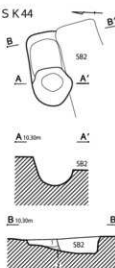
SK33・70

- 1 褐色土
- 2 灰褐色土 粘性あり
- 3 灰褐色土 2層に黒色土少量含む
- 4 黒褐色土 植物片少量
- 5 黒褐色土 植物片多量
- 6 灰色土 やや粘質 炭分含む
- 7 灰色土 やや粘質 炭化物含む
- 8 黒灰色土 粘性強 (地山)

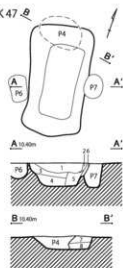
SK44

- 1 淡黒褐色土
- 2 黒褐色土 植物片多量

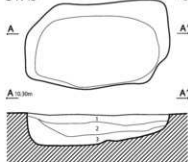
SK44



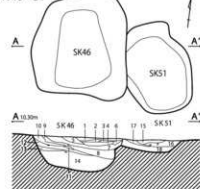
SK47



SK45



SK46・51

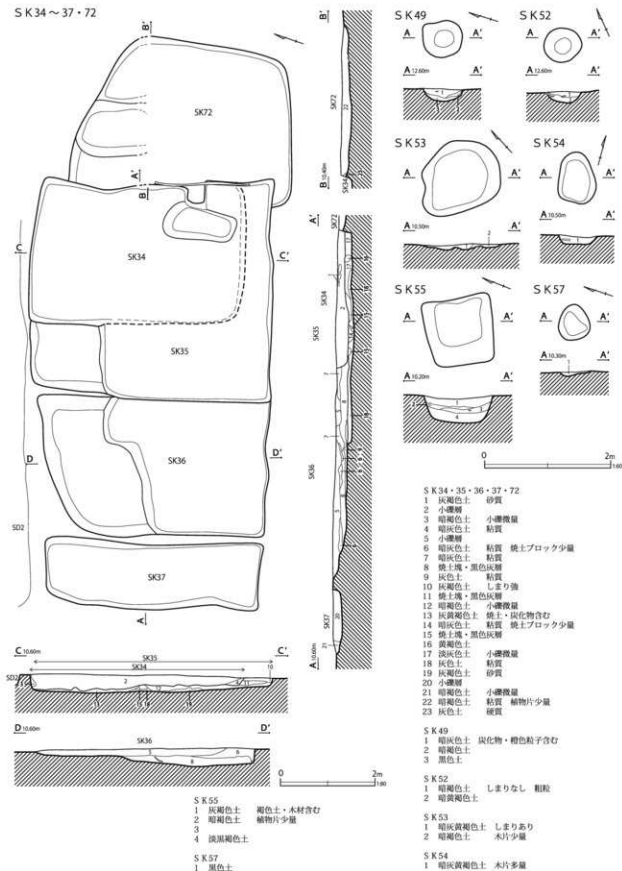


SK46・51

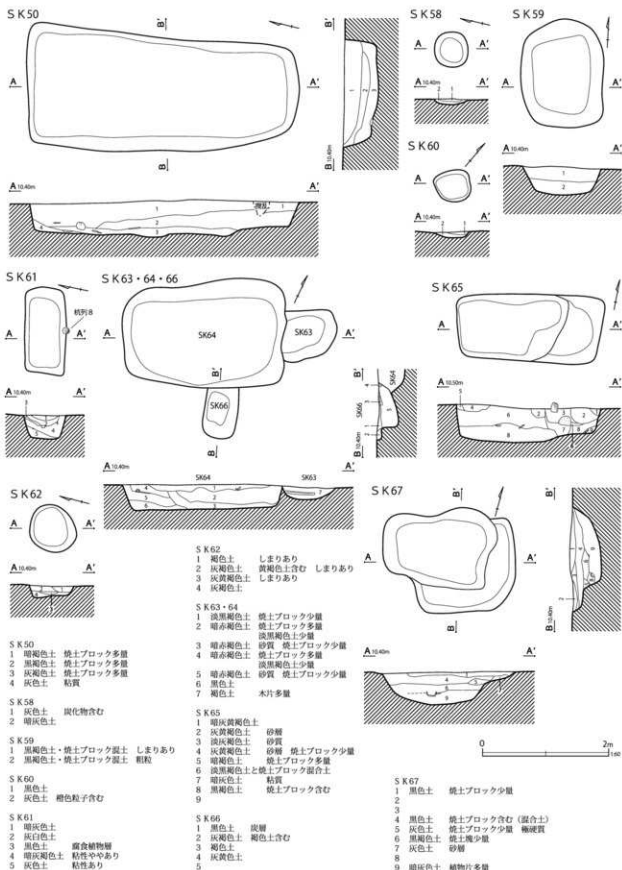
- 1 灰黄褐色土 砂質
- 2 暗黄褐色土 粘質
- 3 灰褐色土
- 4 暗褐色土
- 5 暗褐色土 灰色粘質土含む
- 6 褐色土
- 7 淡黒褐色土
- 8 褐色土
- 9 赤褐色土
- 10 明灰色土 粘質
- 11 淡黄褐色土
- 12 淡黒褐色土
- 13 暗灰色土 砂質
- 14 黒褐色土 植物片多量
- 15 灰黄褐色土 砂質
- 16 褐色土 植物片少量
- 17 明灰色土
- 18 淡黒褐色土 砂質

第40図 土壌 (5)

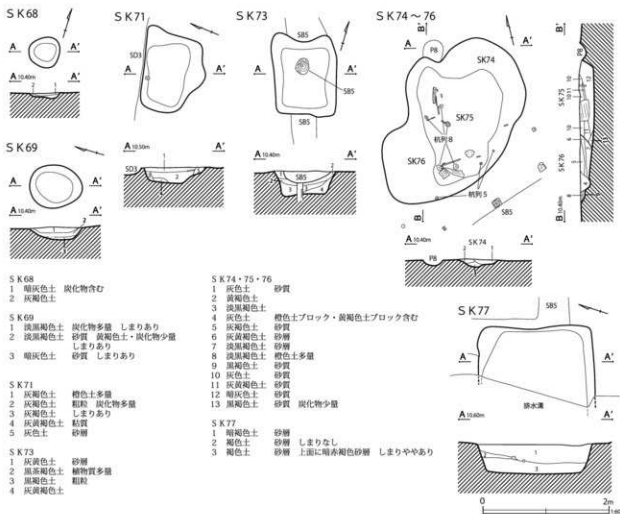
S K 34 ~ 37・72



第41図 土坑 (6)



第42図 土坑(7)



第43図 土壌 (8)

徹的な土壌について記す。

第35・36号土壌 (第41図)

G7-B9・10グリッドに位置する。第34・72号土壌と重複する。出土した陶磁器類のほとんどが被熱している。第58図223～第59図251に陶磁器類を図示した。最新期の遺物は、瀬戸美濃系磁器の型押寿文皿(233)、三田系青磁鉢(234)であり、両者は強く被熱している。出土陶磁器組成から1870年代頃の火災に伴う遺構と考えられる。

第50号土壌 (第42図)

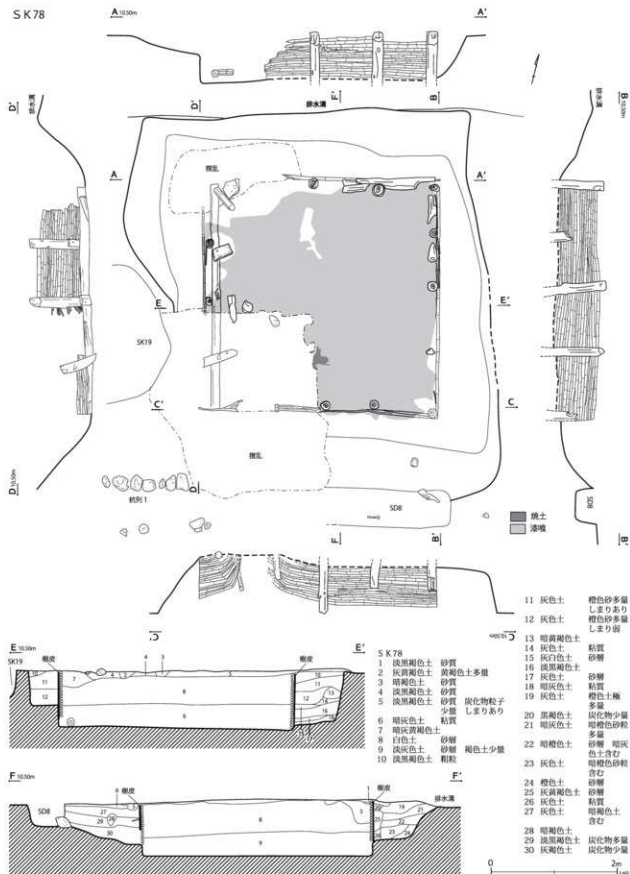
G7-C10、G8-C1グリッドに位置する。長軸4.28m、短軸1.90mの隅丸長方形の土壌である。覆土には焼土ブロックを多量に含み、出土した陶磁器類のほとんどが被熱している。第62

図305～第64図342に陶磁器類を図示した。最新期の遺物は、瀬戸美濃系磁器の篆書文染付端反碗(307)、型押寿文杯(309)であり、両者は被熱している。1870年代頃の火災に伴う遺構と考えられる。

第51号土壌 (第40図)

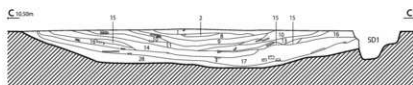
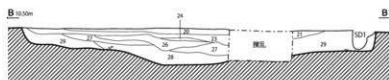
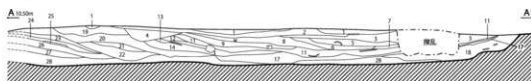
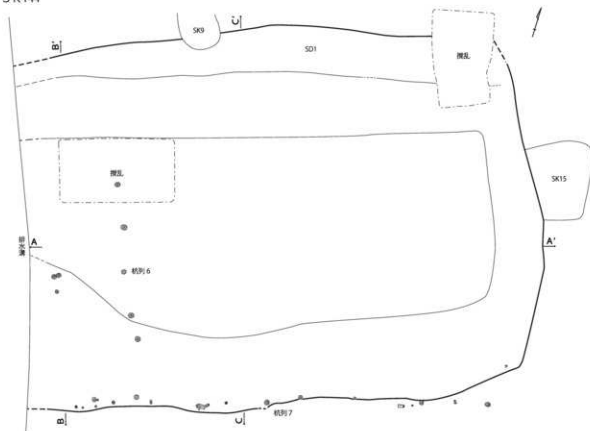
G8-C1グリッドに位置し、第46号土壌に壊されている。出土遺物は少量で、瀬戸美濃系磁器の酸化コバルト染付小型御神酒徳利(第64図343)、木札(第85図91・92)、銭貨(第99図21)、石板(第101図25)などが出土した。木札には「枅屋儀兵衛」「梅干」等の墨書が書かれる。覆土中の大型植物遺体について分析を行った結果、ウメ、スモモ、メロン仲間、イネ、ニホンカボチャ近似

SK78



第44図 土壌 (9)

S K 144



S K 144

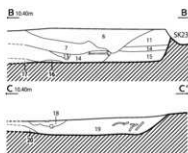
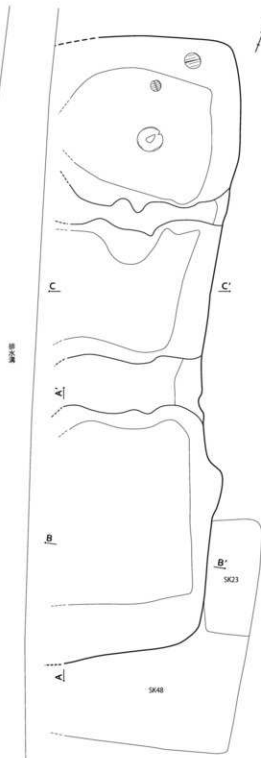
- | | |
|---------|--------------------|
| 1 暗灰色土 | 小礫多量 |
| 2 暗灰色土 | 小礫含む |
| 3 灰色土 | 小礫含む |
| 4 黒褐色土 | 層理面の植物層で分離 |
| 5 灰褐色土 | 層理面の植物層で分離 |
| 6 黒灰色土 | 小礫含む 層理面の植物層で分離 |
| 7 | |
| 8 暗灰色土 | 小礫含む 層理面の植物層で分離 |
| 9 暗灰色土 | 泥質 粘性あり 層理面の植物層で分離 |
| 10 暗褐色土 | 動物層含む |
| 11 暗灰色土 | 泥質 粘性あり 層理面の植物層で分離 |
| 12 灰色土 | |
| 13 黄褐色土 | 砂質 |
| 14 灰色土 | 粘性あり |
| 15 褐色土 | 褐色の植物片多量 |

- | | |
|----------|------------------|
| 16 黒灰色土 | |
| 17 暗黒灰色土 | 粘性強 |
| 18 黒灰色土 | 粘性強 |
| 19 暗灰色土 | 小礫含む 炭化物粒子多量 |
| 20 灰色土 | 小礫含む 炭化物粒子多量 |
| 21 灰色土 | 層理面の植物層で分離 |
| 22 黒灰色土 | 植物片多量 植物層で分離 |
| 23 暗灰褐色土 | 砂質 |
| 24 黒灰色土 | |
| 25 褐色土 | 褐色の植物片多量 |
| 26 暗灰色土 | 植物片多量 層理面の植物層で分離 |
| 27 黒灰色土 | 植物片多量 層理面の植物層で分離 |
| 28 暗黒灰色土 | 粘性強 |
| 29 | |

0 2m 1cm

第45図 土壌 (10)

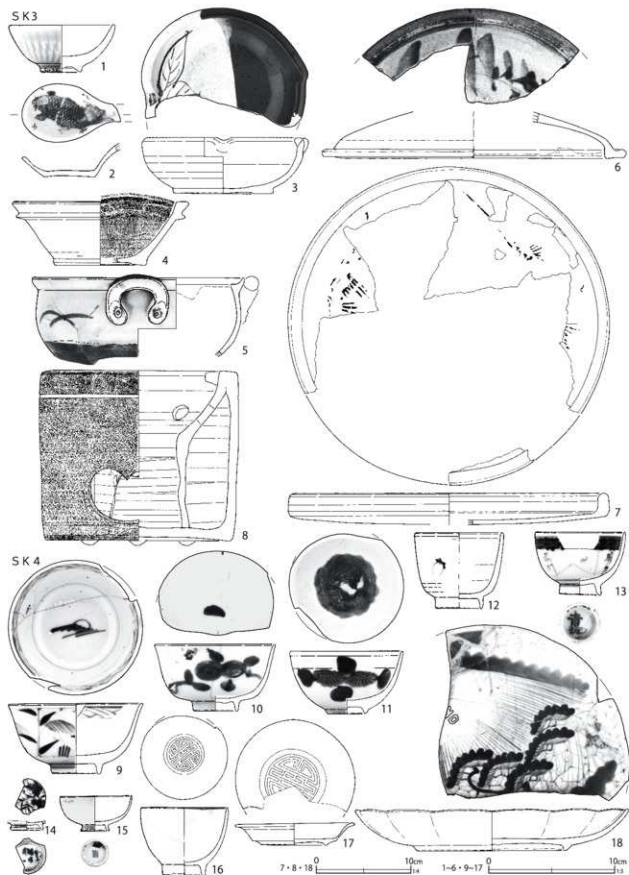
SK145



SK145

- | | |
|----------|---------------------|
| 1 黒色土 | 焼土ブロック・木片・樹皮混入 |
| 2 灰黄褐色土 | 灰色粘土含む しまりあり |
| 3 灰黄褐色土 | 粘質 |
| 4 暗灰色土 | 粘質 褐色土少量 |
| 5 黒色土 | 白色細礫多量 |
| 6 暗褐色土 | 小礫含む しまり強 |
| 7 黒色土 | 白色細礫多量 褐色土含む |
| 8 灰褐色土 | 黄褐色土粒子・炭化物少量 |
| 9 淡黒褐色土 | |
| 10 暗褐色土 | |
| 11 小礫層 | 黒褐色土・炭化物含む |
| 12 灰黄色土 | 砂質 |
| 13 灰黒褐色土 | 砂質 しまり強 |
| 14 暗赤褐色土 | 砂粒・植物片含む |
| 15 暗褐色土 | |
| 16 淡褐色土 | しまり非常に強 |
| 17 灰褐色土 | 植物片少量 |
| 18 灰色土 | 小礫・遺物含む |
| 19 暗灰色土 | 腐食植物層 炭分凝集層 小礫・遺物含む |
| 20 灰褐色土 | 砂質 |

第46図 土壌 (11)



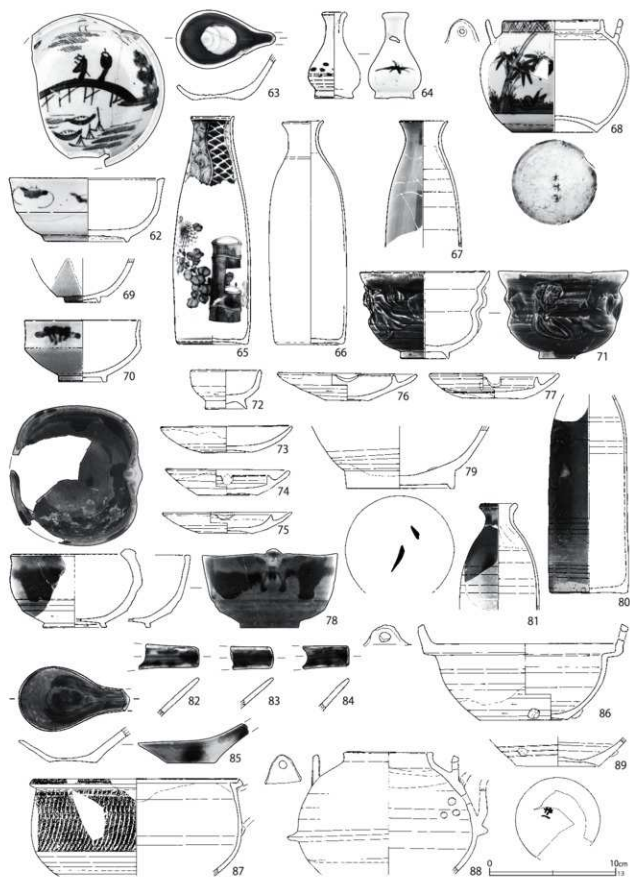
第47図 土城出土遺物（1）



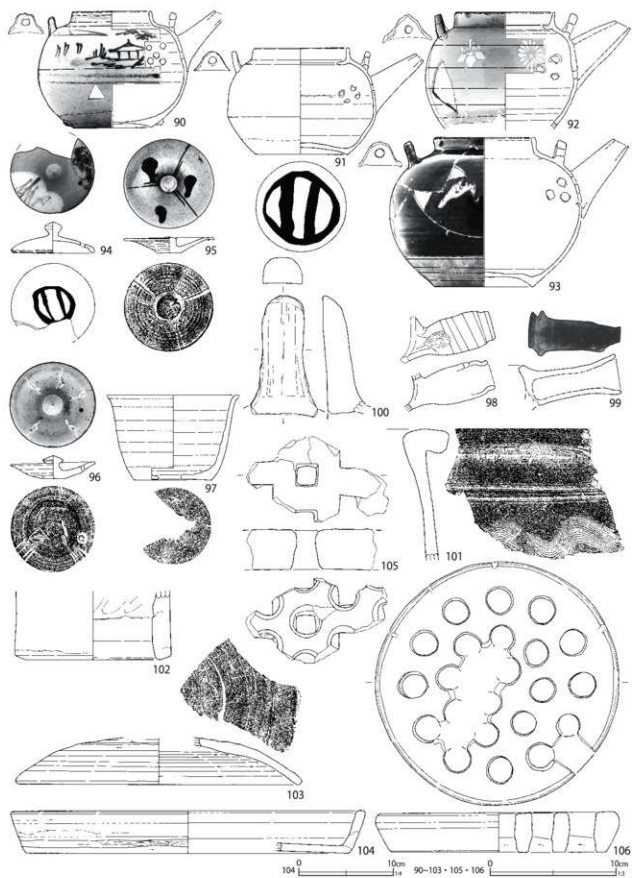
第48図 土壙出土遺物(2)



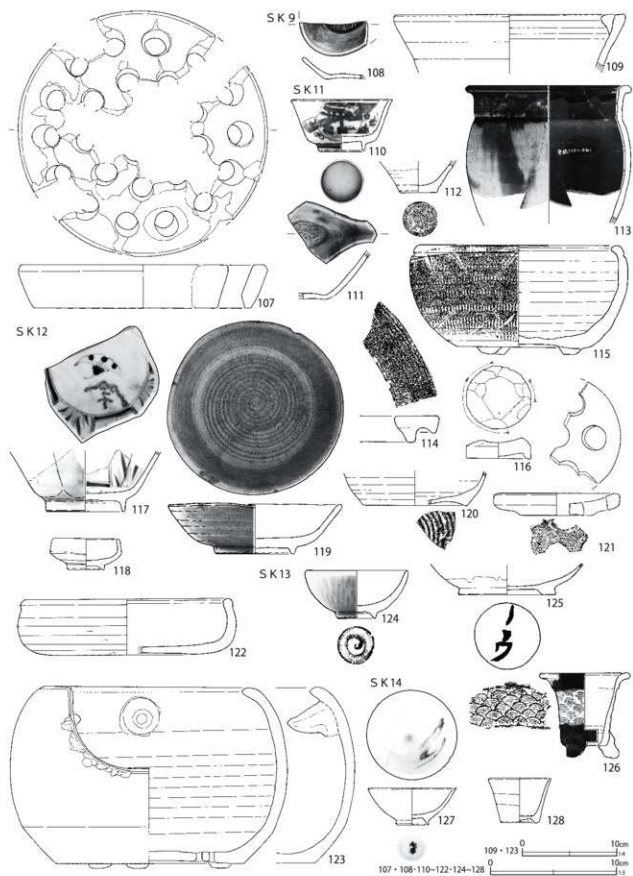
第49図 土曜出土遺物（3）



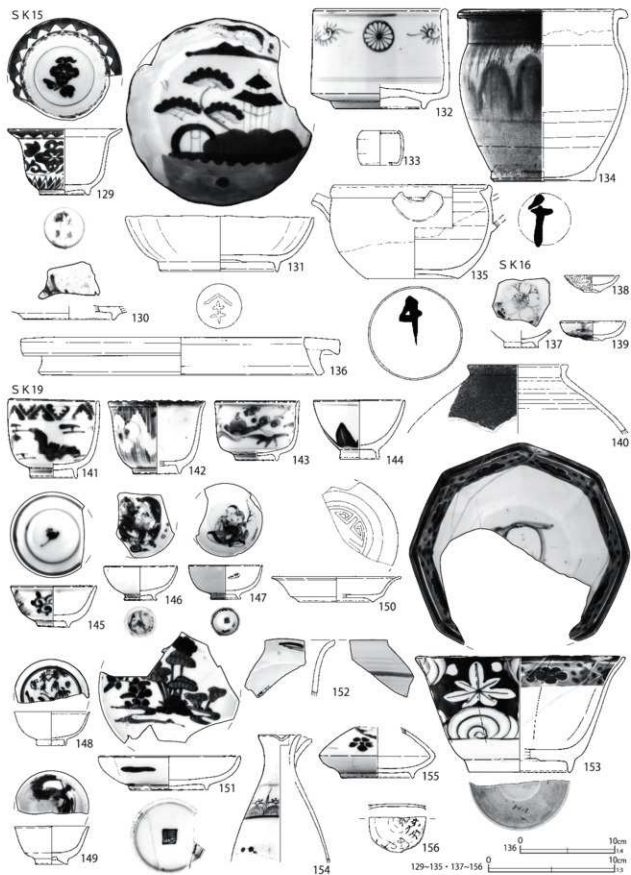
第50図 土壙出土遺物(4)



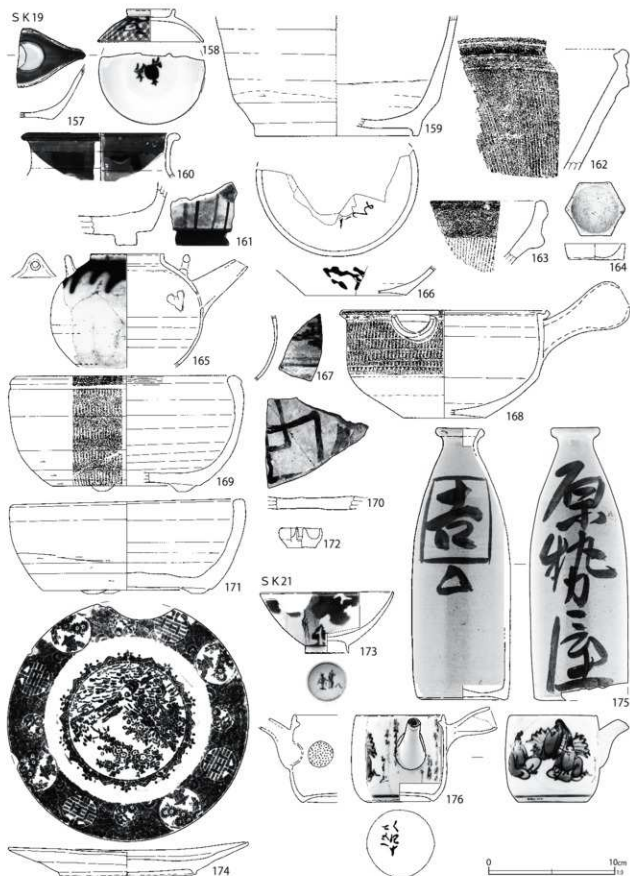
第51図 土曜出土遺物 (5)



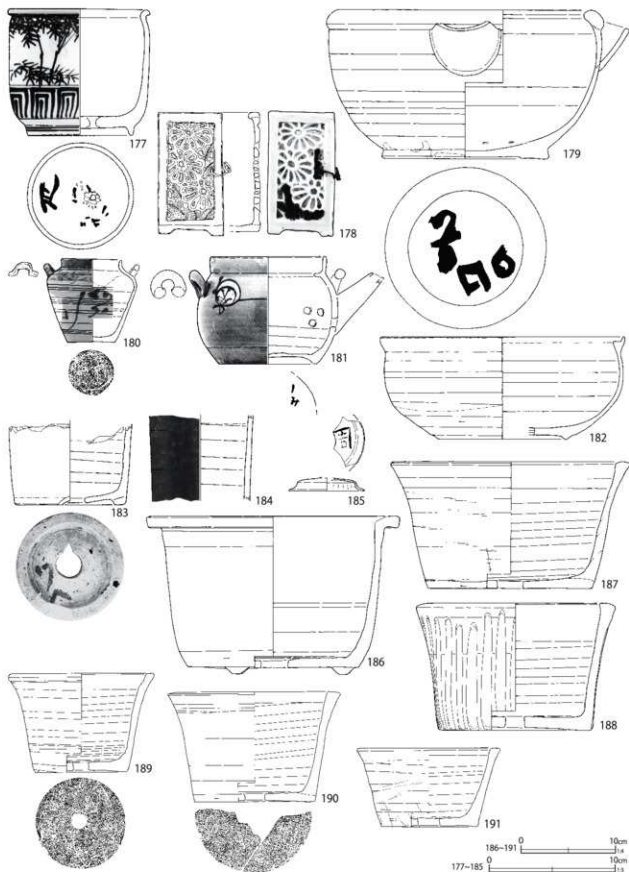
第52図 土壙出土遺物 (6)



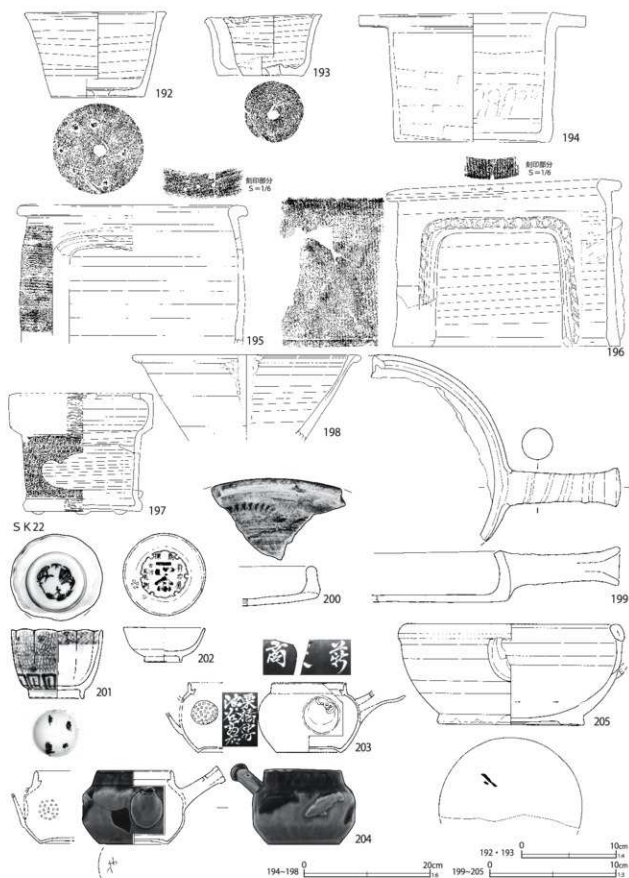
第53図 土壇出土遺物（7）



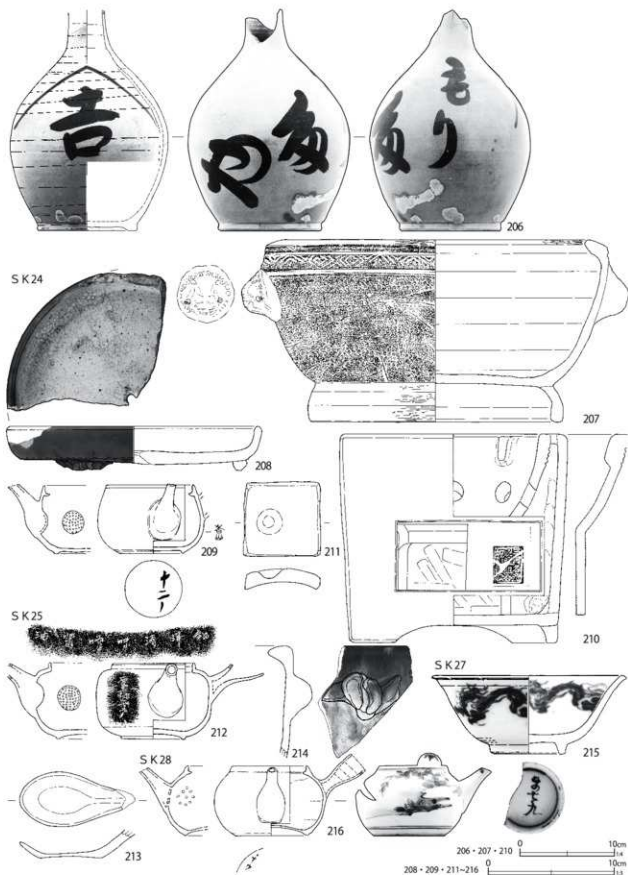
第54図 土壙出土遺物 (8)



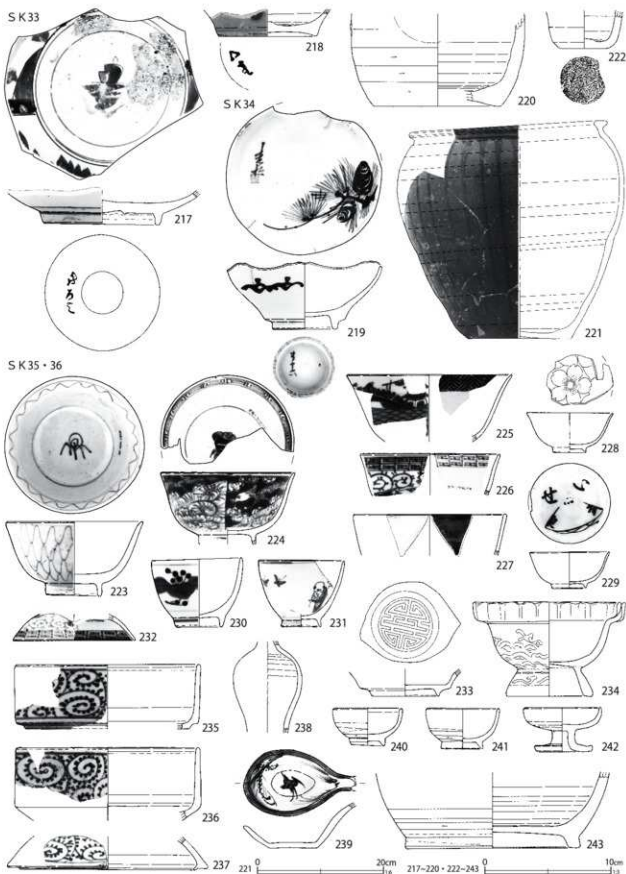
第55図 土曜出土遺物 (9)



第56図 土墳出土遺物 (10)



第57図 土壇出土遺物 (11)



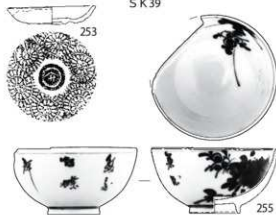
第58図 土壙出土遺物 (12)



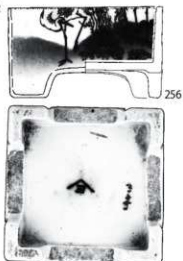
S K 38



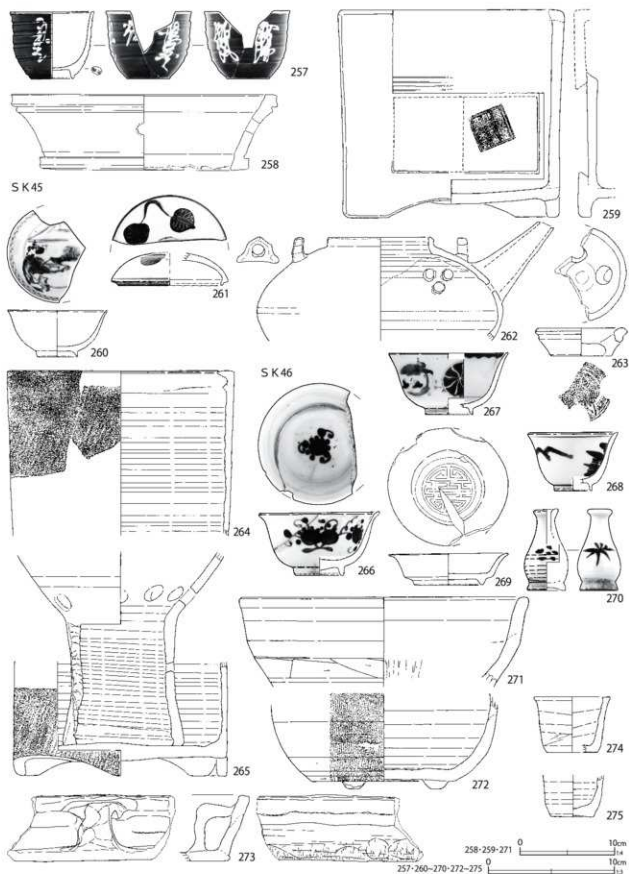
S K 39



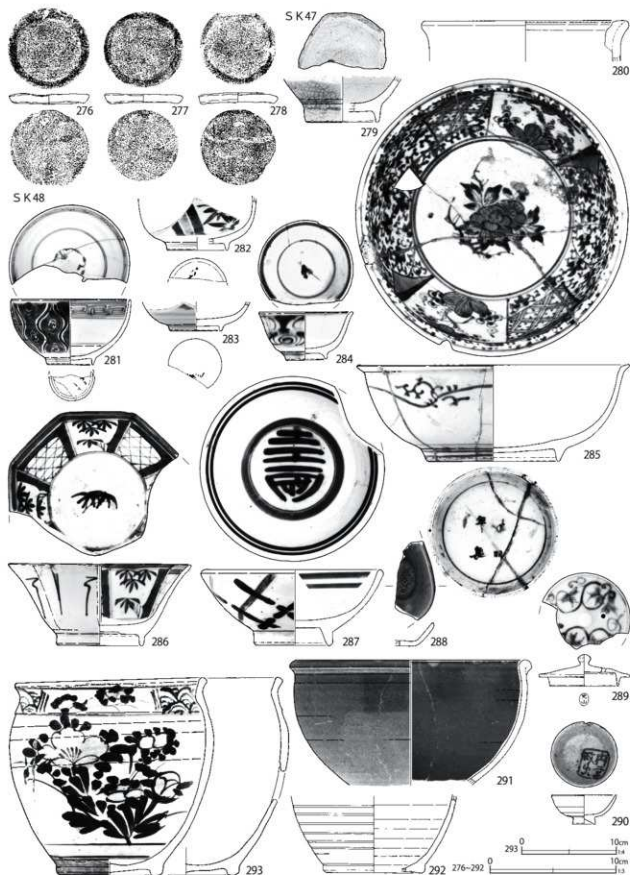
S K 42



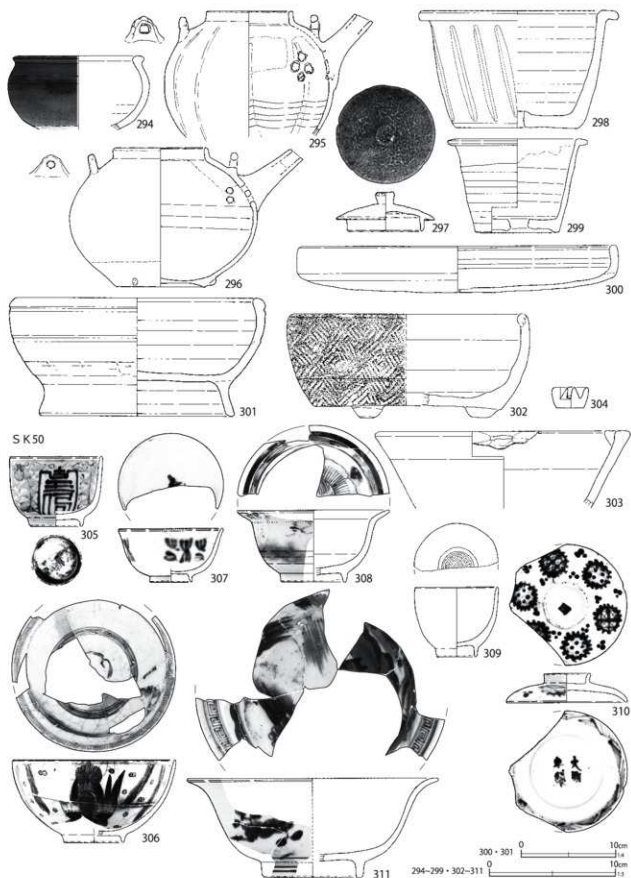
第59図 土壇出土遺物 (13)



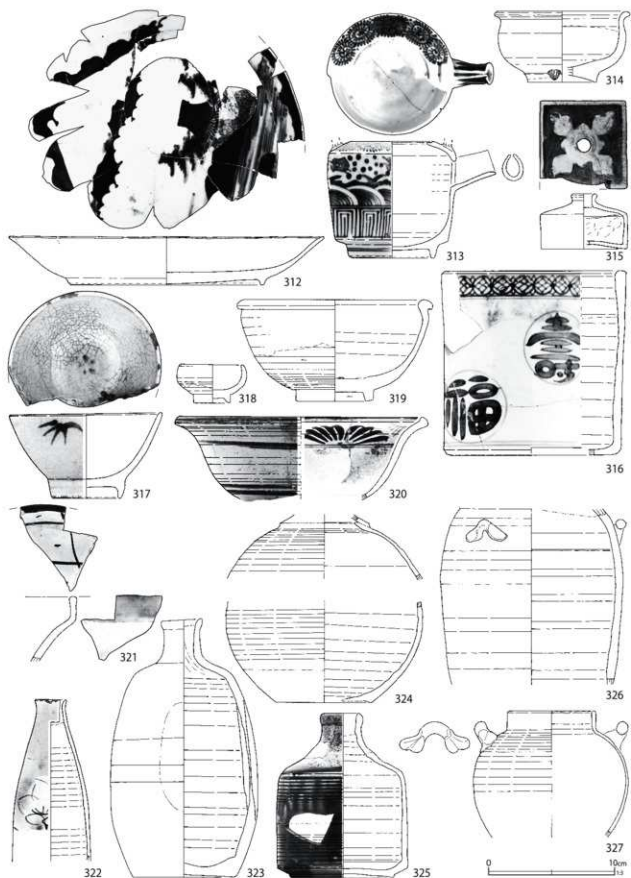
第60図 土墳出土遺物 (14)



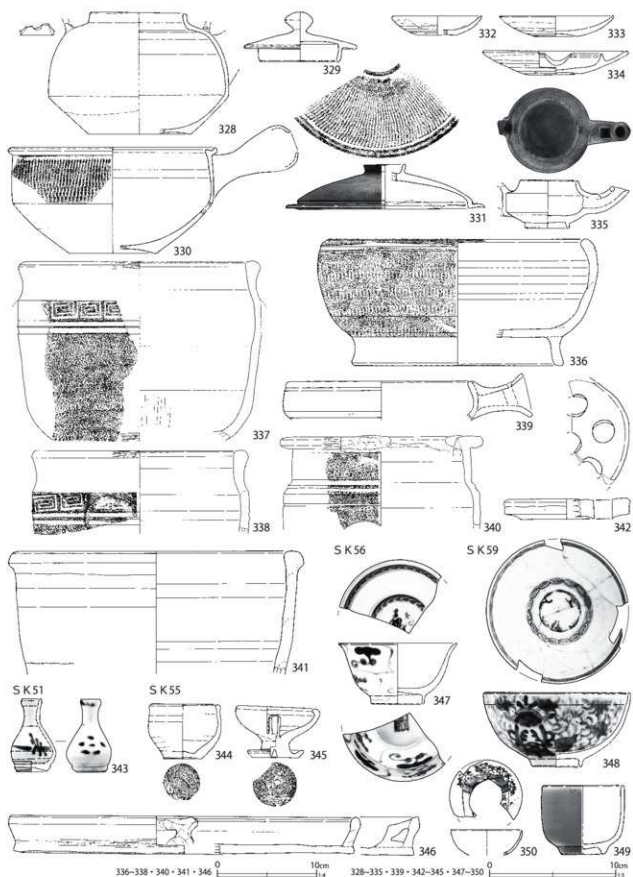
第61図 土壇出土遺物 (15)



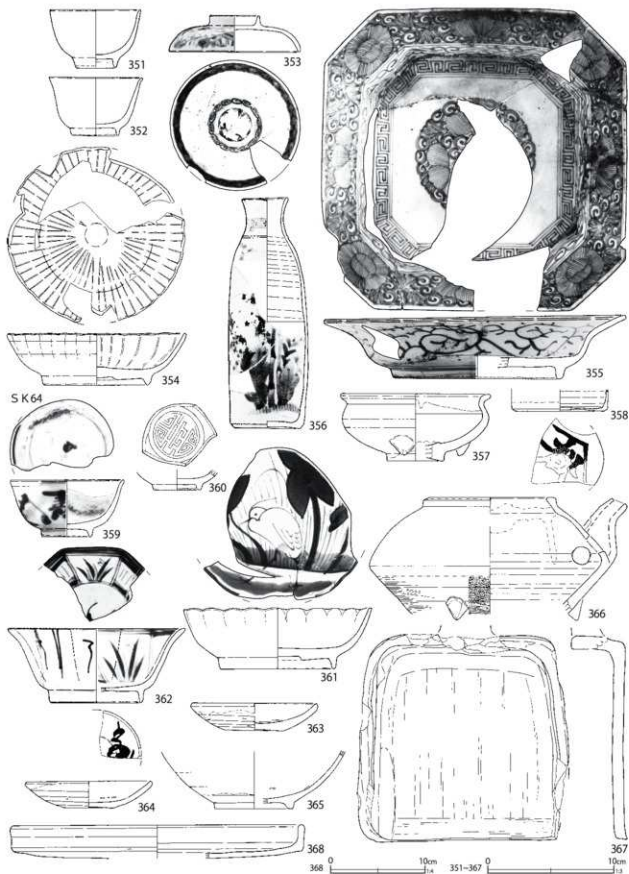
第62図 土壇出土遺物 (16)



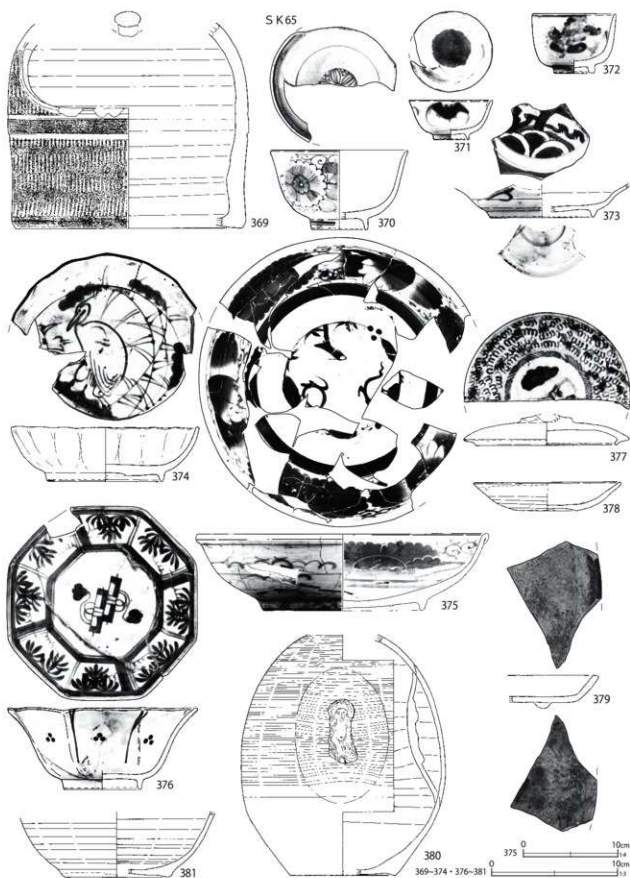
第63図 土壇出土遺物 (17)



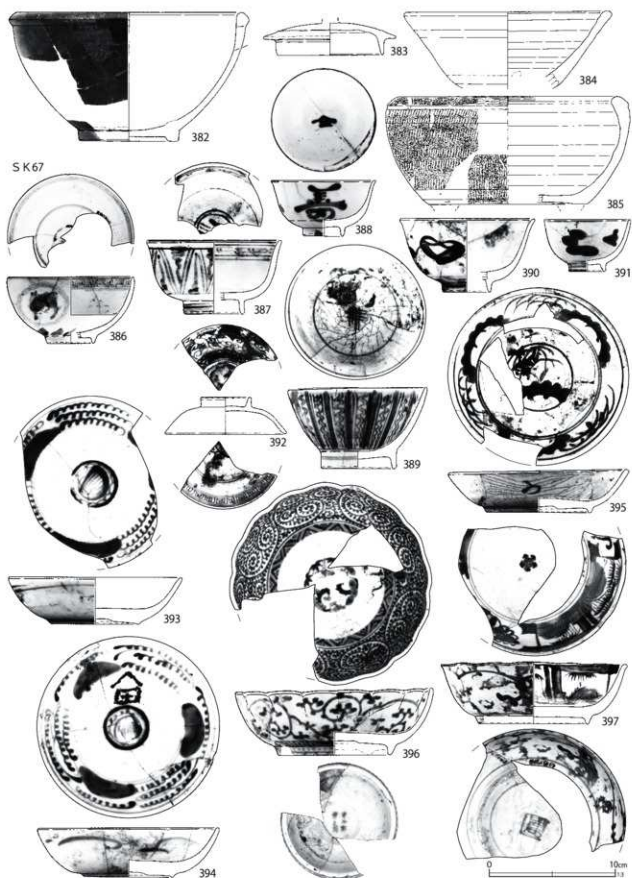
第64図 土壇出土遺物 (18)



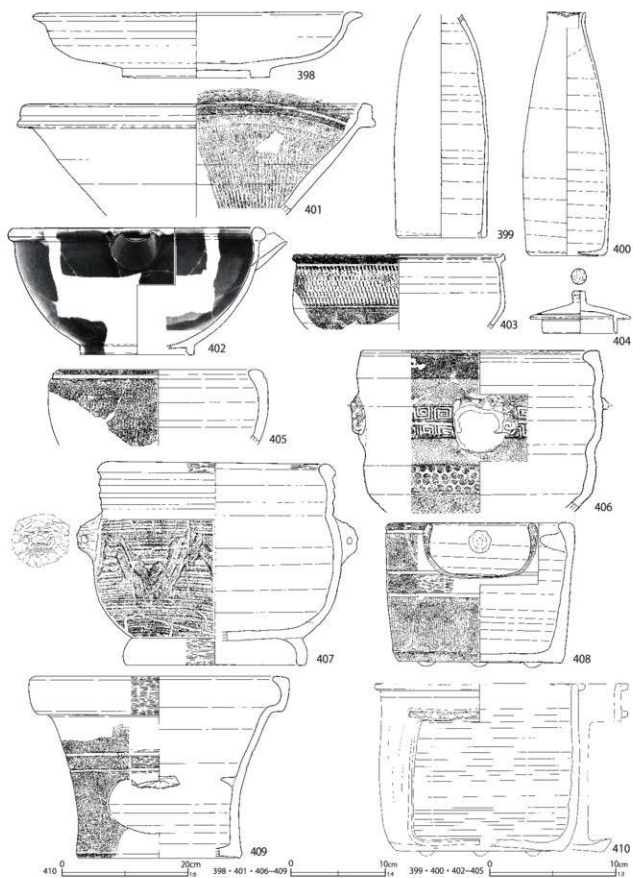
第65図 土曜出土遺物 (19)



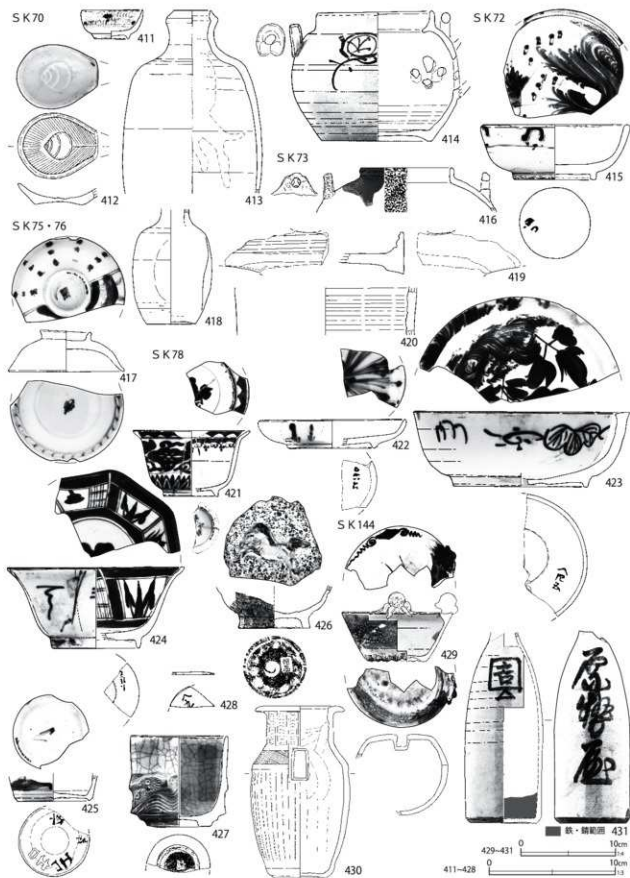
第66図 土壙出土遺物 (20)



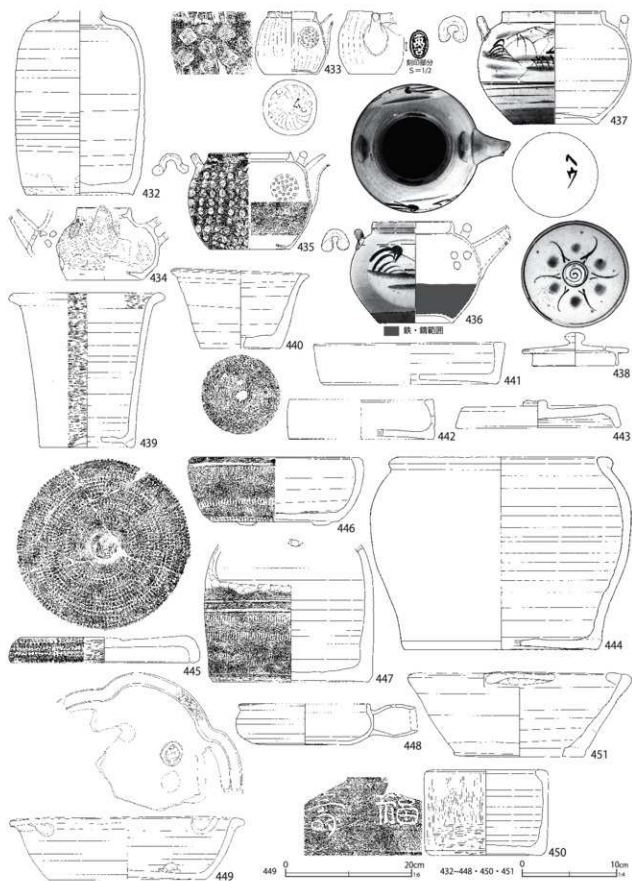
第67図 土城出土遺物 (21)



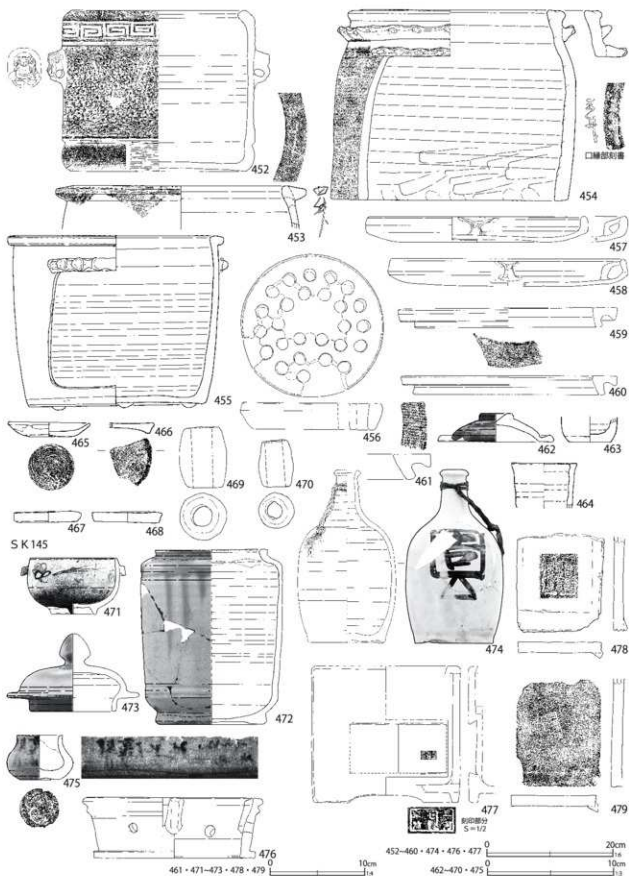
第68図 土壙出土遺物 (22)



第69図 土壌出土遺物 (23)



第70図 土壙出土遺物 (24)



第71図 土曜出土遺物 (25)

第15表 土壇出土遺物観察表(1) (第47~71図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	造構	備考	図版
1	磁器	坏	8.4	3.7	3.2	—	95	良好	白	SK3	瀬戸美濃系 クロム青磁軸 外面縮付施文	14-5
2	磁器	蓮華	長さ[7.8] 高さ[2.6]	幅4.8	—	—	70	良好	白	SK3	瀬戸美濃系 施軸 内面銅版転写施付、土絵付(赤)「市馬/ハコ/虎風」	
3	陶器	鉢	(12.2)	4.4	(8.0)	GK	55	普通	灰白	SK3	灰・鉄軸左右磨け分け 内面鉄絵	
4	陶器	描鉢	(13.6)	5.0	(7.2)	IK	30	良好	灰黄褐	SK3	益子系か、柿軸	
5	陶器	土鍋	(16.8)	[6.2]	—	GH	40	普通	にぶい黄	SK3	施軸 外面白土染付 煤付着 SK11と接合	
6	陶器	蓋	(24.0)	[3.7]	—	GK	15	普通	灰白	SK3	内面灰軸 外面白土染付 土鍋の蓋	
7	土師質土器	焙塔	32.4	[3.3]	—	CHK	40	普通	にぶい黄橙	SK3	底部シワ状痕 底部下位へラケズリ 内面墨書絵 SK13と接合	
8	瓦質土器	坩堝	20.1	18.3	19.5	ACP	80	良好	にぶい黄	SK3	砂目底、スノコ状圧痕 外面ミガキ、施文	14-6
9	磁器	碗	10.5	5.6	3.6	—	90	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 施軸 染付 同品他1個体 SK6と接合	
10	磁器	碗	(9.4)	5.3	3.3	—	50	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 施軸 染付 除刻 SK6に同品4個体あり	
11	磁器	碗	8.8	5.0	2.8	—	70	普通	白	SK4	瀬戸美濃系 施軸 染付 除刻	
12	磁器	碗	(6.8)	6.0	3.6	—	45	普通	白	SK4	瀬戸美濃系 施軸 外面染付	
13	磁器	碗	7.0	5.0	3.2	—	90	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 施軸 外面染付 同品他3個体 SK6と接合	
14	磁器	坏	—	[0.8]	2.4	—	20	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 施軸 内面上給付 外面染付	14-8
15	磁器	坏	5.6	2.8	2.0	—	95	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 施軸 外面染付 SK6と接合	
16	磁器	坏	6.8	5.4	3.2	—	80	普通	白	SK4	瀬戸美濃系 施軸 口紅 内面型押文 SK6と接合	
17	磁器	皿	9.1	1.8	5.0	—	70	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 施軸 内面型押文 SK6と接合	
18	磁器	皿	(28.7)	4.4	(15.4)	K	25	良好	白	SK4	肥前系 施軸 内面染付、釘書「吉」焼痕 高台内ハリ支取6 被熱	
19	磁器	燗德利	(2.8)	17.9	(5.6)	K	25	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 施軸 外面染付 被熱(弱) SK6と接合	
20	磁器	皿	10.7	2.5	5.9	—	95	普通	白	SK4	瀬戸美濃系 施軸 染付 焼痕印(赤) 同品他5個体 SK6と接合	
21	磁器	蓮華	長さ[8.4] 高さ[4.4]	幅4.6	—	—	90	普通	白	SK4	瀬戸美濃系 施軸 内面染付 被熱 煤付着	11-2
22	磁器	蓮華	長さ[7.7] 高さ[3.0]	幅4.6	—	—	90	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 施軸 内面染付 同品他4個体 (SK6含む)	
23	磁器	蓮華	長さ[3.9] 高さ[2.0]	幅[2.7]	—	—	5	良好	白	SK4	景徳鎮窯系 施軸 染付	
24	磁器	土瓶	7.4	[8.4]	—	—	70	普通	白	SK4	瀬戸美濃系 施軸 外面染付 内面煤付着 SK6と接合	
25	陶器	碗	(8.0)	6.3	4.7	—	40	普通	灰白	SK4	ヨーロッパ系 施軸 銅版転写施付 被熱 SK6と接合	
26	陶器	坏	(5.8)	5.2	3.6	GJK	30	良好	灰白	SK4	大塚相馬系か 施軸	
27	陶器	碗	(7.6)	[5.1]	—	GJK	20	普通	浅黄橙	SK4	施軸 外面鉄絵、白色軸給付 被熱	11-4
28	陶器	こね鉢か、	(19.2)	[7.1]	—	GJK	20	良好	灰白	SK4	灰軸 SK6と接合	
29	陶器	槌鉢鉢	(18.8)	8.6	9.4	GH	60	良好	にぶい赤褐	SK4	祐器質 焼成前穿孔 墨書	
30	陶器	燗德利	—	[8.8]	7.2	GI	45	普通	灰白	SK4	京都信楽系か 外面施軸 墨書「[森]吉」	
31	陶器	德利	—	[19.1]	7.6	GJK	85	普通	灰白	SK4	外面灰軸、面「原勢雄」銘鉄絵	
32	陶器	水注	7.0	8.7	6.5	—	100	良好	灰黄褐	SK4	京都信楽系 灰軸 墨書「今井」	
33	陶器	土瓶	(7.2)	8.3	6.5	IK	80	良好	灰黄	SK4	灰軸 外面白土染付 SK6と接合	
34	陶器	行平鍋	長さ[5.9] 高さ[4.9]	幅3.6	—	GJK	10	普通	浅黄橙	SK4	灰軸 把手	11-5
35	陶器	行平鍋	16.0	8.1	7.2	GJK	80	普通	灰白	SK4	柿軸拭き取り後トビガンナ状文 把手刻印	
36	陶器	行平鍋	(14.3)	[6.6]	—	GK	30	普通	褐灰	SK4	内面下位灰軸 外面トビガンナ状文 煤付着 SK19と接合	
37	陶器	豆甕	—	[2.5]	2.6	GJK	40	良好	灰白	SK4	外面銅緑軸 底部系切(右)	
38	陶器	槌鉢鉢	(8.2)	5.6	(4.0)	—	50	良好	橙	SK4	土師質 底部穿孔 高台部挟り1 外面露胎部に白磁給付	
39	陶器	槌鉢鉢か	—	[4.3]	—	GJK	10	普通	灰白	SK4	瀬戸美濃系 灰軸 外面鉄・須須給	
40	陶器	水漬	(5.8)	3.9	4.4	GJK	85	良好	灰白	SK4	京都信楽系 施軸 上面隔刻文	11-5
41	陶器	灯明皿	7.2	4.3	5.7	GJK	90	普通	灰白	SK4	京都信楽系 施軸 被熱	
42	陶器	香炉	10.5	9.1	10.3	GI	90	普通	灰白	SK4	京都信楽系 施軸 外面煤付着	
43	瓦質土器	火鉢か	(7.3)	[4.7]	—	AGK	40	普通	にぶい黄橙	SK4	外面ミガキ、施文 僅す SK19と接合	
44	瓦質土器	火鉢	17.2	8.9	11.1	CI	80	良好	にぶい黄橙	SK4	外面トビガンナ状文 やや酸化変色焼成	
45	土師質土器	焙塔	35.5	6.5	34.3	—	60	普通	赤褐	SK4	砂目底 全体全面煤付着 SK6と接合	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
46	瓦質土器	皿	(24.8)	1.8	(23.4)	CI	20	良好	橙	SK4	激しく被熱、変色	
47	磁器	碗	9.3	4.8	3.0	GI	90	普通	灰白	SK6	瀬戸美濃系 施釉 外面除刻文、染付 SK4と接合	
48	磁器	碗	10.1	5.4	3.6	—	80	普通	灰白	SK6	瀬戸美濃系 施釉 染付	
49	磁器	碗	8.9	4.5	3.4	—	100	良好	灰白	SK6	瀬戸美濃系 施釉 染付 同品他1個体	
50	磁器	碗	9.8	4.9	3.8	—	55	良好	灰白	SK6	瀬戸美濃系 施釉 染付	
51	磁器	碗	9.0	4.9	3.0	—	90	普通	灰白	SK6	瀬戸美濃系 施釉 染付 内面除刻文	
52	磁器	碗	(6.9)	4.4	(3.0)	—	45	普通	灰白	SK6	瀬戸美濃系 施釉 染付 同品他3個体	
53	磁器	杯	5.7	2.6	2.4	—	95	普通	白	SK6	瀬戸美濃系 施釉 染付 内面に染付(青)	
54	磁器	杯	7.0	3.5	2.6	—	100	普通	灰白	SK6	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
55	磁器	杯	5.5	2.9	2.4	—	90	普通	白	SK6	瀬戸美濃系 施釉 同品他1個体	
56	磁器	杯	5.8	2.6	2.6	—	90	普通	白	SK6	瀬戸美濃系 施釉 外面染付 内面に染付(青) SK19と接合	
57	磁器	杯	6.1	2.9	2.7	GI	100	普通	白	SK6	瀬戸美濃系 施釉 染付	
58	磁器	皿	11.2	2.4	6.4	GI	100	普通	灰白	SK6	瀬戸美濃系 施釉 染付 同品他2個体 SK4に同品あり	
59	磁器	皿	(15.0)	5.0	(9.8)	—	15	良好	白	SK6	肥前系 施釉 染付 底部墨書「か斗」	14-7
60	磁器	皿	(22.4)	3.4	12.4	I	40	普通	灰白	SK6	肥前系 施釉 染付 釘書「吉」焼印	14-9
61	磁器	皿	24.4	[2.8]	—	K	40	良好	白	SK6	肥前系 施釉 染付 SK19と接合	
62	磁器	鉢	12.1	5.0	6.7	K	45	普通	灰白	SK6	瀬戸美濃系 施釉 染付	
63	磁器	蓮華	長さ[7.9] 高さ[3.6]	幅4.7	—	—	80	普通	白	SK6	瀬戸美濃系 施釉 内面染付 SK4に同品4個体あり	
64	磁器	徳利	1.7	6.8	3.0	—	100	普通	灰白	SK6	瀬戸美濃系 外面施釉、染付 被熱(弱)	
65	磁器	燗徳利	3.2	18.0	5.3	—	90	普通	白	SK6	瀬戸美濃系 施釉 外面染付	
66	磁器	燗徳利	3.2	17.7	5.4	—	100	普通	白	SK6	瀬戸美濃系 施釉 同品他4個体	
67	磁器	燗徳利	3.7	[10.0]	—	IK	30	普通	白	SK6	瀬戸美濃系 外面施釉、染付(単色)	
68	磁器	土瓶	7.7	8.8	6.5	K	80	良好	白	SK6	瀬戸美濃系 施釉 外面染付 焼印(赤)	14-10
69	陶器	碗	—	[3.5]	2.7	IK	25	普通	灰白	SK6	京都信楽系 灰釉 外面鉄絵	
70	陶器	碗	(9.0)	4.9	(3.7)	K	25	良好	灰白	SK6	京都信楽系 灰釉 外面鉄絵	11-6
71	陶器	碗	10.0	6.9	3.6	K	90	良好	灰白	SK6	大塚相馬系 内面緑白釉 外面鉄絵、施文	11-7
72	陶器	杯	5.2	3.1	3.2	IK	100	普通	灰黄	SK6	瀬戸美濃系 灰釉 内面ビン痕3	
73	陶器	灯明皿	(10.2)	2.1	(3.8)	IK	50	良好	灰黄	SK6	京都信楽系 灰釉 内面ビン痕	
74	陶器	灯明皿	9.7	2.1	4.5	I	100	良好	にぶい黄橙	SK6	瀬戸美濃系 柿釉 外面拭き取り 輪状重ね 焼き痕 同品他1個体	
75	陶器	灯明皿	10.2	1.7	4.0	K	95	良好	灰白	SK6	京都信楽系 灰釉 同品他1個体	
76	陶器	灯明皿	10.8	2.1	3.4	IBK	90	良好	にぶい黄橙	SK6	京都信楽系 灰釉	
77	陶器	灯明皿	10.0	1.9	4.7	IK	95	良好	灰白	SK6	瀬戸美濃系 柿釉 底部拭き取り 輪状重ね 焼き痕	
78	陶器	鉢	9.0	6.2	4.9	I	80	良好	灰黄褐	SK6	施釉 鉄輪流し掛け 外面貼付文	
79	陶器	片口鉢	—	[4.9]	8.4	IK	65	良好	灰白	SK6	瀬戸美濃系 灰釉 内面目録3 墨書	14-11
80	陶器	燗徳利	—	[15.7]	5.6	I	65	良好	褐灰	SK6	外面漆黒鉄絵、柿釉上下掛け分け	
81	陶器	燗徳利	(2.7)	[8.4]	—	IK	40	普通	灰白	SK6	外面漆黒鉄絵、柿釉上下掛け分け	
82	陶器	蓮華	長さ[4.7] 高さ[3.2]	幅1.9	—	HK	10	良好	灰白	SK6	ヨーロッパ系 全面施釉	11-8
83	陶器	蓮華	長さ[3.4] 高さ[2.6]	幅1.8	—	K	10	良好	灰白	SK6	ヨーロッパ系 全面施釉	11-8
84	陶器	蓮華	長さ[3.2] 高さ[2.5]	幅1.8	—	K	10	良好	灰白	SK6	ヨーロッパ系 全面施釉	11-8
85	陶器	蓮華	長さ[8.7] 高さ[2.8]	幅5.1	—	—	70	良好	浅黄橙	SK6	ヨーロッパ系 全面施釉	11-8
86	陶器	鍋	15.0	7.5	6.9	GK	50	普通	灰白	SK6	柿釉	
87	陶器	行平鍋	(16.2)	[7.6]	—	—	30	良好	浅黄橙	SK6	柿釉 外面トビガンナ 把手欠失	
88	陶器	土瓶	6.8	[9.6]	—	—	60	良好	にぶい橙	SK6	外面鉄絵 胎土(粗)	
89	陶器	土瓶	—	[2.3]	6.5	K	50	普通	灰白	SK6	焼印(赤)	
90	陶器	土瓶	6.1	9.2	6.1	IK	90	良好	灰白	SK6	外面鉄絵、鉄絵	
91	陶器	土瓶	7.3	8.4	7.1	K	90	良好	灰白	SK6	外面鉄絵、白土染付 墨書	
92	陶器	土瓶	7.8	9.2	—	—	70	不良	にぶい黄橙	SK6	外面鉄絵、白盛絵付 同品他1個体	
93	陶器	土瓶	7.6	11.7	7.8	—	85	良好	浅黄橙	SK6	外面鉄絵、うのふ輪流し掛け	
94	陶器	蓋	6.2	2.4	—	K	80	良好	灰白	SK6	外面鉄絵、白土染付 内面墨書	
95	陶器	蓋	7.1	1.3	1.9	K	100	良好	灰白	SK6	上面鉄絵、鉄絵 下面黒化 下面糸切	
96	陶器	蓋	6.7	1.8	1.9	—	100	良好	灰白	SK6	上面鉄絵、イッチン絵付 回転糸切(右)	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
97	土師質土器	楕木鉢	(10.4)	6.7	6.1	AIK	40	普通	にぶい黄	SK6	胎土粉質 回転糸切(左)	
98	瓦質土器	鍋	長さ[7.1]	高さ[4.0]		CIK	5	普通	褐灰	SK6	穿孔1 外面指紋残る	
99	瓦質土器	鍋	長さ[7.6]	高さ[3.3]		HIK	10	不良	灰褐	焼す		
100	瓦質土器	十徳	長さ[9.4]	幅[4.9]		CHI	10	普通	灰白	SK6	底部シワ状痕 焼す	
101	瓦質土器	埴師	—	[10.3]	—	IK	5	普通	灰黄褐	SK6	外面櫛歯状文 口縁煤付着	
102	瓦質土器	埴師	—	[5.4]	(10.4)	IK	5	普通	にぶい黄	SK6	埴師中間か 内面煤付着	
103	瓦質土器	蓋	(21.8)	[3.8]	—	CFIK	15	普通	灰褐	焼す	胎衣煮の蓋か	
104	瓦質土器	焙焼	(36.5)	4.5	(34.0)	IK	10	普通	灰白	SK6	底部シワ状痕 焼す	
105	瓦質土器	目皿	縦[6.7]	横[10.7]		AIK	5	普通	明褐灰	SK6	上面付着物 被熱変色 SK4と接合	
106	瓦質土器	目皿	18.2	3.2	16.8	ACHIK	90	普通	にぶい黄橙	SK6	底部砂目ナゲ消し 上面付着物 被熱変色	
107	瓦質土器	目皿	(19.0)	3.4	(17.0)	ACTK	80	普通	明褐灰	SK6	底面ヘラナゲ 一部被熱変色 SK4と接合	
108	磁器	蓮華	長さ[5.0]	幅[5.2]		IK	25	普通	灰白	SK9	淡路県平系 緑色釉 内面陰刻	
109	瓦質土器	器台	(23.0)	[6.2]	—	CH	10	普通	にぶい黄橙	SK9	やや酸化灰焼成 口縁煤付着	
110	磁器	坪	(7.8)	4.1	3.5	—	60	良好	白	SK11	瀬戸美濃系 施釉 外面顔転写染付	
111	磁器	蓮華	長さ[5.7]	幅[4.8]		K	45	良好	灰白	SK11	淡路県平系 黄色釉 内面陰刻 底部ピン痕2	
112	陶器	豆壺	—	[2.5]	2.8	K	10	良好	にぶい黄橙	SK11	灰輪 中心糸切(右)	
113	陶器	壺	(12.4)	[10.9]	—	IK	25	良好	灰	SK11	笠間系 内面柿輪 外面二彩輪 口縁鉄軸流し掛け	
114	瓦質土器	竜蹄	—	[2.1]	—	CEI	5	普通	にぶい黄橙	SK11	焼す 外面刻印	14-12
115	瓦質土器	火鉢	(15.5)	8.6	10.3	CH	70	普通	にぶい黄橙	SK11	口縁ミガキ 外面トビガンナ状文 焼す	
116	陶器	碗	径5.0	重さ39.7g		HIK	—	普通	灰白	SK11	円盤状製品転用	
117	磁器	鉢	—	[4.8]	6.0	HIK	60	良好	白	SK12	肥前系 施釉 染付 内面釘書「今」	
118	陶器	鉢	5.0	2.5	2.8	—	100	良好	にぶい黄橙	SK12	灰輪	
119	陶器	皿	13.5	3.9	6.0	IK	95	良好	にぶい黄橙	SK12	口縁歪み 刷毛目輪 同品他1個体	
120	陶器	土瓶	—	[2.7]	(8.1)	IK	5	普通	褐灰	SK12	備前系か 胎土胎質	
121	土師質土器	目皿	(8.9)	1.7	(5.8)	IK	30	普通	にぶい黄	SK12	下面糸切痕	
122	土師質土器	鍋	(15.8)	4.4	(10.8)	CFHIK	40	普通	にぶい黄	SK12	把手欠失 内面若干煤付着	
123	瓦質土器	火鉢	21.5	19.2	19.6	CIK	95	良好	黒	SK12	外面ミガキ 底部ヘラナゲ、穿孔6 焼す	
124	磁器	坪	8.0	3.8	2.8	—	100	良好	灰白	SK13	瀬戸美濃系 クロム青磁輪 外面櫛状文 同品他1個体	
125	陶器	瓶類か	—	[2.6]	7.6	IK	10	良好	黄灰	SK13	施釉 墨書	
126	陶器	楕木鉢	(6.6)	6.8	3.3	EIK	85	普通	にぶい黄橙	SK13	底部糸切後穿孔 外面鉄輪、イッタン描き	
127	磁器	坪	6.8	2.9	2.4	—	95	良好	白	SK14	瀬戸美濃系 施釉 内面上絵付(青) 高台内「永口」銘染付	
128	磁器	坪	4.8	3.5	2.8	—	95	良好	灰白	SK14	肥前系 施釉	
129	磁器	碗	9.0	5.2	3.9	K	80	良好	白	SK15	肥前系 施釉 染付	
130	磁器	皿	—	[1.6]	(7.1)	IK	5	良好	灰白	SK15	肥前系 施釉 染付 高台登付砂付着 初期伊万里様式	
131	磁器	皿	14.5	4.3	8.9	HIK	80	良好	灰白	SK15	肥前系 施釉 内面染付 口口 釘書「今」	
132	磁器	香炉	10.6	7.9	7.0	GI	100	普通	明緑灰	SK15	肥前系 外面施釉、染付 内面重ね焼き痕	
133	磁器	小皿か	(2.8)	2.7	(3.0)	K	40	良好	白	SK15	瀬戸美濃系 施釉	
134	陶器	壺	12.4	13.6	7.8	IK	95	普通	灰黄	SK15	笠間系 内面鉄化乾か 外面二彩輪 口縁鉄軸流し掛け 底部白化粧	11-9 14-13
135	陶器	行平鍋	12.2	7.4	7.2	GIK	60	普通	浅黄	SK15	施釉(外面刷毛目輪) 墨書	
136	瓦質土器	竜蹄	26.2	4.0	29.2	EIK	100	不良	浅黄橙	SK15	全面煤付着	
137	磁器	坪	—	[1.4]	2.6	—	30	良好	白	SK16	瀬戸美濃系 施釉 上絵付(金、赤、青)	
138	磁器	紅皿	4.2	1.3	2.2	—	65	良好	白	SK16	肥前系 施釉 外面櫛状文	
139	磁器	坪	5.0	1.5	1.6	—	75	良好	白	SK16	瀬戸美濃系 施釉 外面染付	
140	陶器	土瓶	(7.7)	[5.4]	—	K	5	良好	にぶい黄橙	SK16	松間系 外面鉄肌輪、灰軸流し掛け	
141	磁器	碗	6.9	5.2	3.6	—	95	良好	白	SK19	瀬戸美濃系 施釉 外面染付 若干煤付着	
142	磁器	碗	(7.6)	5.7	(3.6)	K	40	良好	白	SK19	瀬戸美濃系 施釉 染付	
143	磁器	碗	6.5	4.7	3.1	—	80	良好	白	SK19	瀬戸美濃系 施釉 外面染付 若干煤付着	
144	磁器	碗	(7.0)	4.7	3.0	—	55	良好	灰白	SK19	瀬戸美濃系 施釉 外面染付	
145	磁器	坪	7.7	3.2	4.4	—	80	良好	白	SK19	瀬戸美濃系 施釉 染付	
146	磁器	坪	(5.7)	2.7	2.4	—	60	良好	白	SK19	瀬戸美濃系 施釉 内面上絵付(青) 外面染付	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
147	磁器	坏	5.7	2.7	2.2	—	70	良好	白	SK19	瀬戸美濃系 施軸 内面上絵付(赤, 茶, 黒) 外面染付	
148	磁器	坏	(6.0)	2.7	2.2	—	50	良好	白	SK19	瀬戸美濃系 施軸 内面上絵付(青) 外面染付	
149	磁器	坏	(5.9)	3.0	2.6	GI	50	普通	灰白	SK19	瀬戸美濃系 施軸 内面上絵付(青)	
150	磁器	皿	(10.0)	2.0	(5.8)	K	40	良好	白	SK19	瀬戸美濃系 施軸 内面聖押寿文	
151	磁器	皿	(11.0)	2.7	6.0	IK	50	良好	白	SK19	瀬戸美濃系 施軸 染付 SK4, 6に同品あり SK18と接合	
152	磁器	香炉か	—	[4.5]	—	K	5	良好	灰白	SK19	肥前系 施軸 内面染付 外面横帯状鉄軸	
153	磁器	鉢	16.2	9.1	(7.8)	K	50	良好	白	SK19	肥前系 施軸 染付 焼継印 墨書	14-14
154	磁器	燗徳利	3.3	[10.2]	—	GI	40	普通	灰白	SK19	瀬戸美濃系 施軸 外面染付 焼継痕	
155	磁器	油壺	—	[4.0]	5.6	—	50	普通	灰白	SK19	瀬戸美濃系 外面施軸, 染付	
156	磁器	燗徳利	—	[0.5]	—	—	10	普通	灰白	SK19	瀬戸美濃系 内面施軸 墨書「森田や」焼継印(赤)	14-15
157	磁器	蓮華	長さ[5.3] 高さ[4.3]	幅[4.6]	—	—	80	普通	白	SK19	瀬戸美濃系 施軸 内面扇刻状文, 染付	
158	磁器	蓋	8.4	2.6	3.8	K	60	良好	白	SK19	瀬戸美濃系 施軸 染付	
159	陶器	甕	—	[9.5]	12.8	K	30	良好	灰白	SK19	瀬戸美濃系 柿輪 横木鉢転用 墨書	
160	陶器	甕	(11.5)	[3.5]	—	IK	5	良好	褐灰	SK19	笠間系 内面柿輪 外面二彩輪 口縁鉄軸	
161	陶器	水鉢か	—	[5.0]	—	HI	5	良好	灰白	SK19	瀬戸美濃系 灰軸 外面絵付(緑, 赤) 下部鉄化粧	
162	陶器	播鉢	—	[9.5]	—	—	5	普通	橙	SK19	堺明石系 内面播目 煤付着	
163	陶器	播鉢	—	[5.3]	—	DEIK	5	良好	にぶい橙	SK19	笠間系 内面播目 柿輪	
164	陶器	合子	4.8	1.3	4.1	GI	100	良好	灰白	SK19	京都系か 型成形 白色胎土	
165	陶器	土瓶	(5.8)	[8.9]	—	—	30	良好	灰白	SK19	外面灰軸, 一部緑軸 被熱	
166	陶器	行平鍋	—	[3.3]	(8.0)	I	5	普通	浅黄橙	SK19	内面柿輪 外面墨書「くもく」	14-16
167	陶器	土瓶	—	[8.2]	—	GIK	10	普通	にぶい黄橙	SK19	外面灰軸, 鉄給	
168	陶器	行平鍋	16.1	8.5	6.5	IK	70	不良	灰白	SK19	柿輪 外面トビガンナ 底部煤付着 SK6接合	
169	瓦質土器	火鉢	17.0	9.0	(11.8)	CHI	75	普通	明褐灰	SK19	口縁にガキ 外面トビガンナ状文 燻す	
170	瓦質土器	火鉢	幅[8.0]	高さ[1.0]	—	CHI	5	良好	灰	SK19	内面墨書	14-17
171	瓦質土器	火鉢	17.8	7.4	13.4	CFHK	90	普通	にぶい黄橙	SK19	底部ヘラナデ やや酸化炎焼成済み	
172	土師質土器	茶碗	3.1	1.6	2.3	AHIK	95	普通	橙	SK19	灯芯立土端煤付着 胎土粉質	
173	磁器	碗	10.4	4.8	3.4	—	70	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 施軸 外面酸化コバルト染付 焼継印(赤)	
174	磁器	皿	10.4	2.6	10.4	—	90	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 施軸 内面銅版転写染付 歪む	
175	陶器	燗徳利	3.5	21.4	6.6	IK	90	良好	灰黄	SK21	瀬戸美濃系 外面灰軸, 「原勢屋」 「国ノ△」 銘鉄給	14-18
176	磁器	急須	6.8	7.4	5.3	—	95	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 施軸 外面酸化コバルト染付 焼継印(赤)「く四七 口五」	
177	磁器	香炉	10.8	10.0	8.2	K	95	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 施軸 外面酸化コバルト染付 柿木鉢転用 墨書	
178	磁器	香炉か	5.0	9.8	5.0	—	75	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 板作成形 施軸透彫 外面陰刻, 染付 銅線残存	
179	陶器	片口鉢	(20.0)	11.7	12.8	IK	80	良好	灰白	SK21	外面灰軸 内面目跡10 墨書	
180	陶器	壺	(4.6)	6.6	3.6	GIK	60	普通	灰黄	SK21	底部糸切 館輪 外面樹皮状文	
181	陶器	土瓶	(9.0)	8.5	7.8	—	95	良好	にぶい黄橙	SK21	外面灰軸, 鉄給 底部墨書	
182	陶器	鍋	(19.0)	8.1	(10.0)	—	50	良好	浅黄橙	SK21	内面灰軸 外面鉄軸 底外面煤付着	
183	陶器	植木鉢	—	[6.6]	8.5	IK	95	良好	灰白	SK21	外面鉄軸 上部二次底付 底部墨書	
184	陶器	植木鉢	—	[6.8]	—	IK	5	良好	にぶい赤褐	SK21	外面鉄軸	
185	陶器	蓋	(6.0)	[1.0]	—	—	10	普通	赤灰	SK21	萬古系 型成形 全体布圧痕 文「国」	
186	瓦質土器	植木鉢	(26.1)	16.7	18.1	CFHK	65	普通	にぶい橙	SK21	底部スノコ状底付, 穿孔 燻す	11-11
187	瓦質土器	植木鉢	(23.5)	13.4	17.1	CFHI	45	良好	灰白	SK21	底部ヘラナデ, 穿孔 強く燻す	11-11
188	瓦質土器	植木鉢	18.2	13.5	15.8	CFH	60	普通	にぶい黄橙	SK21	砂目底 やや酸化炎焼成 燻す	11-11
189	瓦質土器	植木鉢	15.0	10.5	9.7	CI	65	良好	黄灰	SK21	底部糸切瓶ナデ消し, 穿孔 燻す	11-11
190	瓦質土器	植木鉢	(15.3)	11.6	12.5	A1	35	普通	灰	SK21	回転糸切(左) 底部穿孔 燻す	11-11
191	瓦質土器	植木鉢	(14.8)	8.3	10.0	CHI	60	普通	灰白	SK21	底部平滑にナデ, 穿孔 燻す	11-11
192	瓦質土器	植木鉢	14.7	9.0	9.7	CHI	70	普通	灰黄	SK21	回転糸切(左) 底部穿孔 燻す	11-11
193	瓦質土器	植木鉢	10.1	6.5	6.2	AI	80	普通	灰白	SK21	回転糸切(左) 底部穿孔 燻す	11-11
194	瓦質土器	瓶矩焼	25.5	20.3	24.2	CFIK	90	普通	にぶい橙	SK21	平面方形 砂目底 外面砂目をヘラナデ消し	
195	瓦質土器	燗鉢	32.8	[22.0]	—	CHIK	70	普通	褐灰	SK21	外面樹皮波状文 口縁刻印 煤付着	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
196	瓦質土器	埴師	31.3	26.6	(35.6)	BGR	55	良好	灰白	SK21	口縁刻印、煤付着 焼す	
197	瓦質土器	埴師	19.5	19.3	17.9	CHI	80	良好	にぶい橙	SK21	砂目底 外面ミガキ、亀甲文 焼す	
198	瓦質土器	横木鉢か	(34.0)	[13.8]	—	CFH	25	普通	灰黄	SK21	表面腹の貼付文剥落 焼す	
199	土師質土器	鍋	長さ[19.6] 高さ[4.0]	—	—	CFH	60	普通	にぶい橙	SK21	砂目底 煤付着	
200	土師質土器	焙烙	—	[2.6]	—	CHIK	5	普通	灰白	SK21	底部シワ状痕 内面墨書 外面煤付着	
201	磁器	碗	7.0	5.5	4.3	—	70	普通	灰白	SK22	肥前系 施釉 染付 同品他1個体 SK21に同品2個体	
202	磁器	坏	6.3	2.8	2.8	GI	100	普通	灰白	SK22	瀬戸美濃系 施釉 内面上絵付(赤、青、金)	
203	陶器	急須	5.8	5.5	5.2	—	60	良好	黒褐	SK22	萬古系 口唇部、把手端部施釉 外面イチン文字絵付	15-1
204	陶器	急須	5.7	6.2	5.4	K	80	良好	灰白	SK22	外面灰・鉄軸掛け、貼付文 墨書	
205	陶器	片口鉢	(16.4)	8.0	11.2	IK	50	良好	にぶい黄橙	SK22	灰釉 内面目跡4残存 墨書「二」	
206	陶器	徳利	—	[23.1]	10.3	IK	80	普通	灰白	SK22	外面灰釉、「舍」/もり田や銘鉄絵	15-2
207	瓦質土器	火鉢	32.0	19.3	25.9	HIMK	95	普通	黒	SK22	砂目底 口縁、脚ミガキ ローラースタンプ 施文後すり消し 焼す	
208	陶器	鉢	(19.4)	3.5	(17.8)	IK	30	良好	灰白	SK24	瀬戸美濃系 灰釉 外面緑釉流し掛け 内面目跡2残存 底部2次穿孔	
209	陶器	急須	6.8	5.9	5.0	GK	80	普通	暗赤褐	SK24	萬古系 把手下刻印「香山」 底部墨書	14-19
210	土師質土器	埴師	24.2	22.0	22.2	ADCHK	90	普通	にぶい橙	SK24	三河産 外面ミガキ 窓部刻印	14-20
211	土師質土器	埴師	長さ5.8 幅4.0	—	—	ABHKK	100	普通	にぶい橙	SK24	三河産か 埴師の屋	
212	陶器	急須	6.0	5.7	5.0	—	100	普通	灰褐	SK25	萬古系 外面刻字	15-3
213	陶器	蓮華	長さ[8.9] 幅4.2 高さ[2.2]	—	—	—	70	良好	灰白	SK25	灰釉	
214	陶器	火鉢	—	[8.8]	—	GMB	15	普通	にぶい赤褐	SK25	笠間系か 外面二彩釉流し掛け	11-10
215	磁器	鉢	14.7	6.2	5.2	K	60	良好	白	SK27	瀬戸美濃系 施釉 脚部転写染付 焼継印(赤)	15-4
216	磁器	急須	5.8	6.4	5.7	—	80	良好	白	SK28	瀬戸美濃系 施釉 外面酸化コバルト染付 底部墨書	15-5
217	陶器	皿	—	[2.4]	9.0	—	50	良好	白	SK33	瀬戸美濃系 内面色絵(赤、緑、茶) 外面酸化コバルト染付 焼継印(赤)「きろ口」	15-6
218	陶器	徳利	—	[2.1]	(7.6)	K	10	良好	灰白	SK33	外面灰釉・鉄軸流し掛けか 底部墨書	15-7
219	磁器	鉢	10.9	4.9	4.7	—	80	良好	白	SK34	瀬戸美濃系 施釉 酸化コバルト染付 焼継印(赤)	15-8
220	陶器	徳利	—	[7.3]	(10.0)	I	10	良好	赤褐	SK34	備前系 塗土 底部叩み	
221	陶器	壺	28.0	33.7	16.3	DEHK	80	良好	灰	SK34	丹波系 内面灰釉 外面鉄軸、上位灰釉流し掛け 内面目跡8 底部輪状重ね焼き痕 SK35・36・125・SD1接合	
222	土師質土器	焼塩壺	—	[2.9]	3.7	IK	25	良好	橙	SK34	回転糸切(左) 内面強い回転ナデ 被熱赤化	
223	磁器	碗	10.6	5.8	4.1	—	100	普通	白	SK35-36	肥前系 施釉 染付 被熱	
224	磁器	碗	10.4	[5.7]	—	—	50	普通	白	SK35-36	瀬戸美濃系 施釉 染付 被熱	
225	磁器	碗	(12.9)	[5.3]	—	—	50	良好	白	SK35-36	肥前系 施釉 染付 被熱	
226	磁器	碗	(10.8)	[3.3]	—	—	25	良好	白	SK36	瀬戸美濃系 施釉 染付 被熱	
227	陶器	鉢	(11.8)	[3.3]	—	IK	5	普通	灰白	SK35	ヨーロッパ系 施釉 内面絵付	11-12
228	磁器	坏	(6.7)	3.1	2.5	K	30	良好	白	SK35	瀬戸美濃系 施釉 内面色絵 被熱	
229	磁器	坏	6.2	2.9	2.6	—	95	良好	白	SK36	瀬戸美濃系 施釉 内面上絵付 被熱	15-9
230	磁器	坏	7.0	5.4	3.5	—	100	良好	白	SK35	瀬戸美濃系 施釉 隠刻状文、染付	
231	磁器	坏	(6.7)	5.3	3.0	K	45	良好	白	SK36	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
232	磁器	蓋	(9.5)	[2.1]	—	—	25	良好	白	SK36	瀬戸美濃系 施釉 染付 被熱	
233	磁器	皿	—	[2.1]	5.1	K	60	良好	白	SK35	瀬戸美濃系 施釉 内面型押寿文 被熱 同品他3個体	
234	磁器	鉢	(11.8)	7.5	(6.6)	K	60	普通	白	SK35-36	三田系 青磁釉 外面隠刻状文 被熱(強)	11-13
235	磁器	段重	(14.4)	5.1	(12.8)	—	20	普通	白	SK35-36	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
236	磁器	段重	(14.2)	[5.8]	—	—	30	普通	白	SK35-36	肥前系 施釉 外面染付 被熱	
237	磁器	蓋	(15.8)	(2.6)	(13.6)	IK	10	良好	白	SK35	肥前系 施釉 外面染付 被熱(強)	
238	磁器	徳利	—	[7.2]	—	K	90	良好	白	SK36	瀬戸美濃系 外面瑠璃釉 被熱	
239	磁器	蓮華	長さ[8.9] 幅5.2 高さ[3.6]	—	—	—	90	普通	白	SK36	瀬戸美濃系 施釉 内面染付 煤付着	
240	陶器	坏	5.3	3.0	2.6	IK	100	普通	灰白	SK35	瀬戸美濃系 灰釉 被熱	
241	陶器	坏	5.6	3.2	3.1	K	95	良好	灰白	SK36	瀬戸美濃系 灰釉 被熱	
242	陶器	仏飯器	5.9	3.5	4.3	K	95	良好	灰白	SK36	瀬戸美濃系 灰釉	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	国版
243	陶器	甕	—	[6.1]	13.4	I	20	普通	にぶい赤褐	SK36	内面鉄軸刷毛塗 胎土拓器質 被熱・黒化	
244	陶器	甕	38.6	66.9	17.0	EIK	70	普通	赤褐	SK36	常滑系 鉄泥 口縁目跡か	
245	陶器	半胴甕	(20.8)	[11.8]	—	IK	15	普通	褐灰	SK36	瀬戸美濃系 柿軸 口縁目跡 被熱	
246	陶器	壺	(27.6)	[3.4]	—	HIK	10	良好	灰白	SK35	信楽系 内面鉄軸刷毛塗状	
247	瓦質土器	火鉢	29.0	19.7	22.2	K	80	普通	橙	SK36	砂目底 口縁、体部中位ミガキか 外面施文 被熱赤化	
248	瓦質土器	焔鉢	—	[13.5]	—	CEI	5	良好	褐灰	SK36	外面樹皮状文 口縁刻印「四」 焼す	
249	土師質土器	焙烙	33.3	3.8	33.3	CGH	55	普通	浅黄褐	SK35	底部シワ状痕	
250	土師質土器	焙烙	(36.0)	[4.6]	(37.1)	HIK	5	普通	明赤褐	SK36	底部シワ状痕 外面煤付着	
251	土師質土器	焙烙	34.0	5.1	33.9	CHK	75	普通	にぶい黄橙	SK36	砂目底 体部下位弱いケズリ 被熱 煤付着	
252	磁器	坏	6.1	2.6	2.6	—	95	良好	白	SK38	瀬戸美濃系 施軸	
253	磁器	紅皿	7.0	1.5	2.2	—	100	良好	白	SK38	瀬戸美濃系 施軸 型押成形 高台内刻印	
254	陶器	徳利	—	[2.5]	—	—	15	良好	黄灰	SK38	灰軸	
255	磁器	碗	9.7	5.2	3.8	—	80	良好	白	SK39	瀬戸美濃系 施軸 染付	
256	磁器	蓋物	12.2	7.2	11.4	IK	90	良好	白	SK42	瀬戸美濃系 施軸 外面酸化コバルト染付 焼継印(赤)	15-10
257	磁器	坏	6.5	5.3	3.2	—	80	良好	灰白	SK42	瀬戸美濃系か 施軸(外面柿軸) イッチン 施文 刻印「直山」	15-12
258	土師質土器	器台	28.0	7.9	23.0	AHIK	5	普通	にぶい赤褐	SK42	三河産か 口縁上端ミガキ 内面上位煤付着	
259	土師質土器	焔鉢	24.0	21.9	22.9	AHIK	80	普通	にぶい赤褐	SK42	三河産 外面ミガキ 内・口縁白色物質付着 口縁煤付着 意部刻印	15-11
260	磁器	坏	(7.8)	3.7	(3.2)	—	50	良好	白	SK45	瀬戸美濃系 施軸 内面染付	
261	磁器	蓋	(8.0)	[2.6]	—	IK	30	良好	白	SK45	肥前系 施軸 外面染付 焼継痕	
262	陶器	土瓶	8.0	[9.4]	—	IK	15	良好	褐灰	SK45	松岡系 外面鉄軸	
263	土師質土器	目皿	(6.7)	2.2	(4.8)	EGIK	40	良好	灰黄	SK45	下面糸切 上面白色塗布物か	
264	土師質土器	涼鉢	(17.0)	[13.0]	—	HIK	10	普通	灰白	SK45	京都系 外面ケズリ 265と同一個体	
265	土師質土器	涼鉢	—	[17.7]	17.0	HIK	50	普通	灰白	SK45	京都系 外面ケズリ 高台挟り3	
266	磁器	碗	9.3	5.1	3.7	—	70	良好	白	SK46	瀬戸美濃系 施軸 染付 焼継痕 被熱(弱)	
267	磁器	碗	(9.2)	4.9	(3.8)	IK	30	良好	灰白	SK46	瀬戸美濃系 施軸 染付 焼継痕	
268	磁器	坏	(6.8)	4.6	2.8	IK	40	普通	白	SK46	瀬戸美濃系 施軸 染付 厚手	
269	磁器	皿	9.3	2.5	1.1	IK	70	不良	白	SK46	瀬戸美濃系 施軸 内面型押文 煤付着	
270	磁器	徳利	1.6	6.4	2.8	—	100	良好	白	SK46	瀬戸美濃系 外面施軸、酸化コバルト染付	
271	瓦質土器	火鉢	(29.4)	[9.9]	—	CFHIK	15	普通	にぶい橙	SK46	酸化炭焼成さみ 口縁外面黒色塗布物 内面煤付着	
272	瓦質土器	火鉢	—	[7.5]	11.0	FIK	30	普通	灰白	SK46	底部ヘラナゲ 外面トビガンナ状文 焼す	
273	瓦質土器	焙烙	—	5.2	—	CIK	5	普通	灰白	SK46	底部シワ状痕 焼す	
274	土師質土器	焼塩壺	6.0	4.4	(4.0)	AERIK	80	普通	にぶい黄橙	SK46	底部糸切痕	
275	土師質土器	焼塩壺	—	[3.3]	3.3	AGHK	30	普通	にぶい黄橙	SK46	底部糸切痕 胎土粉質	
276	土師質土器	蓋	6.3	0.7	5.5	EGH	100	普通	赤橙	SK46	下面・側面布目ナゲ消し 赤化(焼塩壺)	
277	土師質土器	蓋	6.1	0.9	5.5	EGHK	100	普通	にぶい橙	SK46	全体布圧痕 上面ナゲ消し 赤化(焼塩壺)	
278	土師質土器	蓋	6.2	0.9	5.6	EGHK	100	普通	にぶい橙	SK46	全面布圧痕 赤化(焼塩壺)	
279	陶器	碗	—	[3.6]	(5.4)	HI	20	普通	灰白	SK47	瀬戸美濃系 施軸 染付(太白手)	
280	土師質土器	涼鉢	(15.4)	[3.2]	—	EHK	5	普通	灰白	SK47	京都系	
281	磁器	碗	(9.2)	5.2	3.4	—	50	良好	白	SK48	肥前系 施軸 染付 焼継印(赤)	15-13
282	磁器	蓋物	—	[4.3]	(4.6)	—	20	良好	白	SK48	肥前系 施軸 染付 焼継印(赤)	15-14
283	磁器	碗	—	[2.3]	4.0	K	15	良好	白	SK48	肥前系 施軸 外面染付 焼継印(赤)	15-15
284	磁器	碗	7.3	3.7	3.0	—	70	良好	白	SK48	瀬戸美濃系 施軸 染付 被熱	
285	磁器	鉢	21.4	7.6	10.2	—	95	良好	白	SK48	肥前系 施軸 染付 焼継印(赤) 被熱	15-16
286	磁器	鉢	(14.2)	6.4	6.6	—	50	良好	白	SK48	肥前系 施軸 染付	
287	磁器	鉢	14.6	6.0	6.3	—	95	普通	灰白	SK48	瀬戸美濃系 施軸 酸化コバルト染付	
288	磁器	蓮華	長さ[6.0] 幅[3.0] 高さ[1.8]	—	—	—	35	良好	白	SK48	淡路根平 内面陰刻文 緑軸	
289	磁器	蓋	(7.0)	2.5	(5.3)	—	60	良好	白	SK48	瀬戸美濃系 施軸 外面染付 刻印「光山」	15-17
290	陶器	坏	5.1	2.3	1.8	GIK	100	普通	灰白	SK48	灰軸 内面上給付「内容/政大」(赤)	15-18
291	陶器	こね鉢	(18.0)	[9.9]	—	IK	25	良好	褐灰	SK48	灰軸 うのふ輪	
292	陶器	徳利	—	[6.2]	(7.6)	—	15	良好	にぶい黄橙	SK48	外面鉄軸	
293	陶器	甕	19.5	20.9	10.4	—	100	普通	にぶい橙	SK48	白土染付 口縁・唇付露胎、白化粧 体部二次穿孔	
294	陶器	甕	(10.3)	[5.8]	—	GIK	45	普通	灰白	SK48	柿軸、鉄軸流し掛け	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	造構	備考	国保
295	陶器	土瓶	6.7	[9.9]	—	GIK	65	普通	灰白	SK48	大瀬相馬系か 外面輪白軸, 貫入 体部皿形	11-14
296	陶器	土瓶	7.1	11.0	7.9	K	90	良好	灰白	SK48	京都信楽系か 外面施軸 被熱	
297	陶器	蓋	7.7	3.1	5.7	IK	95	普通	楊灰	SK48	外面施軸 被熱	
298	瓦質土器	椀鉢鉢	(13.6)	9.3	(9.5)	CGHK	40	普通	にぶい橙	SK48	底部周縁ヘラナゲ 燻す	
299	陶器	椀鉢鉢	(11.0)	7.4	6.6	GIK	50	良好	灰白	SK48	灰軸 底部穿孔	
300	土師質土器	燈台	(33.0)	4.4	(33.9)	CHIK	45	普通	灰黄褐	SK48	砂目底 外面煤付着	
301	瓦質土器	火鉢	(25.4)	12.5	19.8	CEHJ	60	普通	橙	SK48	砂目底 やや酸化変成	
302	瓦質土器	火鉢	—	[8.3]	18.5	CFHK	80	普通	にぶい橙	SK48	外面施文 やや酸化変成 口縁敲打痕 煤付着	
303	瓦質土器	器台	(19.6)	[6.1]	—	CFK	5	普通	にぶい黄橙	SK48	被熱赤変	
304	土師質土器	甕壺	2.6	1.6	2.0	AI	95	普通	にぶい橙	SK48	底部糸切痕 胎土粉質 灯芯部上端煤付着	
305	磁器	碗	7.1	5.5	4.0	—	95	良好	白	SK50	瀬戸美濃系 施軸 染付 被熱 煤付着	
306	磁器	碗	12.8	6.5	(4.6)	HK	80	良好	白	SK50	肥前系 施軸 染付 被熱 被熱(強)	
307	磁器	碗	8.2	4.2	(3.2)	—	50	普通	白	SK50	瀬戸美濃系 施軸 染付 被熱 同品他2個体	
308	磁器	鉢	(12.0)	5.7	(5.0)	IK	25	普通	白	SK50	瀬戸美濃系 施軸 内面色絵(赤他) 被熱	
309	磁器	碗	(6.4)	5.5	(3.0)	K	45	良好	白	SK50	瀬戸美濃系 施軸 内面型押寿文 被熱	
310	磁器	蓋	(9.4)	2.3	3.5	—	80	良好	白	SK50	瀬戸美濃系 施軸 染付 被熱	
311	磁器	鉢	(19.8)	7.8	(7.6)	—	25	普通	白	SK50	肥前系 施軸 染付 被熱(強)	
312	磁器	皿	(24.8)	3.8	15.1	K	70	良好	白	SK50	肥前系 施軸 内面染付 高台ハリ支取5 被熱	
313	磁器	水注	6.4	9.2	6.2	K	60	良好	白	SK50	瀬戸美濃系 施軸 外面染付 被熱	
314	磁器	香炉	(10.0)	5.6	5.4	IK	40	普通	白	SK50	瀬戸美濃系 施軸 被熱	
315	磁器	水漬	(1.6)	4.3	6.8	—	70	普通	白	SK50	瀬戸美濃系 外面施軸, 染付 被熱(強)	
316	磁器	火鉢	(13.8)	14.7	13.4	K	60	良好	白	SK50	肥前系 外面施軸, 染付 被熱	
317	陶器	碗	11.8	6.8	5.4	—	60	良好	にぶい黄橙	SK50	瀬戸美濃系 施軸 染付(太白手) 被熱	
318	陶器	坪	4.7	3.0	2.8	IK	95	普通	灰白	SK50	瀬戸美濃系 灰軸 口縁歪み 被熱	
319	陶器	片口鉢	(14.0)	8.0	6.0	EI	60	良好	灰	SK50	瀬戸美濃系 灰軸 内面目録5 被熱	
320	陶器	鉢	(19.3)	[6.5]	—	—	20	良好	灰白	SK50	瀬戸美濃系 灰軸 鉄絵	
321	陶器	鉢	—	[5.2]	—	K	5	良好	灰白	SK50	瀬戸美濃系 灰軸 内面鉄絵 被熱(弱)	
322	陶器	燗徳利	2.3	[12.8]	—	HK	50	不良	灰白	SK50	京都信楽系 外面施軸, 鉄絵	
323	陶器	徳利	3.1	23.0	8.0	IK	80	良好	灰白	SK50	瀬戸美濃系 外面施軸 底部抜き取り	
324	陶器	徳利	—	(15.0)	(7.6)	—	20	良好	にぶい橙	SK50	外面鉄軸 被熱(強)	
325	陶器	徳利	2.8	13.0	7.7	GIK	70	普通	浅黄	SK50	外面灰軸, 上位うのふ輪排け付 被熱	
326	陶器	有耳壺	—	[14.0]	—	IK	50	良好	灰白	SK50	瀬戸美濃系 外面灰軸	
327	陶器	土瓶	(6.6)	[10.0]	—	I	20	良好	灰赤	SK50	外面施軸 胎土垢器質	
328	陶器	土瓶	7.4	9.6	8.0	GK	60	普通	灰白	SK50	外面灰軸 被熱	
329	陶器	蓋	8.8	3.9	6.1	—	80	良好	灰白	SK50	上面灰軸 被熱	
330	陶器	行平鍋	(16.0)	[10.1]	(6.8)	IK	30	普通	灰	SK50	鉄軸 外面トビガンナ 被熱	
331	陶器	蓋	13.2	3.5	(3.3)	—	65	普通	楊灰	SK50	鉄軸 外面トビガンナ 被熱	
332	陶器	灯明皿	6.9	1.6	2.8	K	70	良好	灰白	SK50	京都信楽系 施軸 内面ビン痕3 被熱	
333	陶器	灯明皿	8.9	1.6	3.0	K	95	良好	灰白	SK50	京都信楽系 施軸 内面ビン痕3 被熱	
334	陶器	灯明皿	11.2	1.9	4.0	IK	85	良好	灰白	SK50	京都信楽系 施軸 口縁煤付着	
335	陶器	カンテラ	4.6	3.8	3.4	EI	95	良好	灰白	SK50	京都信楽系 施軸 口唇部露胎 被熱	
336	瓦質土器	火鉢	(27.2)	13.3	(22.0)	CIK	60	普通	浅黄橙	SK50	砂目底 口縁ミガキ 外面トビガンナ状文 燻す	
337	瓦質土器	火鉢	(24.0)	[18.7]	—	CIK	15	普通	灰白	SK50	口縁・外面下位ミガキ 外面施文 把手剥離 被熱・変色	
338	瓦質土器	火鉢	(22.0)	[8.8]	—	HIK	10	普通	灰白	SK50	口縁ミガキ 外面施文 燻す	
339	土師質土器	鍋	(14.3)	[3.7]	—	HIKJ	10	不良	橙	SK50		
340	瓦質土器	燈台	(19.0)	[9.8]	—	HIK	5	普通	灰	SK50	外面施文 口縁ミガキ, 煤付着	
341	瓦質土器	燈台	(29.0)	[13.2]	—	—	15	普通	黄灰	SK50	燻す 内面煤付着	
342	瓦質土器	目皿	(9.6)	1.6	(9.8)	HK	30	普通	楊灰	SK50	上面使用による被熱, 付着物多い	
343	磁器	徳利	1.5	5.8	2.4	K	100	良好	白	SK51	瀬戸美濃系 施軸 外面酸化コバルト染付	
344	陶器	豆壺	(5.1)	4.3	3.0	K	75	良好	にぶい橙	SK55	回転糸切(右) 鉄軸 口縁歪み	
345	陶器	甕壺	6.0	4.0	(3.5)	IK	95	良好	浅黄	SK55	鉄軸 底部糸切, 穿孔	
346	瓦質土器	燈台	(36.8)	4.0	(36.0)	EIK	30	普通	灰白	SK55	底部シワ状痕 燻す	
347	磁器	碗	(9.4)	4.8	(4.0)	—	25	良好	白	SK56	瀬戸美濃系 施軸 染付	
348	磁器	碗	11.4	5.9	3.9	K	75	不良	白	SK59	肥前系 施軸 染付 被熱(強)	
349	磁器	碗	(6.2)	5.4	3.4	—	45	良好	白	SK59	瀬戸美濃系 施軸(外面埋瑠輪) 被熱	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
350	磁器	坏	5.6	[2.0]	—	—	65	良好	白	SK59	瀬戸美濃系 施軸 内面土絵付(青, 金, 赤) 被熱	16-1
351	磁器	坏	7.0	4.6	3.1	K	75	良好	白	SK59	瀬戸美濃系 施軸(外面埋瑠軸) 口縁 被熱 同品他3個体	
352	磁器	坏	(7.2)	4.6	3.6	—	55	普通	白	SK59	瀬戸美濃系 施軸 口縁 被熱(弱)	
353	磁器	蓋	10.2	2.9	3.8	K	95	普通	白	SK59	肥前系 施軸 染付 被熱(強)	
354	磁器	皿	14.0	4.1	8.0	—	65	不良	灰白	SK59	肥前系 施軸 口縁 被熱(強)	
355	磁器	皿	23.6	5.0	12.9	K	75	良好	白	SK59	肥前系 施軸 染付 被熱(強)	
356	磁器	燗德利	3.5	18.2	5.2	—	50	良好	白	SK59	瀬戸美濃系 施軸 外面染付 被熱(強) 同品他1個体	
357	磁器	香炉	(11.6)	5.3	4.4	K	40	不良	白	SK59	肥前系 外面青磁軸 被熱(強)	
358	陶器	燗德利	—	[1.8]	(7.0)	IK	10	普通	灰白	SK59	外面灰軸 底部墨書 被熱	
359	磁器	碗	(8.8)	4.5	3.8	—	20	良好	白	SK64	瀬戸美濃系 施軸 染付 被熱	
360	磁器	坏	—	[1.6]	3.7	—	70	良好	白	SK64	瀬戸美濃系 施軸 内面型押寿文 煤付着	
361	磁器	皿	(14.8)	4.8	8.8	K	20	良好	白	SK64	肥前系 施軸 口縁 内面染付 被熱	
362	磁器	鉢	(13.8)	5.9	(7.0)	—	20	良好	白	SK64	肥前系 施軸 染付 焼継印 被熱	
363	陶器	灯明皿	9.7	2.2	4.6	HK	75	良好	灰白	SK64	瀬戸美濃系 柿軸 内面重ね焼き痕 被熱	
364	陶器	灯明皿	9.6	2.1	3.9	IK	75	良好	灰白	SK64	瀬戸美濃系 柿軸 内面重ね焼き痕 被熱	
365	陶器	鉢	—	[4.6]	(6.2)	K	30	良好	灰	SK64	灰軸 内面目跡2残存 被熱	
366	陶器	土瓶	(10.0)	[9.2]	—	E1L	40	普通	明赤褐	SK64	外面鉄軸(鉛軸), 刷毛目状ヨコ工具ナデ	
367	瓦質土器	土甕	長さ[16.0] 高さ[4.4]	幅16.3	—	CIK	80	良好	にぶい橙	SK64	下・側面シワ状痕 被熱・変色	
368	瓦質土器	塔焼	(31.2)	[3.5]	(30.2)	CHK	15	普通	灰白	SK64	砂目底 一部被熱・変色	
369	瓦質土器	手焙り	—	[16.2]	17.8	CI	80	普通	淡赤橙	SK64	外面トビガンナ状文, ミガキ 被熱・赤変	
370	磁器	碗	(10.6)	6.3	(4.2)	IK	40	普通	白	SK65	肥前系 施軸 染付 被熱	
371	磁器	坏	6.5	3.1	2.7	—	90	良好	白	SK65	瀬戸美濃系 施軸 染付 内面陰刻文 被熱	
372	磁器	碗	(6.4)	4.7	2.9	IK	60	良好	白	SK65	瀬戸美濃系 施軸 外面染付 被熱	
373	磁器	皿	—	[2.6]	(8.0)	K	15	普通	白	SK65	肥前系 施軸 染付 焼継印(赤)	
374	磁器	皿	(14.6)	4.3	8.8	—	60	良好	灰白	SK65	肥前系 施軸 内面染付 被熱(強)	
375	磁器	皿	30.6	8.0	16.7	IK	50	良好	白	SK65	肥前系 施軸 染付 高台ハリ支痕6 焼継痕 被熱 SK59接合	
376	磁器	鉢	14.8	6.4	6.0	K	95	普通	白	SK65	肥前系 施軸 染付 焼継痕 被熱(強)	
377	磁器	蓋	(13.0)	[2.4]	(11.0)	—	50	良好	白	SK65	肥前系 施軸 外面染付 焼継痕 被熱(強)	
378	陶器	灯明皿	11.4	2.3	4.5	IK	95	良好	灰白	SK65	京都信楽系 施軸 内面ビン痕3 煤付着	
379	陶器	皿	—	2.6	—	IK	5	良好	灰白	SK65	施軸 軟質施軸 被熱(強)	
380	陶器	德利	—	[18.0]	(8.3)	I	40	良好	暗赤褐	SK65	備前系 人形貼付 二面SK111・112と接合	
381	陶器	德利	—	[5.2]	(8.6)	GK	30	普通	褐灰	SK65	鉄軸 被熱	
382	陶器	片口鉢	17.4	10.2	(7.6)	I	45	普通	褐灰	SK65	鉄軸 うのふ輪 内面目跡 被熱	
383	陶器	蓋	(10.4)	[2.6]	(8.2)	IK	40	良好	灰褐	SK65	上面鉄軸か、直重ね焼き痕 胎土器質 被熱(強)	
384	陶器	片口鉢	(16.0)	[6.1]	—	K	30	良好	灰白	SK65	瀬戸美濃系 灰軸 内面目跡	
385	瓦質土器	火鉢	(17.0)	[8.5]	(12.3)	CHI	40	普通	灰白	SK65	口縁ミガキ 外面トビガンナ状文 被熱	
386	磁器	碗	9.8	5.2	(3.6)	—	45	普通	白	SK67	肥前系 施軸 染付 被熱 同品他1個体	
387	磁器	碗	10.4	5.8	(4.5)	—	60	普通	白	SK67	瀬戸美濃系 施軸 染付 被熱 同品他1個体	
388	磁器	碗	8.2	4.4	3.0	—	100	普通	灰白	SK67	瀬戸美濃系 施軸 染付 口縁 被熱	
389	磁器	碗	10.7	6.4	5.7	—	100	普通	白	SK67	瀬戸美濃系 施軸 染付 被熱	
390	磁器	碗	(10.4)	5.8	(3.6)	—	55	良好	白	SK67	瀬戸美濃系 施軸 染付 被熱(強)	
391	磁器	坏	6.6	4.1	2.7	—	80	良好	白	SK67	瀬戸美濃系 施軸 外面染付 被熱 同品他2個体	
392	磁器	蓋	(9.4)	2.9	(3.8)	—	30	良好	白	SK67	瀬戸美濃系 施軸 染付 焼継印 被熱	
393	磁器	皿	13.4	3.7	7.9	—	80	良好	白	SK67	瀬戸美濃系 施軸 染付 被熱	
394	磁器	皿	14.0	3.9	6.8	—	95	良好	白	SK67	瀬戸美濃系 施軸 染付 内面釘書「命」	
395	磁器	皿	13.8	3.3	8.0	—	80	良好	灰白	SK67	瀬戸美濃系 施軸 染付 被熱 同品他2個体	
396	磁器	皿	15.4	5.2	8.6	—	70	普通	白	SK67	肥前系 施軸 染付 被熱	
397	磁器	皿	(14.5)	4.6	(8.4)	K	45	普通	灰白	SK67	肥前系 施軸 染付 被熱 同品他1個体	
398	陶器	皿	33.4	7.0	11.6	IK	80	良好	灰白	SK67	瀬戸美濃系 灰軸 内面目跡5	
399	陶器	燗德利	—	[17.7]	6.6	K	40	良好	灰白	SK67	外面青緑軸 被熱	
400	陶器	燗德利	2.8	19.3	5.8	IK	65	不良	灰白	SK67	京都信楽系 外面施軸 被熱	
401	陶器	瑠鉢	(35.4)	[11.2]	—	I	15	良好	にぶい橙	SK67	瑠瑠石系 内面描目	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	造構	備考	図版
402	陶器	片口鉢	(19.2)	10.0	(8.8)	K	30	良好	黒	SK67	灰軸 口部うのふ輪 被熱	12-1
403	陶器	行平鉢	(16.5)	[5.9]	—	HK	15	良好	灰白	SK67	鉄軸 外面トビガンナ状文	
404	陶器	蓋	8.0	3.4	5.7	IK	95	良好	黄灰	SK67	外面鉄軸か 被熱・変色	
405	瓦質土器	火鉢	(15.0)	(6.0)	—	CI	10	普通	灰白	SK67	口縁ミガキ 外面トビガンナ状文 被熱	
406	瓦質土器	火鉢	(24.6)	[17.1]	—	CHI	25	良好	にぶい橙	SK67	外面ミガキ スタンプ文 被熱・赤化 SK59・64と接合	
407	瓦質土器	火鉢	22.8	21.4	18.8	CHIK	90	普通	にぶい赤褐	SK67	砂目底 口縁・脚ミガキ 外面施文 燻す 被熱か	
408	瓦質土器	炬炬	(17.3)	15.2	17.2	HIK	70	普通	にぶい褐	SK67	口縁・体部中位ミガキ 外面トビガンナ状文 ほぼ酸化炎焼成	
409	瓦質土器	炬炬	24.8	19.2	(17.0)	CIK	60	良好	橙	SK67	口縁・外面ミガキ 外面樹面波状文 燻す	
410	瓦質土器	炬炬	(32.8)	26.8	(25.6)	CEI	50	普通	にぶい赤褐	SK67	砂目底 外面下端ケズリ 内面上位煤付着	
411	磁器	合子	4.8	2.3	2.7	—	60	良好	白	SK70	肥前系 施軸 外面染付	
412	磁器	蓮華	長さ[6.3] 幅5.1 高さ[1.6]			IK	70	良好	白	SK70	瀬戸美濃系 施軸 内面染付, 扇刺状文	
413	陶器	徳利	2.9	[14.4]	—	GIK	40	普通	灰白	SK70	瀬戸美濃系 外面灰軸	
414	陶器	土瓶	8.8	10.2	8.8	GHK	80	普通	にぶい黄橙	SK70	外面灰軸, 鉄軸	
415	磁器	鉢	(11.4)	4.3	6.2	IK	60	良好	白	SK72	瀬戸美濃系 施軸 酸化コバルト染付 釉まわり悪い 墨書「四つ」	16-2
416	陶器	土瓶	(7.0)	[3.5]	—	IK	10	普通	灰	SK73	外面鉄軸	12-2
417	磁器	蓋	9.0	3.3	3.9	—	70	良好	灰白	SK75-76	瀬戸美濃系 施軸 染付	
418	陶器	徳利	—	[9.1]	3.9	IK	95	普通	白	SK75-76	瀬戸美濃系 外面灰軸 体部凹み2	
419	土師質土器	涼奴	—	[3.5]	(15.6)	ABHK	30	普通	にぶい橙	SK78-79	京都系	
420	土師質土器	涼奴	—	[3.8]	—	EHK	10	普通	灰白	SK78-79	京都系	
421	磁器	碗	(9.0)	5.2	(4.2)	K	20	良好	白	SK78	肥前系 施軸 染付 焼継印(赤)	
422	磁器	鉢	(11.4)	2.3	(6.6)	IK	15	良好	白	SK78	瀬戸美濃系 施軸 染付 焼継印	16-3
423	磁器	皿	(17.0)	5.9	(10.4)	—	45	普通	白	SK78	瀬戸美濃系 施軸 酸化コバルト染付 焼継印(赤)	16-4
424	磁器	鉢	(13.8)	6.4	(6.7)	—	25	普通	白	SK78	肥前系 施軸 染付 焼継印(赤)	
425	磁器	猪口	—	[2.2]	5.6	K	30	普通	白	SK78	肥前系 施軸 染付 被熱 釘書「吉」, 墨書	16-5
426	陶器	碗	—	[3.4]	5.5	IK	30	普通	灰白	SK78	大塚相馬系 足込み走馬文 施軸 刻印	16-6
427	陶器	碗	(7.6)	7.2	(3.2)	K	40	良好	灰白	SK78	大塚相馬系 灰軸(青ひひ) 外面下位鉄軸刻印	16-7
428	磁器	燗徳利	幅[3.3] 高さ[0.3]			IK	5	良好	白	SK78	瀬戸美濃系 施軸 焼継印(赤)	
429	磁器	鉢	(11.4)	5.2	(5.4)	—	50	良好	白	SK144	瀬戸美濃系 型成形 施軸 酸化コバルト染付 蝋貼付, 鉄軸	
430	磁器	花生	(7.6)	(18.1)	5.4	—	50	良好	にぶい橙	SK144	三田系 型成形 外面青磁軸	
431	陶器	燗徳利	—	[20.2]	7.0	IK	90	普通	にぶい橙	SK144	外面灰軸, 「因」/△・「原勢屋」銘具須絵 内部鉄軸充填 鉄盤蓋転用	16-8
432	陶器	徳利	—	[19.4]	11.1	—	60	不良	灰白	SK144	瀬戸美濃系 外面灰軸 底部抜き取り, 糸切痕 外面釘書か	
433	陶器	急須	(5.0)	6.6	5.4	—	70	普通	褐灰	SK144	萬古系 型成形 外面スタンプ, 刻印	12-3
434	陶器	急須	(5.4)	7.6	(8.0)	AEIK	70	良好	にぶい橙	SK144	鉄軸 外面鉢状文, 凹み 亀貼付 被熱	
435	陶器	土瓶	8.4	10.3	(8.4)	—	70	良好	灰褐	SK144	萬古系 内面布目板 外面菊文スタンプ	
436	陶器	土瓶	8.2	10.7	7.4	IK	95	普通	にぶい黄橙	SK144	外面灰軸, 白土染付 内部鉄軸充填 鉄盤蓋転用	
437	陶器	土瓶	10.7	11.9	8.9	K	90	良好	灰白	SK144	外面施軸, 三彩, 白土化粧 墨書	16-9
438	陶器	蓋	11.1	3.5	8.7	IK	100	普通	淡黄	SK144	外面施軸, 三彩	
439	瓦質土器	植木鉢	(15.0)	16.3	9.8	IK	60	普通	にぶい橙	SK144	外面, 内面上位ミガキ 胎土粉糲 燻す	
440	瓦質土器	植木鉢	13.6	8.5	8.3	CIK	80	不良	灰黄	SK144	回転糸切(左) 底部穿孔	
441	土師質土器	植木鉢	19.8	4.4	18.0	CHIK	80	良好	にぶい橙	SK144	底部ヘラナグ, 底部穿孔	
442	瓦質土器	植木鉢か	(15.0)	4.2	(15.0)	CHIK	30	普通	灰褐	SK144	底部板状圧痕 やや酸化炎焼成 二次穿孔	
443	瓦質土器	蓋	16.8	2.8	—	IK	95	良好	灰黄	SK144	上面板状圧痕 内面煤付着 火消煮蓋	
444	瓦質土器	火消煮	(22.0)	20.3	(20.6)	CHIK	60	普通	にぶい黄橙	SK144	砂目底, 板状圧痕 体部下端ケズリ 被熱	
445	瓦質土器	蓋	18.5	[2.8]	—	ACHIK	90	普通	にぶい橙	SK144	外面ミガキ, ローラースタンプ施文 燻す 内面煤付着 火消煮蓋	
446	瓦質土器	火鉢	16.8	7.2	13.0	CHIK	95	普通	灰白	SK144	口縁ミガキ 外面トビガンナ状文すり消し	
447	瓦質土器	手焙り	—	[14.5]	16.4	CIK	70	普通	にぶい黄橙	SK144	外面トビガンナ状文 意部最打痕 燻す	
448	土師質土器	鍋	13.3	4.3	8.6	CHIK	70	良好	橙	SK144	外面煤付着	
449	瓦質土器	鉢	(34.0)	9.8	(24.6)	CI	35	普通	灰	SK144	砂目底 口縁ミガキ タニシの意匠1残存 (他版跡2) 燻す 箱底道具(仕切盤)	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
450	瓦質土器	火鉢	(11.0)	8.9	11.3	CEIK	60	普通	灰黄	SK144	砂目底 外面ミガキ、陰刻状文 胎土粉質 僅す	
451	土師質土器	器台	(21.6)	8.9	13.7	CHIK	50	普通	橙	SK144	胎土赤色粒子多量	
452	瓦質土器	火鉢	18.4	16.9	18.5	CHIK	65	普通	橙	SK144	外面一部ミガキ、下位赤色塗布物	
453	瓦質土器	燈罩	(33.4)	[6.9]	—	CEHIK	30	普通	灰褐	SK144	口縁・内面煤付着 口縁ヘラ書き	16-10
454	瓦質土器	燈罩	29.8	30.4	38.0	ACHIK	70	普通	褐灰	SK144	僅す 口縁ヘラ書き 口縁・内面煤付着	16-11
455	瓦質土器	燈罩	(32.1)	27.9	27.8	CEHIK	80	普通	にぶい黄橙	SK144	砂目底 僅す 内面煤付着	
456	土師質土器	皿	21.8	4.1	18.9	HIK	60	良好	浅黄橙	SK144	側面下位・下面摩耗 胎土赤色粒子多量	
457	土師質土器	燈罩	34.0	4.0	35.0	CHIK	50	普通	にぶい黄橙	SK144	砂目底 煤付着	
458	土師質土器	燈罩	(36.6)	[4.3]	(37.6)	CHIK	55	普通	灰白	SK144	底部シワ状痕 煤付着	
459	瓦質土器	燈罩	30.4	3.1	29.0	CEHIK	60	普通	明褐灰	SK144	僅す 煤付着	
460	瓦質土器	燈罩	28.2	3.0	30.0	CIK	70	普通	灰白	SK144	僅す 刻印「岩崎」 煤付着	16-12
461	瓦質土器	燈罩	—	[2.7]	—	CHIK	10	不良	にぶい橙	SK144	ヘラ書「二」 煤付着	16-13
462	土師質土器	蓋	(9.1)	2.2	2.4	HIK	85	普通	にぶい橙	SK144	江戸在地系 外面白化粧 透明釉 胎土粉質	
463	土師質土器	焼塩蓋	—	[2.0]	3.3	AHIK	70	普通	橙	SK144		
464	土師質土器	焼塩蓋	(5.6)	[3.5]	—	ACEHIK	10	普通	橙	SK144		
465	土師質土器	皿	6.4	1.2	3.1	IK	90	普通	にぶい橙	SK144	同軸系切(右) 透明釉 胎土粉質	
466	土師質土器	蓋	—	0.8	—	HIK	5	普通	にぶい橙	SK144	下面布圧痕 胎土粉質 焼塩蓋蓋	
467	土師質土器	蓋	5.3	0.9	4.4	ACHIK	100	良好	にぶい橙	SK144	焼塩蓋蓋	
468	土師質土器	蓋	5.5	0.9	5.1	AHIK	100	良好	にぶい橙	SK144	焼塩蓋蓋	
469	土製品	土鉢	長さ4.8 幅3.8 重さ60.0g			EIK	—	—	橙	SK144	孔径1.7cm	12-4
470	土製品	土鉢	長さ3.7 幅2.8 重さ24.6g			EIK	—	—	橙	SK144	孔径1.4cm	12-5
471	陶器	碗	9.0	5.9	4.4	—	90	普通	にぶい黄橙	SK145	灰釉 外面鉄絵 口縁銅緑釉流し掛け 内面煤付着	
472	陶器	壺	11.8	18.4	11.0	HIK	65	不良	灰	SK145	空閑系 底部白化粧 内面鉄絵 外面二彩釉 流し掛け	
473	陶器	蓋	14.0	8.2	8.2	EIK	95	普通	橙	SK145	空閑系 上面二彩釉流し掛け 内面鉄絵	
474	陶器	徳利	3.2	27.1	10.5	—	85	普通	灰白	SK145	灰釉 外面「国」/△・原勢屋」銘鉄絵 底部鉄絵 口縁部鉄絵 口縁部鉄絵	12-7
475	陶器	小壺	3.6	3.5	3.0	EIK	100	良好	灰	SK145	京都系か 灰釉(内底面うのふ輪) 外面鉄絵文字 底部中心糸切	12-8
476	瓦質土器	器台	25.7	9.5	25.5	AIK	90	普通	橙	SK145	三河産か 内面煤付着	
477	土師質土器	燈罩	(22.4)	21.5	(22.4)	AEI	40	普通	にぶい赤褐	SK145	三河産 外面ミガキ 意部刻印 口縁被熱	16-14
478	土師質土器	燈罩	長さ[9.9] 幅8.9			AEHI	5	普通	明赤褐	SK145	三河産 意部刻印	16-15
479	土師質土器	燈罩	長さ[11.4] 幅9.2			AEHIK	5	普通	橙	SK145	三河産 意部刻印	16-16

種、ゴマなど多様な栽培植物を確認した(第V章一3)。遺構の時期は19世紀後葉である。

第59号土壌 (第42図)

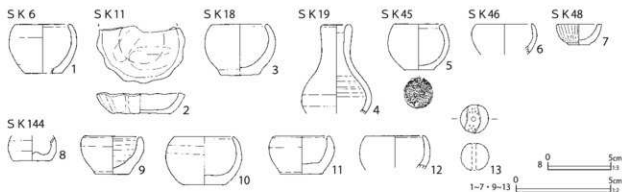
G8-D1グリッドに位置する。覆土は焼土ブロックと黒褐色土が混じり、人為的な堆積が認められる。出土した陶磁器類のほとんどが被熱している。陶磁器類(第64図348～第65図358)、銅製の目貫(第92図105)、銭貨の文久永宝(第99図24)、石臼(第101図26)などが出土した。最新期の遺物は、瀬戸美濃系磁器の外面瑠璃釉湯呑碗(349)、肥前系磁器の蛇の目回形高台の皿(354)と文久永宝であり、磁器は強く被熱している。1870年代頃の火災に伴う遺構と考えられる。

第65号土壌 (第42図)

G7-E10、G8-E1グリッドに位置する。覆土に焼土ブロックを含み、出土した陶磁器類のほとんどが被熱している。第66図370～第67図385に陶磁器類、第101図32～34に石製品の砥石、硯を掲載した。最新期の遺物は、瀬戸美濃系磁器の陰刻文端反環(371)、幅広高台の小型湯呑碗(372)であり、両者は被熱している。1870年代頃の火災に伴う遺構と考えられる。

第67号土壌 (第42図)

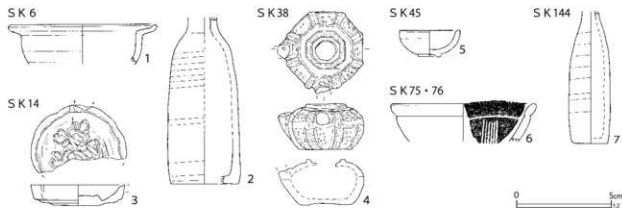
G8-D1・2グリッドに位置する。覆土層に焼土ブロックを含む土が堆積する。出土した陶磁器は多量で、ほとんどが被熱している。第67



第72図 土壇出土遺物 (26)

第16表 土壇出土遺物観察表 (2) (第72図)

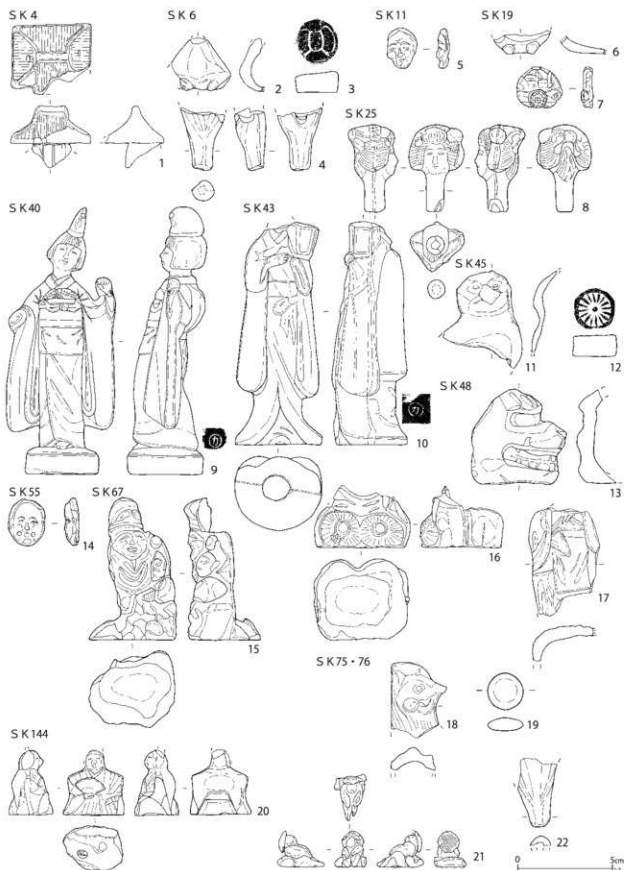
番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土製品	小壺	3.0	2.6	(2.0)	4.1	HK	良好	橙	SK6	江戸在地系か、回転糸切	
2	土製品	紅皿	4.6	1.1	3.1	4.9	—	良好	灰白	SK11	型成形 京都系	25-2
3	土製品	小壺	2.9	2.7	2.0	11.5	EMIK	良好	橙	SK18	江戸在地系か、離し糸切	25-1
4	磁器	徳利	1.7	[4.7]	—	13.7	—	良好	白	SK19	瀬戸美濃系 施軸 外面染付	25-3
5	土製品	小壺	2.6	2.4	1.6	8.8	EHK	良好	にぶい橙	SK45	江戸在地系か、回転糸切	25-1
6	土製品	小壺	(3.0)	[1.6]	—	2.0	HK	良好	にぶい橙	SK46	江戸在地系か	
7	磁器	紅杯	2.4	1.1	1.1	4.0	—	良好	白	SK48	型成形 施軸 瀬戸美濃系	25-4
8	土製品	埴壇壺か	—	[2.0]	(3.0)	5.6	AHK	良好	にぶい橙	SK144	回転糸切	
9	土製品	小壺	3.2	2.0	1.8	11.1	AHK	良好	橙	SK144	江戸在地系か、回転糸切 煤付着	25-1
10	土製品	小壺	(3.2)	2.6	2.2	9.3	BHK	良好	にぶい橙	SK144	江戸在地系か、回転糸切 煤付着	25-1
11	土製品	小壺	(3.0)	2.0	2.2	7.2	CHK	良好	にぶい橙	SK144	回転糸切	
12	土製品	小壺	(3.0)	[1.7]	—	1.4	CHK	良好	にぶい橙	SK144	江戸在地系か	
13	磁器	髷の玉	径1.5	1.4	—	3.7	CHK	良好	白	SK144	瀬戸美濃系 色絵(赤・緑・黄)	



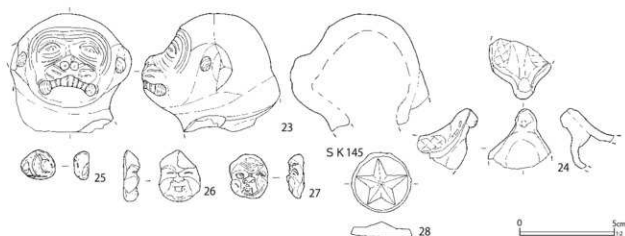
第73図 土壇出土遺物 (27)

第17表 土壇出土遺物観察表 (3) (第73図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土製品	ミニチュア	7.8	2.1	—	6.4	HK	良好	にぶい橙	SK6	鍋 施軸 江戸在地系	
2	土製品	ミニチュア	—	[8.9]	3.6	37.6	K	良好	橙	SK6	徳利 回転糸切 施軸 白土化粧 銅緑軸 江戸在地系	25-7
3	土製品	ミニチュア	5.0	1.1	2.7	9.3	—	良好	灰白	SK14	軟質施軸陶器 皿 型成形 施軸(透明・緑・黄・赤・橙) 京都系	25-8
4	土製品	ミニチュア	幅[4.5]	2.4	2.8	19.8	IK	普通	灰白	SK38	急須 施軸(緑・黄) 京都系	25-9
5	土製品	ミニチュア	3.2	1.4	1.2	3.7	IK	良好	灰白	SK45	碗 型成形 銅緑軸 京都系	25-10
6	土製品	ミニチュア	7.6	[2.0]	—	3.6	AHK	良好	橙	SK75・76	播鉢 雲母付着 江戸在地系か	
7	土製品	ミニチュア	—	[7.0]	1.8	20.4	IK	良好	灰白	SK144	徳利 施軸 頸部銅緑軸 離し糸切 京都系	25-11



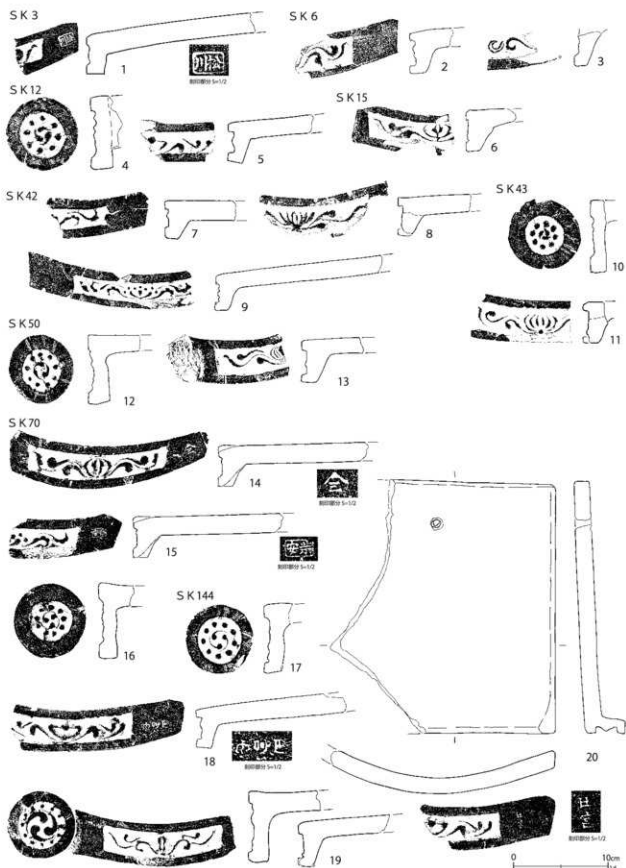
第74図 土曜出土遺物 (28)



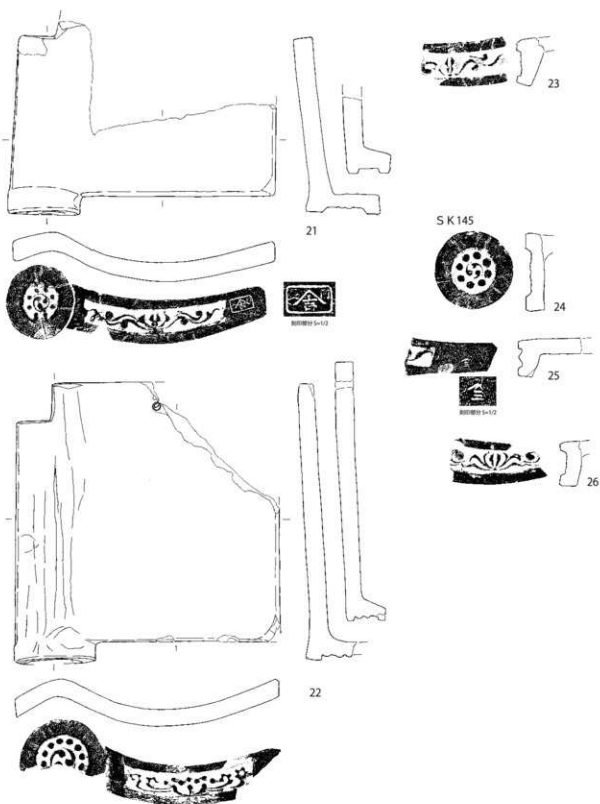
第75図 土壙出土遺物 (29)

第18表 土壙出土遺物観察表 (4) (第74・75図)

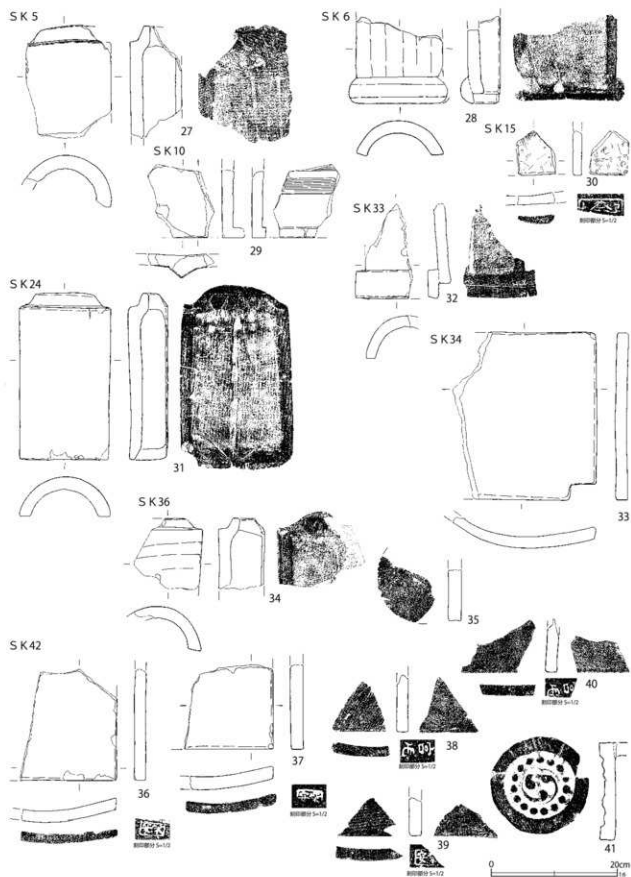
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土製品	箱庭道具	3.8	4.2	3.1	19.7	EHK	良好	にぶい楊	SK4	型成形 埴根づくり 江戸在地系	25-15
2	土製品	埴笛	[2.8]	[3.1]	0.6	5.0	EHK	良好	橙	SK6	型成形 施軸 白土化粧 江戸在地系	
3	土製品	泥面子	径2.3	厚1.1		6.4	HHK	良好	橙	SK6	面打 雲母付着 江戸在地系	
4	土製品	埴笛	[3.3]	[2.3]	0.5	6.1	HK	良好	橙	SK6	施軸 白土化粧 銅緑軸 上下合二枚型 中空 江戸在地系	
5	土製品	泥面子	2.1	1.6	0.7	1.6	HK	良好	にぶい橙	SK11	芥子面 型押成形	26-11
6	土製品	埴笛	[1.3]	[3.0]	0.5	4.5	HK	良好	橙	SK19	型成形 施軸 江戸在地系	
7	土製品	泥面子	2.1	2.4	0.7	2.7	HK	良好	にぶい楊	SK19	芥子面 型押成形	26-11
8	土製品	人形	4.6	2.9	0.3	7.4	—	良好	灰白	SK25	盲人形 髪彩色(黒) 前後合二枚型 中空 京都系	
9	土製品	人形	14.0	5.8	—	113.1	—	良好	白	SK40	中実 彩色(赤) 刻印 瀬戸美濃系	
10	土製品	人形	[11.7]	[4.6]	0.2	62.4	—	良好	白	SK43	前後合二枚型 中空 彩色(青・赤) 刻印 瀬戸美濃系	
11	土製品	人形	[5.2]	[4.2]	1.3	12.0	CHK	良好	橙	SK45	狛犬 型成形 江戸在地系	25-16
12	土製品	泥面子	径2.3	厚1.1		6.4	K	良好	にぶい楊	SK45	面打 雲母付着 表面黒色塗布 江戸在地系	26-11
13	土製品	人形	5.0	[5.0]	1.2	29.7	CHK	良好	橙	SK48	獅子頭 型成形	25-17
14	土製品	泥面子	2.5	2.0	0.8	3.3	AIK	良好	橙	SK55	芥子面 型押成形 穿孔2 江戸在地系	26-11
15	土製品	人形	7.5	4.6	0.6	34.0	—	良好	明赤楊	SK67	大黒 前後合二枚型 中空 被熱	26-1
16	土製品	人形	[3.3]	5.0	0.4	33.7	E	良好	橙	SK67	大黒 前後合二枚型 中空 煤付着 江戸在地系か	
17	土製品	人形	[5.7]	[3.7]	0.7	18.2	—	良好	橙	SK67	前後合二枚型 中空 被熱	
18	土製品	人形	[4.0]	[2.9]	0.8	6.5	EIK	良好	にぶい橙	SK75-76	鶏 左右合二枚型 中空 江戸在地系	26-2
19	土製品	基石状土製品	径1.9	厚0.9		2.2	H	良好	橙	SK75-76	手捻り 黒色塗布 江戸在地系	26-11
20	土製品	人形	3.4	3.2	2.3	16.4	HHK	良好	にぶい橙	SK144	前後合二枚型 中実 江戸在地系か	26-3
21	土製品	人形	1.9	1.7	2.5	3.8	—	良好	にぶい橙	SK144	手捻り 施軸 白土化粧 銅緑軸 江戸在地系	26-4
22	土製品	埴笛	[3.6]	2.1	0.4	2.9	K	良好	にぶい橙	SK144	前後合二枚型 施軸 白土化粧 銅緑軸 江戸在地系	
23	土製品	人形	[6.2]	[6.5]	1.5	113.4	AHK	良好	にぶい楊	SK144	前後合二枚型 中空 雲母付着 江戸在地系	26-5
24	土製品	埴笛	[3.2]	[3.3]	1.1	7.5	HI	良好	橙	SK144	上下合二枚型 中空 施軸 白土化粧 銅緑軸 江戸在地系	
25	土製品	泥面子	1.5	1.8	0.8	1.9	K	良好	にぶい橙	SK144	芥子面 型押成形 雲母付着 猫か 江戸在地系か	26-11
26	土製品	泥面子	2.7	2.3	0.9	4.0	HIK	良好	橙	SK144	芥子面 型押成形 江戸在地系か	26-11
27	土製品	泥面子	2.4	1.9	0.9	3.2	AK	良好	にぶい黄橙	SK144	芥子面 型押成形 江戸在地系か	
28	土製品	泥面子	径3.2	厚0.8		5.1	AHK	良好	にぶい楊	SK145	型押成形 雲母付着 江戸在地系か	26-6



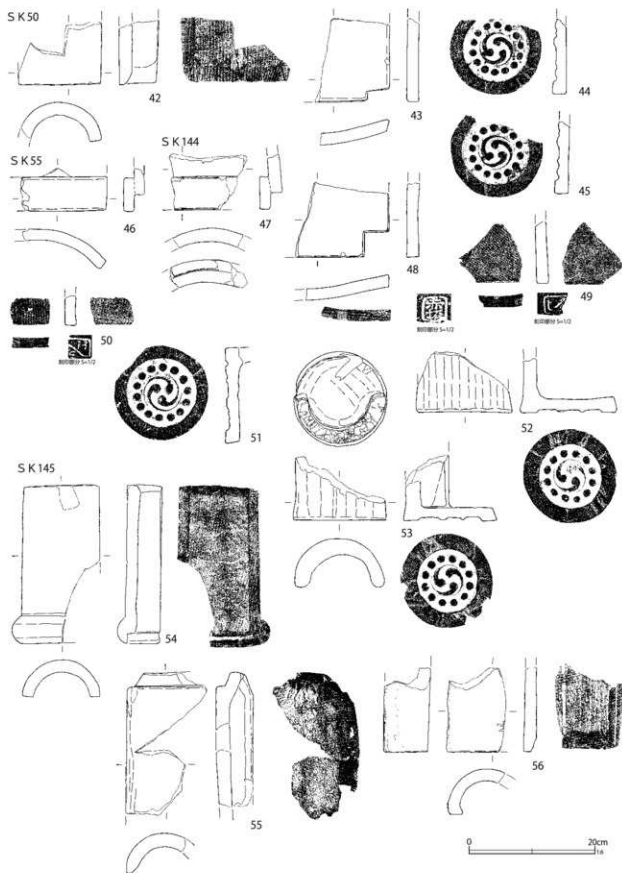
第76図 土壇出土遺物 (30)



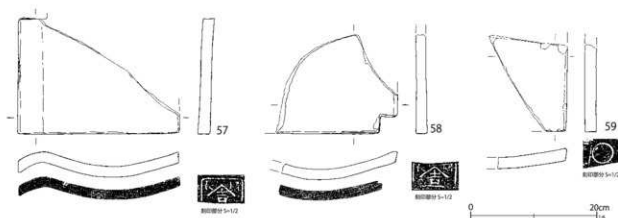
第77図 土壇出土遺物 (31)



第78図 土壇出土遺物 (32)



第79図 土壙出土遺物 (33)



第80図 土城出土遺物 (34)

第19表 土城出土遺物観察表 (5) (第76 ~ 80図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棧瓦	[18.8]	[15.5]	2.4	[6.5]	—	IK	良好	灰	SK3	刻印「川松」銀化	
2	瓦	軒棧瓦	[5.2]	[14.3]	1.9	[4.8]	—	K	良好	灰白	SK6		
3	瓦	軒棧瓦	[2.5]	[9.7]	1.8	[3.7]	—	IK	良好	灰	SK6		
4	瓦	軒棧瓦	—	—	2.2	—	7.6	K	良好	暗灰	SK12	右巻 8連珠三巴文 銀化 粗雑	
5	瓦	軒棧瓦	[9.3]	[10.3]	1.9	[5.2]	—	IK	普通	灰	SK12		
6	瓦	軒棧瓦	[5.3]	[11.7]	2.5	[4.5]	—	CIK	良好	灰	SK15	銀化	
7	瓦	軒棧瓦	[18.2]	[11.1]	2.2	[4.1]	—	IK	良好	暗灰	SK42		
8	瓦	軒棧瓦	[6.9]	[14.5]	1.8	[4.2]	—	IK	普通	灰	SK42		
9	瓦	軒平瓦	[17.8]	[18.9]	1.9	[5.7]	—	CIK	良好	暗灰	SK42		
10	瓦	軒棧瓦	—	—	1.8	—	7.7	AIK	良好	灰	SK43	右巻 8連珠三巴文 銀化 版幅狭い	
11	瓦	軒棧瓦	—	[11.0]	2.0	[4.4]	—	IK	普通	灰	SK43		27-3
12	瓦	軒棧瓦	[5.8]	[10.0]	2.1	[7.4]	7.2	HIK	良好	暗灰	SK50	右巻 9連珠三巴文 銀化 外面ヘラナデ	
13	瓦	軒棧瓦	[7.3]	[14.4]	2.4	[4.7]	—	IK	良好	灰	SK50	銀化	
14	瓦	軒棧瓦	[13.5]	[21.5]	1.8	[5.2]	—	CIK	良好	灰	SK70	刻印「金」 銀化	27-4
15	瓦	軒棧瓦	[15.8]	[12.5]	2.0	[4.7]	—	AIK	良好	暗灰	SK70	刻印「安樂」	
16	瓦	軒棧瓦	[6.4]	[12.4]	2.2	8.0	7.6	IK	良好	灰	SK70	左巻 9連珠三巴文 銀化 版幅狭い	
17	瓦	軒棧瓦	[3.1]	[8.0]	1.9	[7.4]	6.9	IK	普通	灰	SK144	左巻 9連珠三巴文 銀化	
18	瓦	軒棧瓦	[15.9]	[18.9]	2.1	[5.8]	—	CIK	良好	暗灰	SK144	刻印「田宮瓦」	27-5
19	瓦	軒棧瓦	[11.8]	[24.3]	2.2	[7.9]	7.0	AIK	良好	灰	SK144	右巻 12連珠三巴文 銀化	27-6
20	瓦	軒棧瓦	26.9	[23.8]	1.9	[4.5]	—	IK	良好	灰	SK144	刻印「田宮」銀化 穿孔1	
21	瓦	軒棧瓦	[20.6]	28.4	2.0	9.3	7.6	IK	良好	灰	SK144	右巻 8連珠三巴文 煤付着 刻印「長門 / 舍」 版幅狭い	27-7
22	瓦	軒棧瓦	29.9	28.2	1.9	[6.5]	8.5	AEIK	良好	灰	SK144	右巻 連珠三巴文 穿孔1 外面ヘラナデ 石英多分に含む	27-8
23	瓦	軒棧瓦	[2.8]	[9.8]	2.4	[5.0]	—	AIK	良好	灰	SK144	銀化	
24	瓦	軒棧瓦	—	—	2.0	—	8.0	ACIK	良好	灰	SK145	左巻 8連珠三巴文 銀化	
25	瓦	軒棧瓦	[6.8]	[9.5]	1.6	[4.1]	—	AIK	良好	灰	SK145	刻印「金」 銀化 版深く狭い	
26	瓦	軒棧瓦	[2.8]	[10.6]	—	4.6	—	ACIK	良好	灰	SK145	銀化 版深い	
27	瓦	丸瓦	[18.2]	[13.7]	2.2	[8.3]	—	I	良好	暗灰	SK5		
28	瓦	道具瓦	[13.9]	[15.1]	2.0	[6.6]	—	K	普通	灰	SK6	外面ヘラナデ	27-9
29	瓦	不明	[1.7]	[10.7]	1.8	[3.6]	—	K	良好	灰	SK10	被熱 内面欄目	27-10
30	瓦	瓦転用品	[7.1]	[6.2]	1.4	—	—	K	普通	灰	SK15	砥石転用 刻印 煤付着	
31	瓦	丸瓦	26.8	16.7	2.1	[6.4]	—	K	良好	灰	SK24		27-13
32	瓦	道具瓦	[15.1]	[9.3]	1.9	8.5	—	IK	良好	灰	SK33		

番号	種別	器種	長さ	幅	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
33	瓦	棧瓦	24.8	[23.3]	2.0	[4.9]	—	IK	普通	灰	SK34 銀化 被熱 煤付着	27-11
34	瓦	丸瓦	[11.4]	[11.1]	2.0	[7.2]	—	IK	良好	灰	SK36 外面ヘラナデ	
35	瓦	軒丸瓦	—	[8.2]	2.3	—	(14.6)	CHIK	普通	灰	SK36 石持 煤付着	
36	瓦	棧瓦	[17.8]	[15.6]	1.9	[3.9]	—	IK	普通	暗灰	SK42 刷印「安樂」漆喰付着	
37	瓦	棧瓦	[18.6]	[14.3]	2.0	[3.7]	—	CIK	良好	暗灰	SK42 刷印「安樂」漆喰付着	
38	瓦	棧瓦	[9.1]	[9.4]	1.8	—	—	IK	良好	灰	SK42 刷印「宮口」	
39	瓦	棧瓦	[6.2]	[10.6]	2.0	—	—	CIK	良好	暗灰	SK42 刷印「安口」	
40	瓦	棧瓦	[8.4]	[17.0]	1.9	—	—	IK	良好	灰	SK42 刷印「口宮」	
41	瓦	軒丸瓦	—	—	2.4	—	15.5	K	良好	灰	SK42 左巻 12連珠三巴文 銀化	
42	瓦	丸瓦	[10.1]	13.4	2.0	6.4	—	IK	普通	灰	SK50 銀化 煤付着	
43	瓦	棧瓦	[13.4]	[12.0]	1.9	[4.1]	—	AIK	普通	灰	SK50	27-12
44	瓦	軒丸瓦	—	14.5	2.2	—	14.5	AIK	良好	暗灰	SK50 左巻 12連珠三巴文 銀化	
45	瓦	軒丸瓦	[4.6]	14.4	2.3	—	14.4	AHJK	普通	灰	SK50 左巻 14連珠三巴文 銀化	
46	瓦	道具瓦	[6.9]	[14.0]	1.7	[6.7]	—	IK	普通	灰	SK55 煤付着	
47	瓦	道具瓦	[9.0]	[12.5]	2.1	[4.5]	—	AIK	良好	灰	SK144 銀化	
48	瓦	棧瓦	[12.0]	[15.1]	2.0	[4.1]	—	EIK	普通	灰	SK144 刷印	
49	瓦	棧瓦	[10.0]	[10.7]	1.9	—	—	IK	良好	灰	SK144 刷印 銀化	
50	瓦	棧瓦	[4.6]	[7.0]	1.8	—	—	IK	良好	暗灰	SK144 刷印 銀化	
51	瓦	軒丸瓦	—	15.0	2.3	—	15.0	AIK	良好	灰	SK144 右巻 12連珠三巴文 外面ヘラナデ	
52	瓦	軒丸瓦	[9.7]	[15.4]	2.5	[16.5]	14.9	IK	良好	灰	SK144 左巻 12連珠三巴文 銀化 外面ヘラナデ	
53	瓦	軒丸瓦	[10.2]	15.0	2.1	15.0	14.8	AIK	良好	灰	SK144 外面ヘラナデ 銀化 二次加工	
54	瓦	道具瓦	25.5	[14.2]	1.9	7.4	—	AIK	良好	暗灰	SK145	27-12
55	瓦	丸瓦	[22.9]	[13.2]	2.0	[6.4]	—	IK	普通	灰	SK145 表面左側面ヘラナデ	
56	瓦	丸瓦	[13.5]	[9.4]	1.9	7.2	—	CIK	良好	暗灰	SK145 漆喰付着 胎土やや砂質	
57	瓦	棧瓦	18.7	26.0	1.8	4.1	—	IK	良好	灰	SK145 刷印「長門/倉」 銀化	
58	瓦	棧瓦	[15.9]	[19.5]	1.8	[4.4]	—	AIK	良好	灰	SK145 刷印「長門/倉」 銀化	
59	瓦	棧瓦	15.4	[12.6]	1.9	[3.4]	—	CIK	良好	灰	SK145 刷印「〇」 煤付着	

図386～第68図410は陶磁器類である。最新期の遺物は、瀬戸美濃系磁器の口紅が施された端反碗(388)、丸碗形杯(391)であり、両者は被熱している。第59号土壌とは接合関係にある。第85図96は木製品の漆碗蓋で炭化している。金属製品の煙管(第92図111・112)、銭貨(第99図25)、石製品の磨石(第102図35)・切石材(36)が出土した。1870年代頃の火災に伴う遺構と考えられる。

第35・36・50・59・65・67号土壌は、いずれも被熱遺物が多く、同時期の陶磁器組成を示している。これらの廃棄は同時性が高く、1870年代頃に栗橋宿仲町を中心に火災が起きていたことが示唆される。

第78号土壌(第44図)

F7-H9・I9グリッドに位置する。長軸5.95m以上、短軸5.61mの大型の土壌である。

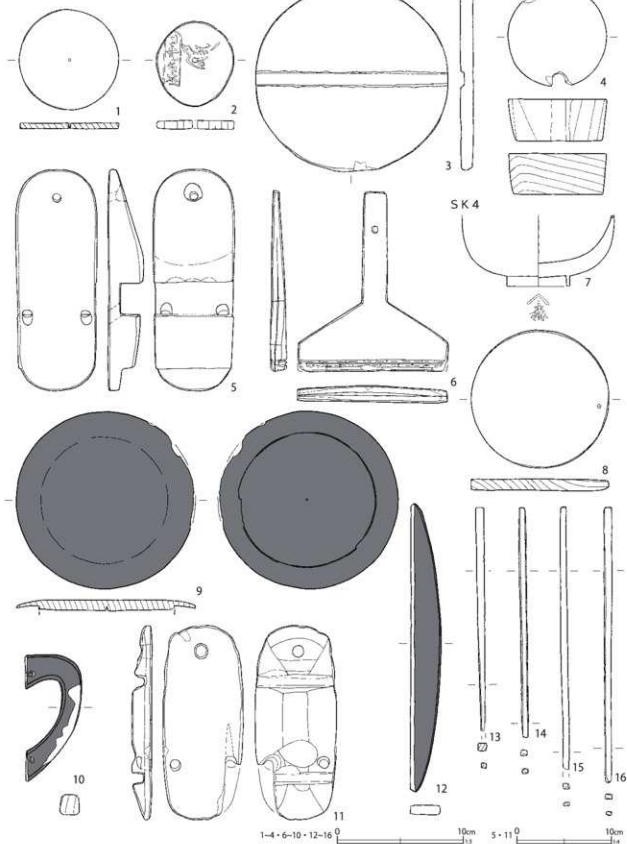
掘り方内には竹製の枠を設置している。覆土は白色と淡灰色の砂が主体で、上面は漆喰で覆われている。覆土第8層の白色土について自然科学分析を行ったところ、珪藻土が粉末化したものであった(第V章-1)。一部は熱を受けて急冷されており、珪藻土を加工していたと考えられる。

第69図421～428に陶磁器類を図示した。426・427は大堀相馬系陶器の碗である。426は内面に走馬の陽刻が見られる。胎土には砂鉄が含まれ、焼成により表面には斑状に黒色粒子が浮かび上がっている。427は所謂青ひび湯呑碗で、灰釉には大きく貫入が見られ、外面下位には陽刻と鉄釉が施されている。遺構の時期は19世紀後葉以降である。

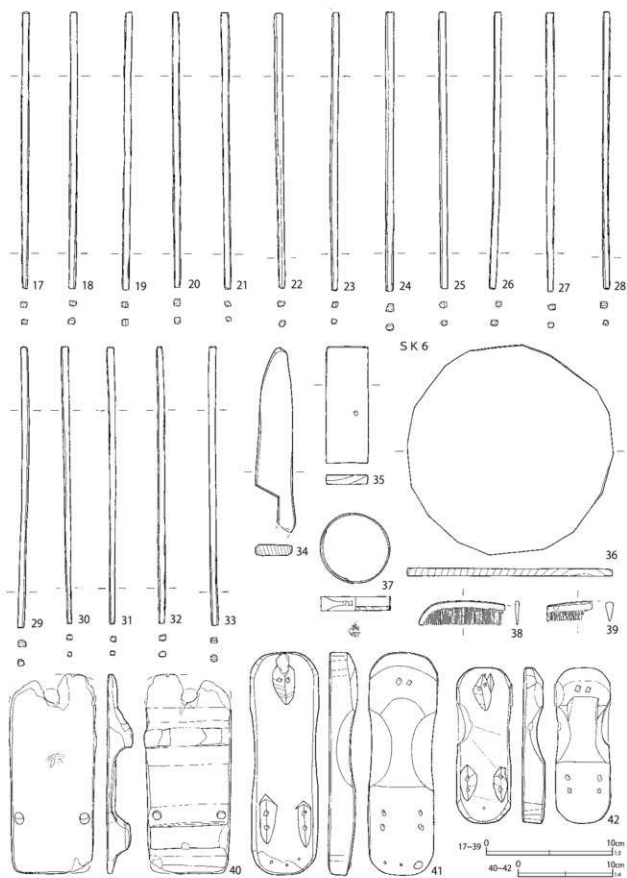
第144号土壌(第45図)

F7-J8・9グリッドに位置し、第1号溝跡に壊されている。長軸残存長10.87m、短軸8.04

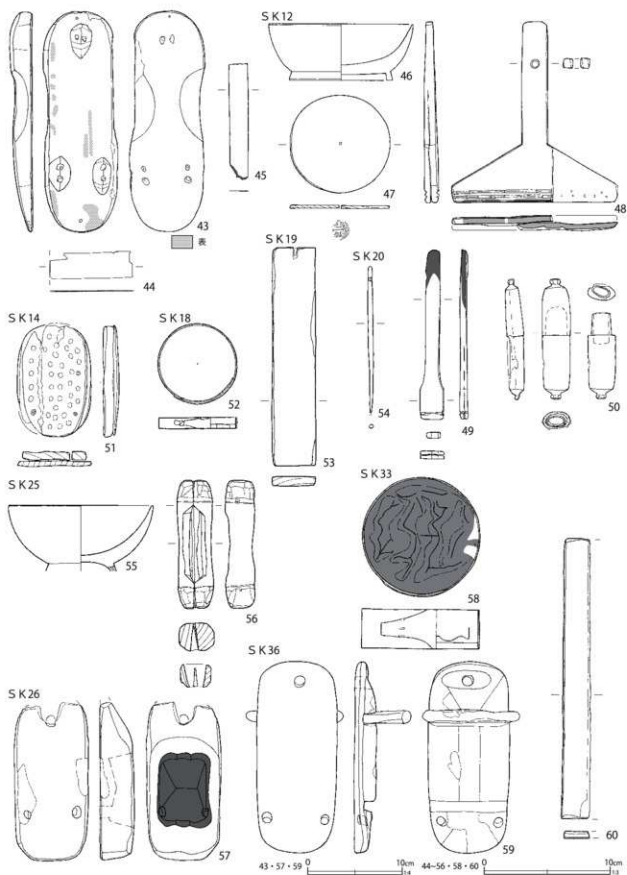
SK3



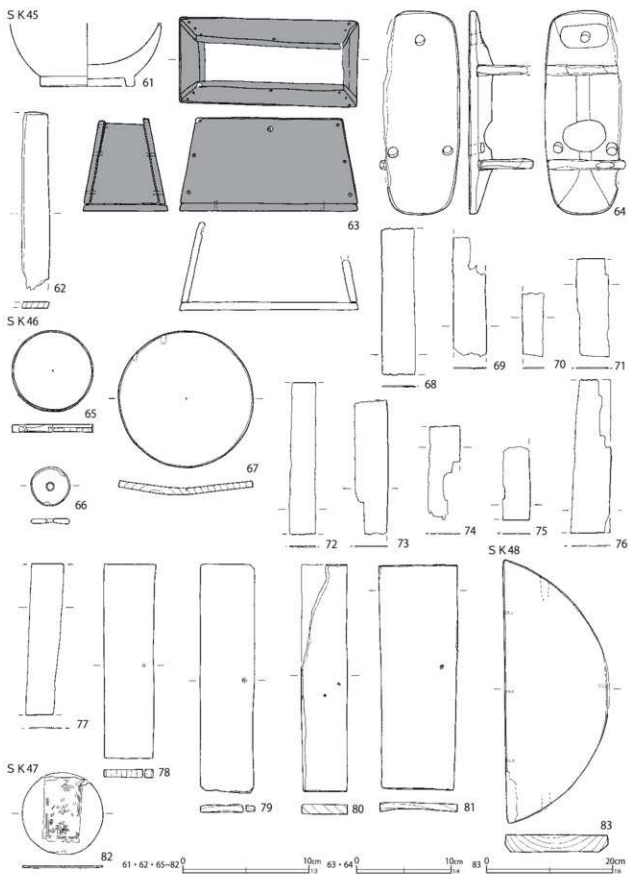
第81図 土曜出土遺物 (35)



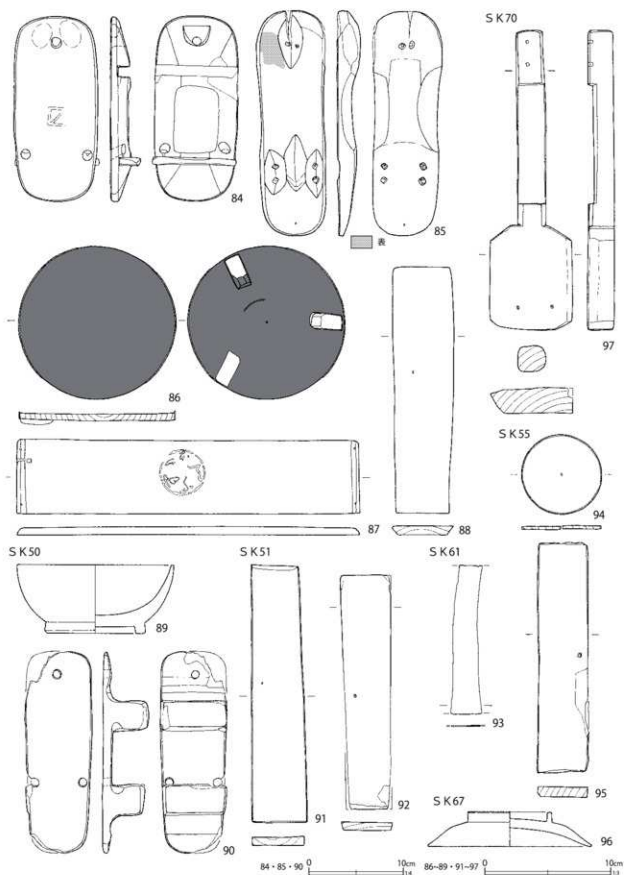
第82図 土墳出土遺物 (36)



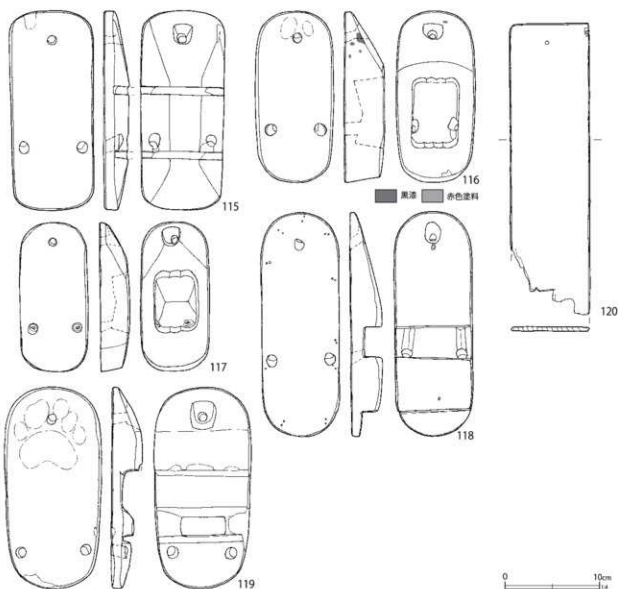
第83図 土曜出土遺物 (37)



第84図 土壙出土遺物 (38)



第85図 土曜出土遺物 (39)



第87図 出土遺物 (41)

第20表 土城出土遺物観察表 (6) (第81～87図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	円板	—	—	0.4	7.8	—	—	板目	SK3	孔	33-2
2	木製品	蓋	6.7	6.1	0.7	—	—	—	板目	SK3	模印 孔径 0.4 cm 文字 2	
3	木製品	鍋蓋	—	—	1.0	15.0	—	—	板目	SK3	—	
4	木製品	控	—	—	—	7.8	3.7	—	板目	SK3	—	
5	木製品	下駄	23.5	8.5	—	—	3.7	—	板目	SK3	斜り下駄	
6	木製品	刷毛	14.3	11.8	1.3	—	—	—	板目	SK3	木釘 孔	
7	木製品	膝枕	—	—	—	—	[5.7]	4.9	横木取り	SK4	内面赤漆 外面黒漆 高台内赤漆で文字	
8	木製品	底板	—	—	0.9	10.9	—	—	板目	SK4	—	
9	木製品	蓋	—	—	—	14.0	[0.8]	—	板目	SK4	表裏面黒漆	
10	木製品	湯桶	[10.0]	[4.4]	1.6	—	—	—	板目	SK4	把手 全面黒漆 樹皮紐残存	
11	木製品	下駄	20.5	8.6	—	—	[2.1]	—	板目	SK4	陰印下駄	
12	木製品	盆の縁板か	22.7	2.4	0.7	—	—	—	板目	SK4	黒漆	
13	木製品	箸	[17.6]	0.7	0.7	—	—	—	板目	SK4	削出し	
14	木製品	箸	18.1	0.5	0.4	—	—	—	削出	SK4	—	

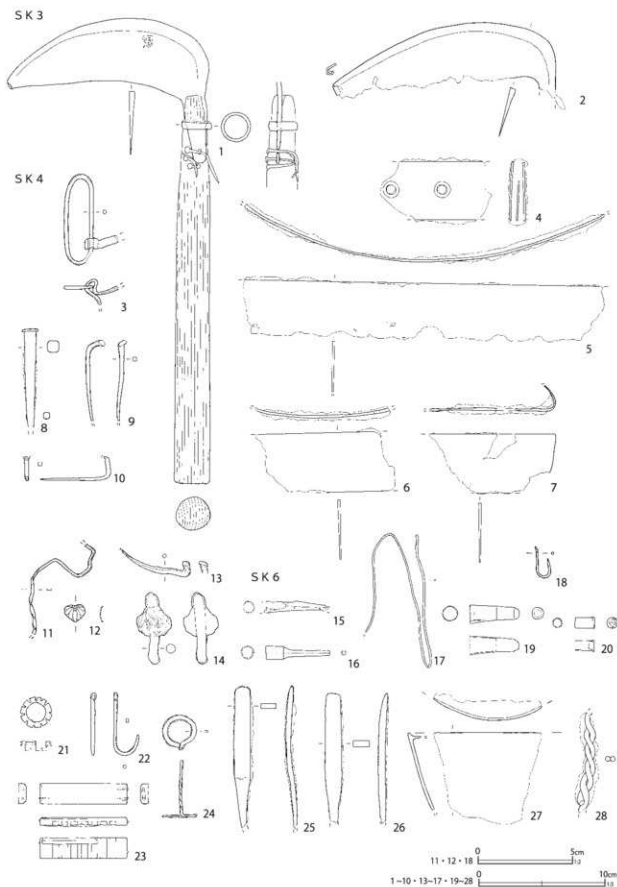
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径 / 径	高さ	底径	木取り	造構	備考	図版
15	木製品	箸	[20.7]	0.5	0.5	—	—	—	削出	SK4		
16	木製品	箸	21.7	0.6	0.4	—	—	—	削出	SK4		
17	木製品	箸	21.8	0.5	0.5	—	—	—	削出	SK4		
18	木製品	箸	21.8	0.5	0.5	—	—	—	削出	SK4		
19	木製品	箸	21.9	0.5	0.5	—	—	—	削出	SK4		
20	木製品	箸	21.7	0.5	0.5	—	—	—	削出	SK4		
21	木製品	箸	21.8	0.6	0.4	—	—	—	削出	SK4		
22	木製品	箸	21.6	0.7	0.5	—	—	—	削出	SK4		
23	木製品	箸	21.9	0.4	0.4	—	—	—	削出	SK4		
24	木製品	箸	22.0	0.7	0.7	—	—	—	削出	SK4		
25	木製品	箸	21.8	0.6	0.5	—	—	—	削出	SK4		
26	木製品	箸	21.8	0.5	0.4	—	—	—	削出	SK4		
27	木製品	箸	22.0	0.6	0.4	—	—	—	削出	SK4		
28	木製品	箸	21.8	0.5	0.5	—	—	—	削出	SK4		
29	木製品	箸	22.1	0.6	0.5	—	—	—	削出	SK4		
30	木製品	箸	21.8	0.5	0.5	—	—	—	削出	SK4		
31	木製品	箸	21.9	0.5	0.5	—	—	—	削出	SK4		
32	木製品	箸	21.8	0.5	0.5	—	—	—	削出	SK4		
33	木製品	箸	21.9	0.5	0.5	—	—	—	削出	SK4		
34	木製品	不明品	14.6	2.8	0.9	—	—	—	榫目	SK4		
35	木製品	木札	9.2	3.3	0.7	—	—	—	板目	SK4	表面黒書 文字3	33-3
36	木製品	曲物	16.5	16.3	0.7	—	—	—	板目	SK6	底板 多角形	
37	木製品	曲物	—	—	—	5.5	1.1	—	板目	SK6	焼印	
38	木製品	棚	[6.8]	1.8	0.3	—	—	—	板目	SK6		
39	木製品	棚	[3.6]	1.6	0.6	—	—	—	榫目	SK6		
40	木製品	下駄	21.2	9.0	—	—	2.2	—	板目	SK6	連歯下駄 焼印	
41	木製品	下駄	23.6	6.3	—	—	2.9	—	板目	SK6	無眼下駄 木釘 鉄釘	
42	木製品	下駄	16.5	5.7	—	—	2.4	—	板目	SK6	無眼下駄	
43	木製品	下駄	23.9	7.8	—	—	2.3	—	板目	SK6	無眼下駄 木釘孔 表残存	
44	木製品	経木	[2.1]	[6.6]	0.05	—	—	—	榫目	SK6	表裏面黒書 文字4	33-4
45	木製品	付け木	[9.2]	1.5	0.05	—	—	—	榫目	SK6	下端炭化	
46	木製品	漆碗	—	—	—	11.3	4.3	8.1	横木取り	SK12	内面赤漆 外面黒漆	
47	木製品	曲物	—	—	0.2	7.9	—	—	板目	SK12	底板 裏面に焼印「壽」か	
48	木製品	刷毛	14.3	13.1	1.1	—	—	—	榫目	SK12	孔18 木釘残1 赤漆付着	
49	木製品	刷毛	13.4	1.9	0.6	—	—	—	榫目	SK12	一部炭化	
50	木製品	不明品	9.5	2.2	1.3	—	—	—	榫目	SK12		
51	木製品	ブラシ	(9.0)	5.8	1.2	—	—	—	板目	SK14	板二枚重ね	
52	木製品	曲物	—	—	—	6.0	0.9	—	榫目	SK18	中央孔1	
53	木製品	木札	17.2	3.4	0.7	—	—	—	板目	SK19	表裏面黒書 木釘孔 文字5	33-5
54	木製品	簀	[11.6]	0.4	0.3	—	—	—	不明	SK20	表面に削り痕	
55	木製品	漆碗	—	—	—	11.3	[5.3]	—	横木取り	SK25	内外面赤漆 高台内黒漆 被熱	
56	木製品	不明品	2.8	10.1	2.2	—	—	—	板目	SK25	中央の板を材で挟む 銅線と木釘で左右を固定	28-1
57	木製品	下駄	[16.8]	7.9	—	—	3.6	—	板目	SK26	割り下駄 裏面炭化 裏のくりぬき炭化	
58	木製品	曲物	—	—	—	9.1	3.1	—	榫目	SK33	内面黒漆塗膜	28-2
59	木製品	下駄	20.4	8.5	—	—	5.9	—	板目	SK36	陰卯下駄	
60	木製品	木札	22.0	[2.2]	0.5	—	—	—	板目	SK36	表面黒書 文字6	33-6
61	木製品	漆碗	—	—	—	—	[5.0]	7.5	横木取り	SK45	内面赤漆 外面黒漆	
62	木製品	木札	[14.1]	[2.2]	0.5	—	—	—	板目	SK45	裏面黒書 文字7	33-7
63	木製品	箱枕	9.1	18.9	—	—	9.8	—	板目	SK45	外面赤漆	28-4
64	木製品	下駄	21.5	[8.1]	—	—	6.8	—	板目	SK45	陰卯下駄	
65	木製品	曲物	—	—	—	6.4	0.6	—	榫目	SK46		
66	木製品	不明品	—	—	0.4	3.0	—	—	榫目	SK46	孔	
67	木製品	曲物	—	—	0.6	10.7	—	—	板目	SK46	底板 歪みあり	
68	木製品	経木	11.6	[2.6]	0.05	—	—	—	榫目	SK46	表裏面黒書 文字8	33-8
69	木製品	経木	[9.3]	2.6	0.06	—	—	—	榫目	SK46	表裏面黒書 文字9	33-9
70	木製品	経木	[5.0]	[1.7]	0.05	—	—	—	榫目	SK46	表面黒書 文字10	33-10
71	木製品	経木	[7.7]	[2.6]	0.05	—	—	—	榫目	SK46	表面黒書 文字11	33-11

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
72	木製品	経木	12.0	[2.1]	0.04	—	—	—	板目	SK86	表裏面黒書 文字 12	33-12
73	木製品	経木	[10.5]	[2.6]	0.05	—	—	—	板目	SK86	表裏面黒書 文字 13	33-13
74	木製品	経木	[7.4]	[2.0]	0.05	—	—	—	板目	SK86	表裏面黒書 文字 14	33-14
75	木製品	経木	[5.8]	[2.1]	0.05	—	—	—	板目	SK86	表裏面黒書 文字 15	33-15
76	木製品	経木	12.1	[3.0]	0.05	—	—	—	板目	SK86	表面黒書 文字 16	33-16
77	木製品	経木	11.9	[2.5]	0.05	—	—	—	板目	SK86	表裏面黒書 文字 17	33-17
78	木製品	木札	15.3	4.0	0.7	—	—	—	板目	SK86	表裏面黒書 孔 文字 19	34-2
79	木製品	木札	18.1	4.3	0.6	—	—	—	板目	SK86	表面黒書 孔 文字 18	34-1
80	木製品	木札	18.0	3.6	0.8	—	—	—	板目	SK86	表面黒書 木釘孔 文字 20	34-3
81	木製品	木札	17.7	6.2	0.7	—	—	—	板目	SK86	表面黒書 樽の側板転用 木釘孔 文字 21	34-4
82	木製品	曲物	—	—	0.2	6.9	—	—	板目	SK47	表面紙製の札に文字 22	34-5
83	木製品	樽	[42.0]	[16.5]	2.8	—	—	—	板目	SK48	蓋 表面黒書 外周鉄釘 側板木釘孔 文字 23	34-6
84	木製品	下駄	19.5	8.9	—	—	3.2	—	板目	SK48	陰印下駄 焼印	
85	木製品	下駄	23.8	[7.3]	—	—	2.5	—	板目	SK48	無縁下駄 木釘残 表一部残	
86	木製品	湯桶	—	—	—	12.4	[1.2]	—	板目	SK48	側板一部残存 三方向に脚 表裏面黒漆 裏面に焼印	
87	木製品	箱	5.9	27.1	—	—	—	—	板目	SK48	側板 使印 木釘 鉄釘	
88	木製品	木札	19.4	5.3	0.7	—	—	—	板目	SK48	表裏面黒書 文字 24	34-7
89	木製品	漆碗	—	—	—	12.4	5.4	7.6	横木取り	SK50	内面赤漆 外面黒漆	
90	木製品	下駄	21.3	7.0	—	—	4.9	—	板目	SK50	連甬下駄	
91	木製品	木札	20.3	4.4	0.7	—	—	—	板目	SK51	木釘孔 表裏面黒書 文字 25	34-8
92	木製品	木札	18.5	4.0	0.7	—	—	—	板目	SK51	表裏面黒書 文字 26	34-9
93	木製品	経木	11.7	[2.4]	0.05	—	—	—	板目	SK61	表面黒書 文字 28	34-11
94	木製品	曲物	—	—	0.3	6.3	—	—	板目	SK55	底板	
95	木製品	木札	18.2	4.0	0.8	—	—	—	板目	SK55	表面黒書 木釘 文字 27	34-10
96	木製品	漆碗蓋	—	つまみ径 6.5	—	12.9	2.7	—	横木取り	SK67	内面赤漆 外面黒漆 炭化	28-3
97	木製品	不明品	23.7	6.6	2.1	—	—	—	板目	SK70	裏面黒漆	
98	木製品	漆碗	—	—	—	7.9	3.5	—	横木取り	SK78	内面赤漆 外面黒漆	
99	木製品	漆碗	—	—	—	10.7	4.7	5.7	横木取り	SK144	内面赤漆 外面黒漆 高台内赤漆で文字	
100	木製品	漆碗	—	—	—	—	[5.0]	—	横木取り	SK144	内面赤漆 外面黒漆	
101	木製品	漆碗	—	—	—	11.6	5.1	7.3	横木取り	SK144	内面赤漆 外面黒漆	
102	木製品	漆碗蓋	—	つまみ径 3.4	—	7.0	1.9	—	横木取り	SK144	内面赤漆 外面黒漆 被熱	
103	木製品	鉢	—	—	—	—	[5.4]	—	横木取り	SK144	外面赤漆 内面・高台内黒漆	
104	木製品	漆碗	—	—	—	—	[5.1]	—	横木取り	SK144	内面赤漆 外面黒漆 家紋	28-5
105	木製品	盆	—	—	—	(19.0)	[0.8]	—	板目	SK144	表裏面黒漆	
106	木製品	不明品	16.0	16.4	0.6	—	—	—	板目	SK144	表裏面黒書 文字 31	34-14
107	木製品	曲物蓋	—	—	0.6	13.6	—	—	板目	SK144	表面黒書 木釘 鉄釘 文字 33	35-1
108	木製品	容器	—	—	—	9.6	3.6	10.0	横木取り	SK144	内面黒漆 外面茶漆 底部赤漆の上に茶漆	
109	木製品	杓子	14.6	5.7	0.9	—	—	—	板目	SK144	全面黒漆	
110	木製品	傘	—	—	—	4.3	2.9	—	—	SK144	ろくろ 柄残存 柄を木釘固定	
111	木製品	不明品	11.1	5.0	0.4	—	—	—	板目	SK144		
112	木製品	羽子板	[43.3]	[13.8]	0.8	—	—	—	板目	SK144	上部・下部に木釘孔	
113	木製品	獅子頭	6.4	10.2	0.8	—	—	—	板目	SK144	下顎表面赤色塗料 裏・側面赤漆 文字 30	28-6
114	木製品	簪の玉	—	—	—	1.5	1.5	—	—	SK144	赤漆 金で文様	34-13
115	木製品	下駄	21.1	8.8	—	—	[2.6]	—	板目	SK144	陰印下駄	
116	木製品	下駄	18.0	7.8	—	—	4.3	—	板目	SK144	何り下駄 黒漆 赤色塗料 裏面に黒書 文字 29	34-12
117	木製品	下駄	15.8	7.2	—	—	3.0	—	板目	SK144	何り下駄 後孔に鼻緒の布残存	
118	木製品	下駄	23.7	8.2	—	—	3.4	—	板目	SK144	何り下駄 表面外周鉄釘孔	
119	木製品	下駄	21.2	10.1	—	—	3.2	—	板目	SK144	後甬下駄	
120	木製品	木札	[30.8]	8.4	0.4	—	—	—	板目	SK144	孔 表裏面黒書 文字 32	34-15

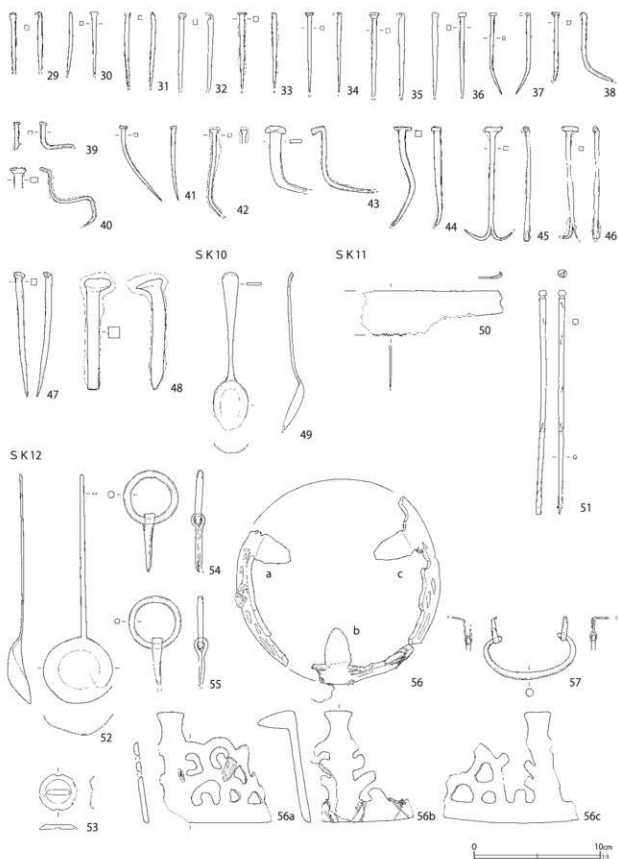
mの大規模な土壌で、遺物量が極めて多い。

第69図429～第71図470に陶磁器を示した。431は「原勢屋」・口に「吉」／△の人工具須で絵付けた爛徳利である。内部には鉄釘が充填され、鉄

槩壺に転用されている。436は白土染付土瓶で、内部には鉄釘が充填され、鉄槩壺に転用されている。469・470は土錘で、栗橋宿跡での出土は希少である。第86図99～第87図120は木製品で、漆

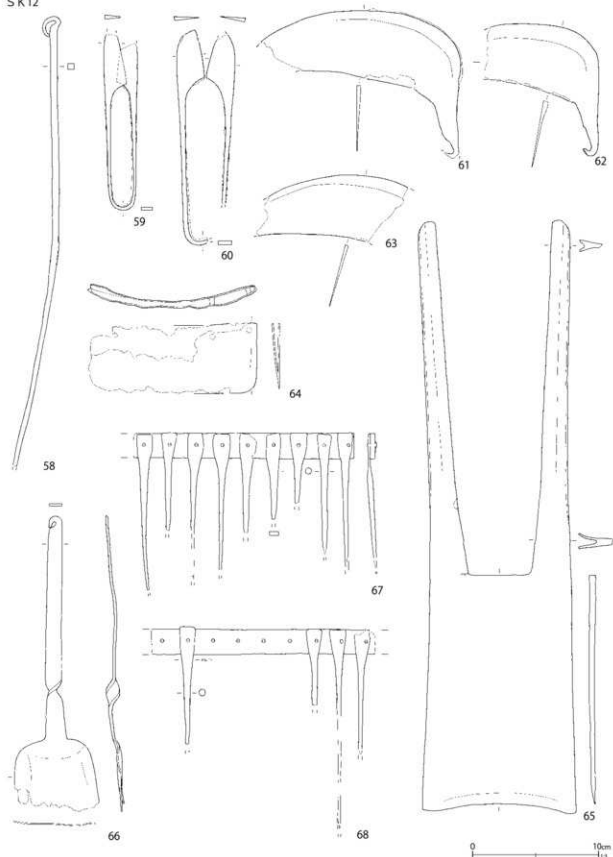


第88図 土墳出土遺物 (42)

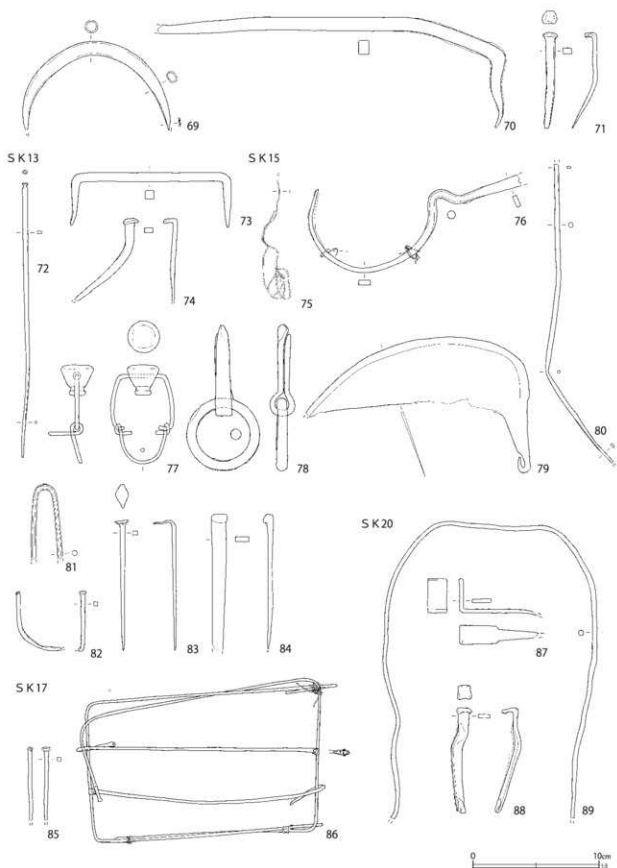


第89图 土城出土遺物 (43)

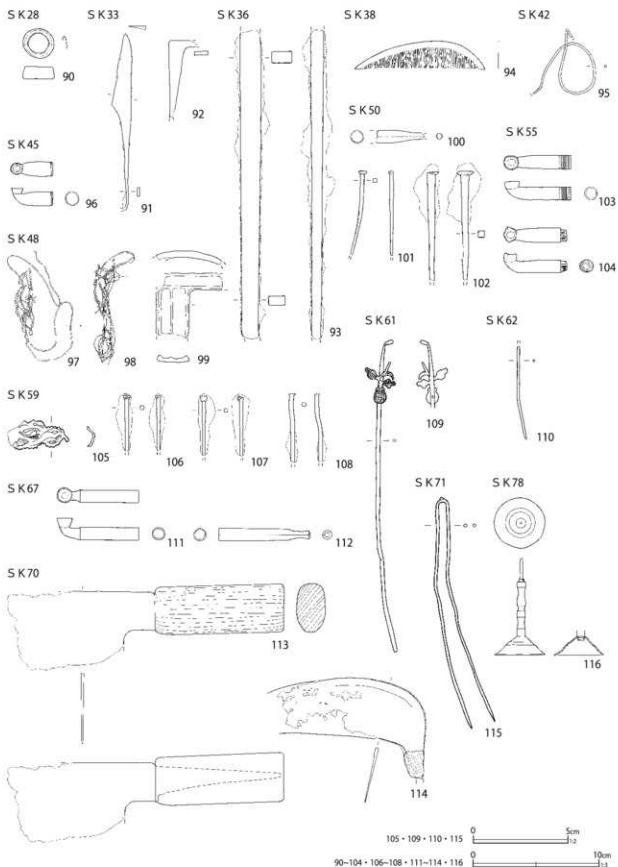
SK12



第90図 土壙出土遺物 (44)

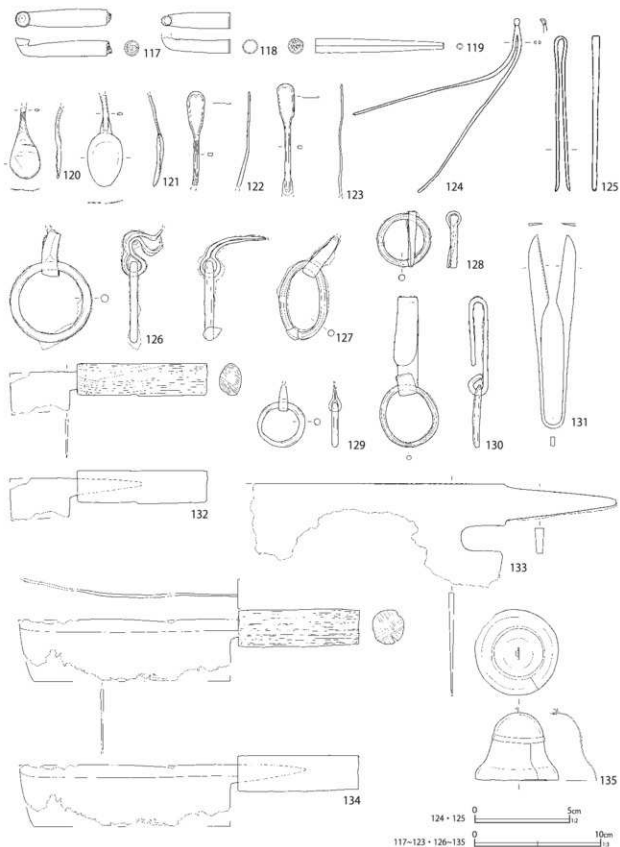


第91図 土壇出土遺物 (45)



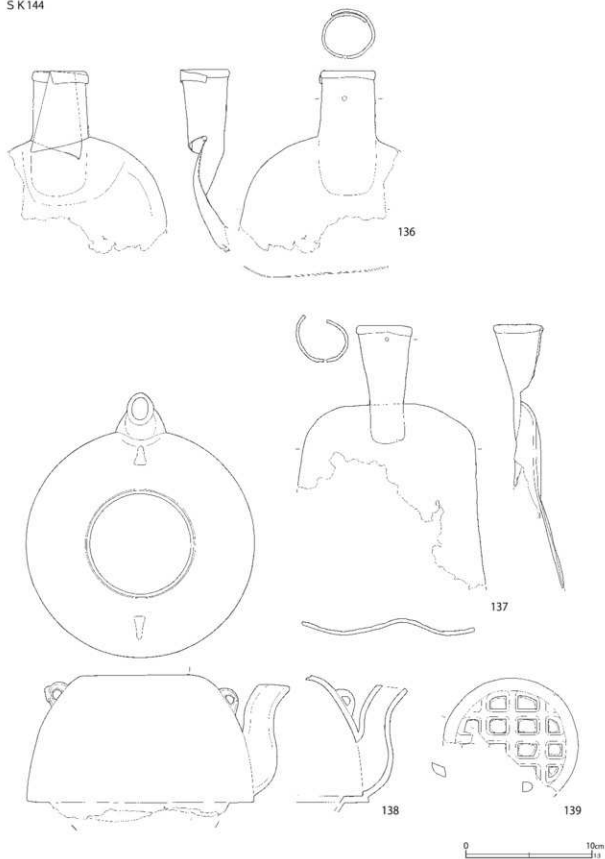
第92図 土壙出土遺物 (46)

SK144



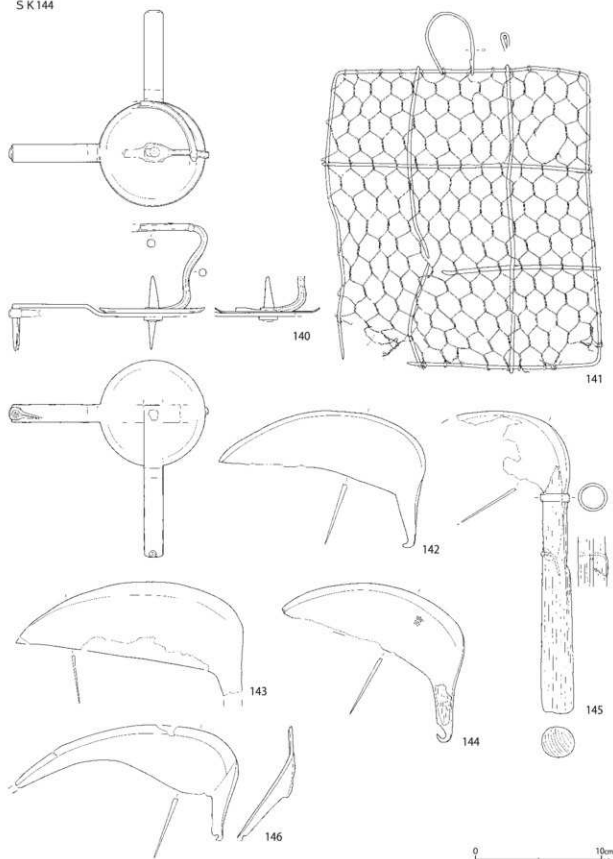
第93図 土曜出土遺物 (47)

SK144



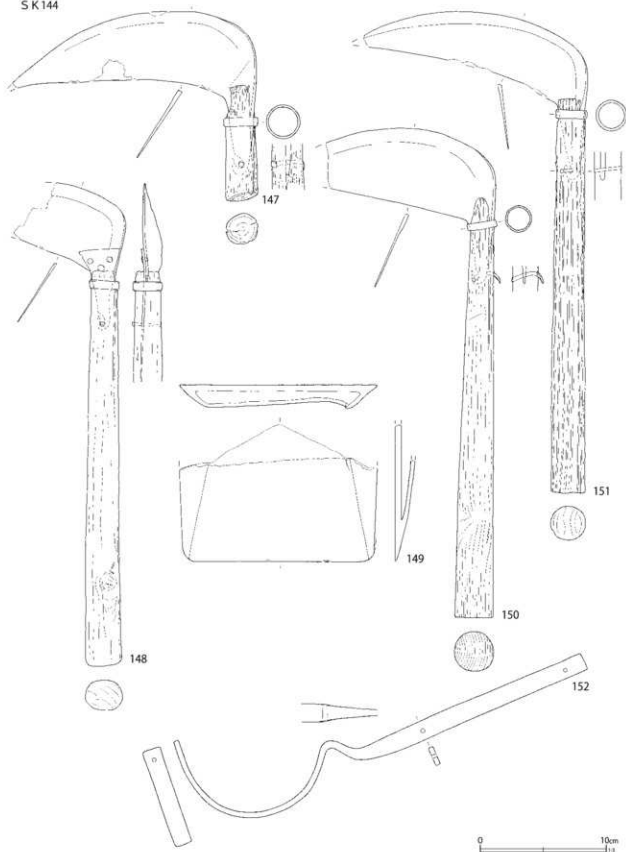
第94図 土壙出土遺物 (48)

S K 144

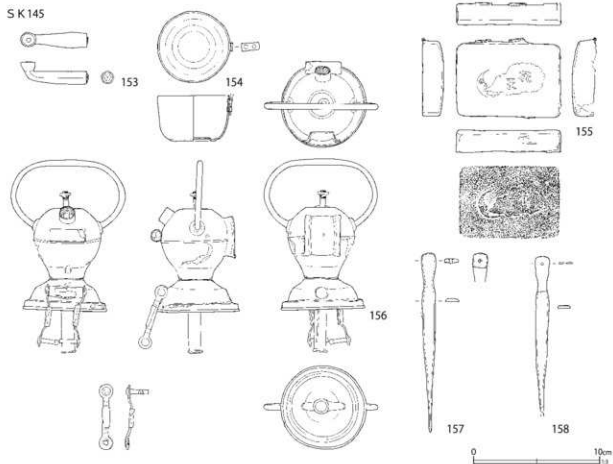


第95図 土曜出土遺物 (49)

SK144



第96図 土壙出土遺物 (50)



第97図 土壙出土遺物 (51)

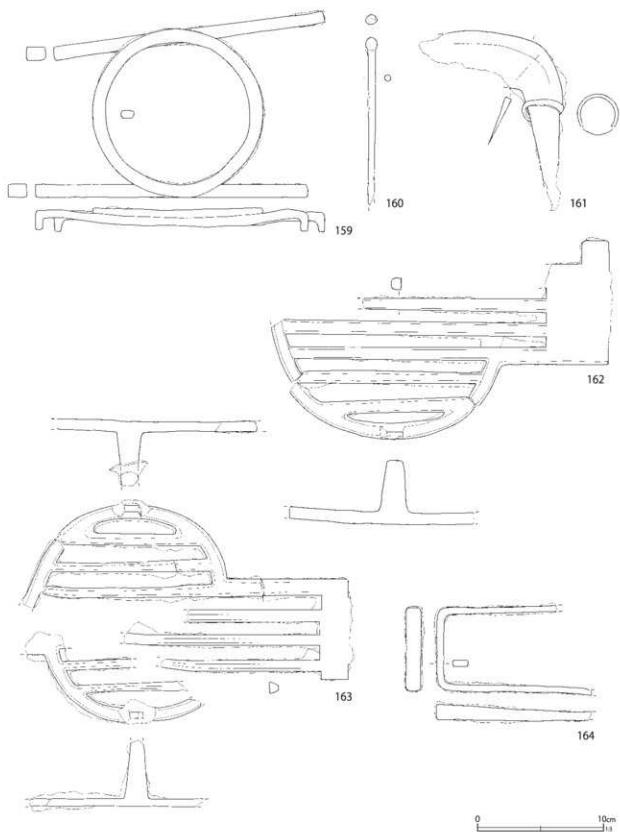
柶・羽子板・杓子・簪の玉・下駄・獅子頭などがある。104の漆柶には丸に三つ葵紋が描かれる。漆塗膜の分析を行ったところ、下地を二度塗った上に黒色漆・漆・朱漆が塗られた良品であるとの結果が出ている（第V章－5）。第93図117～第96図152は金属製品である。132・134の包丁や133の麵切り包丁などの調理具がある。142～148・150・151と鎌が多く出土し、144の鎌には「吉」の文字が見られる。第99図28～34には銭貨を掲載した。第102図41～第103図61は石製品で、火打石・石筆・砥石・硯・石板・石臼などがある。53の硯の表面は大きく窪み、裏面には人名と「文化十年」が刻まれる。遺構の時期は19世紀後葉以降である。

第144・145号土壙は、陶磁器に書かれた墨書、釘書、焼継印等の文字資料が豊富であるが、紙上

の都合上すべてを図化することができなかった。そのため、第50表に陶磁器の器種等を示し、写真図版14～24に文字資料写真として掲載した。

以上の土壙の他にも特徴的な遺物が出土している。

第47～71図の陶磁器類には、各土壙の時期を表す遺物と特徴的な遺物を優先して抽出した。特に舶載陶磁器、大塚相馬系・松岡系等をはじめとする地方窯陶器、栗橋宿では出土が少ない備前系陶器や瀬戸美濃系陶器の貧乏徳利等は可能な限り図示した。また、江戸で見られる製品とは異なる在地産土器が多く見られるため、土器類は優先的に図示した。第72図には小型の器種を掲載した。第72図1・3・5・6・9～12は土師質土器の小壺である。京都系の所謂「つぼつぼ」に類似する製品であるが、橙色でロクロ成形である点が異



第98図 土壇出土遺物 (52)

第21表 土墳出土遺物観察表(7) (第88~98図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	鉄製品	鎌	長さ37.0 刃長16.0 刃幅5.0 背幅0.4 重さ151.2	SK3	木柄付「忠」印	
2	鉄製品	鎌	刃長17.5 刃幅3.9 背幅0.5 重さ51.4	SK3		
3	鉄製品	吊金具	径7.2×2.3 横[4.3] 厚さ0.3 重さ12.8	SK4		
4	鉄製品	不明	縦[5.3] 横[8.7] 厚さ0.5 重さ65.0	SK4		
5	鉄製品	不明	縦[4.5] 横[28.8] 厚さ0.2 重さ91.1	SK4		
6	鉄製品	不明	縦4.7 横[11.1] 厚さ0.2 重さ29.9	SK4	同一具か	
7	鉄製品	不明	縦[4.7] 横[10.0] 厚さ0.2 重さ22.2	SK4		
8	鉄製品	釘	長さ[7.8] 幅0.9 厚さ0.9 重さ32.4	SK4		
9	鉄製品	釘	長さ[6.4] 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.6	SK4		
10	鉄製品	釘	長さ5.6 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.5	SK4		
11	銅製品	不明	長さ[4.8] 幅0.2 厚さ0.1 重さ0.8	SK4		
12	銅製品	飾金具	縦0.9 横1.1 厚さ0.1 重さ0.1	SK4		30-7
13	鉄製品	釘	長さ[5.4] 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.2	SK4		
14	鉄製品	不明	長さ5.5 厚さ0.7 重さ16.7	SK4	木質付着	
15	銅製品	煙管	長さ[4.9] 小口径(0.9×0.8) 重さ2.3	SK6	吸口	30-8
16	銅製品	煙管	長さ5.1 小口径1.1×1.0 口付径0.4 重さ2.3	SK6	吸口	30-8
17	銅製品	針金	縦10.7 横5.3 厚さ0.2 重さ3.7	SK6		
18	銅製品	鉤金具	長さ1.7 厚さ0.1 重さ0.2	SK6		
19	銅製品	葉莖	長さ3.9 径1.2 重さ11.5	SK6		30-7
20	銅製品	葉莖	長さ1.5 径0.8 重さ1.7	SK6	「M 32S&W」印刷	30-7
21	銅製品	不明	縦2.4 横2.5 高さ0.8 重さ5.2	SK6		
22	鉄製品	鉤金具	長さ5.0 幅0.2 厚さ0.3 重さ4.1	SK6		
23	鉄製品	ハーモニカ	縦1.6 横6.9 厚さ0.6 重さ3.4	SK6	本体は木製	
24	鉄製品	掻立て	高さ4.5 幅0.3 厚さ0.15 重さ2.7	SK6		31-4
25	鉄製品	へら状工具	長さ[11.1] 幅1.2 厚さ0.4 重さ33.6	SK6		
26	鉄製品	へら状工具	長さ[10.3] 幅1.3 厚さ0.5 重さ38.2	SK6		
27	鉄製品	不明	縦[7.2] 横8.5 厚さ0.2 重さ88.1	SK6		
28	鉄製品	不明	縦[8.0] 横1.5 厚さ0.4 重さ15.7	SK6		
29	鉄製品	釘	長さ[4.6] 幅0.35 厚さ0.35 重さ2.2	SK6		
30	鉄製品	釘	長さ[5.0] 幅0.3 厚さ0.3 重さ11.3	SK6		
31	鉄製品	釘	長さ[5.9] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.5	SK6		
32	鉄製品	釘	長さ[6.0] 幅0.35 厚さ0.4 重さ3.3	SK6		
33	鉄製品	釘	長さ[6.0] 幅0.4 厚さ0.4 重さ3.2	SK6		
34	鉄製品	釘	長さ[6.3] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.8	SK6		
35	鉄製品	釘	長さ[6.6] 幅0.3 厚さ0.4 重さ4.3	SK6		
36	鉄製品	釘	長さ[6.6] 幅0.3 厚さ0.4 重さ3.6	SK6		
37	鉄製品	釘	長さ6.5 幅0.2 厚さ0.3 重さ3.8	SK6		
38	鉄製品	釘	長さ[5.4] 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.4	SK6		
39	鉄製品	釘	長さ[2.7] 幅0.3 厚さ0.3 重さ1.8	SK6		
40	鉄製品	釘	長さ[4.6] 幅0.6 厚さ0.4 重さ6.9	SK6		
41	鉄製品	釘	長さ5.9 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.8	SK6		
42	鉄製品	釘	長さ[6.9] 幅0.3 厚さ0.3 重さ5.1	SK6		
43	鉄製品	釘	長さ[5.3] 幅0.9 厚さ0.3 重さ13.9	SK6		
44	鉄製品	釘	長さ[7.8] 幅0.5 厚さ0.5 重さ10.3	SK6		
45	鉄製品	釘	長さ9.0 幅0.4 厚さ0.3 重さ9.1	SK6		
46	鉄製品	釘	長さ[8.9] 幅0.35 厚さ0.3 重さ7.2	SK6		
47	鉄製品	釘	長さ9.9 幅0.4 厚さ0.5 重さ9.7	SK6		
48	鉄製品	釘	長さ8.8 幅0.9 厚さ0.9 重さ69.7	SK6		
49	銅製品	スプーン	長さ[12.5] 幅3.7 厚さ0.08 重さ11.6	SK10		
50	銅製品	鋸	長さ[11.2] 刃幅3.6 背幅0.1 重さ12.8	SK11		
51	銅製品	火箸	長さ17.7 幅0.4 重さ25.2	SK11		
52	銅製品	匙	長さ18.1 幅5.4 厚さ0.03 重さ11.4	SK12		

番号	種別	器種	法量	造構	備考	図版
53	銅製品	不明	縦2.9 横[3.0] 厚さ0.03 重さ1.3	SK12	銅針金巻付き・木片付着	31-3
54	鉄製品	吊金具	径4.3 縦[8.0] 厚さ0.5 重さ20.6	SK12		
55	鉄製品	吊金具	径4.1 縦[7.0] 厚さ0.4 重さ19.8	SK12		
56	鉄製品	五徳	径16.0 高さ8.7 厚さ0.6 重さ239.6	SK12		
57	鉄製品	把手	縦5.1 横7.3 厚さ0.6 重さ15.4	SK12		
58	鉄製品	火箸	長さ[35.8] 幅0.5 厚さ0.5 重さ48.4	SK12		
59	鉄製品	握鉄	長さ[13.9] 刀幅1.2 背幅0.3 重さ34.4	SK12		
60	鉄製品	握鉄	長さ[17.0] 刀幅2.0 背幅0.3 重さ58.8	SK12		
61	鉄製品	鎌	刀長[15.8] 刀幅5.2 背幅0.3 重さ91.6	SK12		
62	鉄製品	鎌	刀長[9.0] 刀幅5.3 背幅0.4 重さ46.4	SK12		
63	鉄製品	鎌	刀長[11.9] 刀幅5.0 背幅0.2 重さ29.6	SK12	同一具 中空	31-3
64	鉄製品	鋤先	長さ[5.6] 刀幅[13.3] 厚さ0.9 重さ118.0	SK12		
65	鉄製品	鋤先	長さ47.0 刀幅12.1 厚さ1.2 重さ780.4	SK12		
66	鉄製品	不明	長さ[23.4] 幅[6.7] 厚さ0.2 重さ57.4	SK12		
67	鉄製品	不明	縦[12.3] 横[17.5] 厚さ0.5 重さ150.6	SK12		
68	鉄製品	不明	縦[15.7] 横[17.8] 厚さ0.5 重さ102.5	SK12		
69	鉄製品	不明	縦[7.0] 横[11.7] 厚さ1.0 重さ21.7	SK12		
70	鉄製品	鋸	長さ[27.7] 幅1.1 厚さ0.8 重さ190.6	SK12		
71	鉄製品	釘	長さ7.6 幅0.6 厚さ0.5 重さ8.7	SK12		
72	銅製品	火箸	長さ21.6 幅0.4 厚さ0.2 重さ15.7	SK13	針金巻付き 栓本体は磁器	30-7
73	鉄製品	鋸	長さ12.7 幅0.6 厚さ0.6 重さ49.0	SK13		
74	鉄製品	釘	長さ[6.5] 幅0.7 厚さ0.4 重さ10.2	SK13		
75	銅製品	針金	縦10.0 横2.3 厚さ0.1 重さ1.6	SK15		
76	鉄製品	雨樋受け金具	長さ[16.8] 幅0.9 厚さ0.4 重さ49.9	SK15		
77	鉄製品	栓	縦7.8 横4.9 厚さ0.3 重さ22.8	SK15		
78	鉄製品	吊金具	径5.7 縦11.5 厚さ0.8 重さ86.0	SK15		
79	鉄製品	鎌	刀長[17.6] 刀幅5.5 背幅0.2 重さ87.1	SK15		
80	鉄製品	不明	長さ[23.7] 厚さ0.4 重さ13.5	SK15		
81	鉄製品	不明	縦[6.0] 横[2.5] 厚さ0.4 重さ11.4	SK15		
82	鉄製品	釘	長さ[4.7] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.5	SK15	雁首	30-8
83	鉄製品	釘	長さ10.3 幅0.4 厚さ0.3 重さ8.3	SK15		
84	鉄製品	釘	長さ[10.8] 幅1.1 厚さ0.4 重さ23.9	SK15		
85	鉄製品	釘	長さ[5.8] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.5	SK17		
86	鉄製品	不明	縦13.0 横20.7 厚さ0.2 重さ30.5	SK17		
87	鉄製品	類縁金具	縦2.7 横[6.3] 幅1.5 厚さ0.3 重さ19.2	SK20		
88	鉄製品	釘	長さ[8.3] 幅0.9 厚さ0.3 重さ13.5	SK20		
89	鉄製品	不明	縦23.6 横16.9 厚さ0.4 重さ18.5	SK20		
90	銅製品	口金	径2.3×2.5 幅1.0 厚さ0.1 重さ2.0	SK28		
91	鉄製品	握鉄	長さ[13.9] 刀幅1.4 背幅0.3 重さ16.6	SK33	雁首 内部に羅字残存	30-8
92	鉄製品	不明	縦[6.2] 横[2.3] 厚さ0.3 重さ7.1	SK33		
93	鉄製品	不明	長さ[24.5] 幅1.6 厚さ1.0 重さ174.0	SK36		
94	銅製品	櫛	縦2.1 横10.4 厚さ0.1 重さ6.5	SK38		
95	銅製品	針金	縦5.2 横5.0 厚さ0.2 重さ2.3	SK42		
96	銅製品	煙管	長さ3.3 火皿径0.9 小口径1.1 重さ8.8	SK45		
97	銅製品	針金	縦8.7 横5.2 厚さ0.1 重さ2.9	SK48		
98	銅製品	針金	縦8.9 横3.2 厚さ0.03 重さ4.6	SK48		
99	鉄製品	不明	縦[5.1] 横[5.2] 厚さ0.5 重さ21.7	SK48		
100	銅製品	煙管	長さ[3.8] 小口径(1.0) 重さ4.5	SK50		
101	鉄製品	釘	長さ[6.7] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.4	SK50	雁首	30-8
102	鉄製品	釘	長さ[8.6] 幅0.5 厚さ0.5 重さ21.1	SK50		
103	銅製品	煙管	長さ5.3 火皿径1.1 小口径1.0 重さ15.0	SK55		
104	銅製品	煙管	長さ4.5 火皿径1.2×1.1 小口径1.0×1.1 重さ8.9	SK55		
105	銅製品	口蓋	縦1.6 横[3.2] 厚さ0.1 重さ3.2	SK59		

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
106	鉄製品	釘	長さ[4.4] 幅0.3 厚さ0.3 重さ0.3	SK59		
107	鉄製品	釘	長さ[4.8] 幅0.3 厚さ0.3 重さ8.0	SK59		
108	鉄製品	釘	長さ[5.4] 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.9	SK59		
109	銅製品	簪	長さ16.5 幅1.5 厚さ0.1 重さ2.8	SK61		30-6
110	銅製品	簪	長さ[5.0] 厚さ0.1 重さ0.3	SK62	軸先端	
111	銅製品	煙管	長さ6.5 火皿径1.2 小口径1.0 重さ12.8	SK67	雁首	30-8
112	銅製品	煙管	長さ7.2 小口径1.0 口付径0.7 重さ12.9	SK67	吸口	30-8
113	鉄製品	包丁	長さ[22.0] 刃長[9.3] 刃幅[5.3] 背幅0.2 重さ106.2	SK70	木柄付	
114	鉄製品	鎌	刃長[11.7] 刃幅4.4 背幅0.3 重さ25.7	SK70	柄木貫付着	
115	銅製品	簪	長さ12.2 幅0.7 厚さ0.2 重さ3.9	SK71		
116	銅製品	燭台	高さ7.7 底径4.0 重さ23.0	SK78	火皿欠	
117	銅製品	煙管	長さ7.2 火皿径1.2×1.1 小口径1.2×1.1 重さ27.2	SK144	雁首 内部に羅字残存	30-8
118	銅製品	煙管	長さ[5.4] 小口径1.1×1.2 重さ12.1	SK144	雁首 火皿欠	30-8
119	銅製品	煙管	長さ10.1 小口径1.1×1.2 口付径0.4×0.5 重さ15.9	SK144	吸口	30-8
120	銅製品	スプーン	長さ[5.7] 幅[2.4] 厚さ0.1 重さ5.2	SK144		
121	銅製品	スプーン	長さ[7.3] 幅2.8 厚さ0.2 重さ8.7	SK144		
122	銅製品	スプーン	長さ[7.4] 幅[1.4] 厚さ0.2 重さ7.9	SK144	柄	
123	銅製品	スプーン	長さ[8.8] 幅[1.3] 厚さ0.1 重さ7.1	SK144	柄	
124	銅製品	簪	長さ9.2 幅0.4 厚さ0.2 重さ4.2	SK144		30-6
125	銅製品	簪	長さ8.2 幅0.2 厚さ0.3 重さ5.2	SK144		
126	鉄製品	吊金具	径6.4 縦[9.0] 厚さ0.6 重さ56.2	SK144		
127	鉄製品	吊金具	径6.2×3.7 縦8.3 横4.8 厚さ0.5 重さ49.4	SK144		
128	鉄製品	吊金具	径4.3 縦[4.4] 厚さ0.5 重さ18.8	SK144		
129	鉄製品	吊金具	径3.7 縦[4.9] 厚さ0.5 重さ8.5	SK144		
130	鉄製品	吊金具	径4.9×4.6 縦11.9 厚さ0.4 重さ59.7	SK144		
131	鉄製品	鋸鉄	長さ15.2 刃幅1.1 背幅0.2 重さ29.8	SK144		
132	鉄製品	包丁	長さ15.5 刃長4.7 刃幅3.0 背幅0.2 重さ30.9	SK144	木柄付	
133	鉄製品	鎌切包丁	長さ[29.2] 刃長[20.0] 刃幅[7.9] 背幅0.4 重さ150.3	SK144		31-9
134	鉄製品	包丁	長さ[26.8] 刃長[16.6] 刃幅[4.8] 背幅0.2 重さ73.6	SK144	木柄付	31-9
135	鉄製品	風鈴か	縦5.6 横6.6 厚さ0.1 重さ27.0	SK144		
136	鉄製品	十徳	長さ[14.4] 幅[12.5] 厚さ0.1 重さ132.1	SK144		
137	鉄製品	十徳	長さ[21.0] 幅[14.9] 厚さ0.3 重さ155.0	SK144		
138	鉄製品	鉄瓶	高さ[11.6] 胴径18.0 厚さ0.5 重さ1,085.3	SK144	南部型	
139	鉄製品	大格子	縦[9.0] 横10.7 厚さ0.8 重さ189.5	SK144		
140	鉄製品	燭台	縦15.5 横15.8 高さ9.9 重さ139.3	SK144		31-7
141	鉄製品	金網	縦28.6 横22.3 厚さ0.2 重さ76.2	SK144	網は銅製	
142	鉄製品	鎌	刃長16.3 刃幅5.0 背幅0.3 重さ96.7	SK144		
143	鉄製品	鎌	刃長[17.6] 刃幅3.8 背幅0.2 重さ70.3	SK144		
144	鉄製品	鎌	刃長14.3 刃幅5.0 背幅0.2 重さ68.5	SK144	「吉」印	31-8
145	鉄製品	鎌	長さ24.0 刃長[8.8] 刃幅5.0 背幅0.2 重さ72.7	SK144	木柄付	
146	鉄製品	鎌	刃長[17.7] 刃幅5.0 背幅0.3 重さ42.3	SK144		
147	鉄製品	鎌	長さ[14.9] 刃長[19.4] 刃幅6.3 背幅0.3 重さ136.2	SK144	木柄付	
148	鉄製品	鎌	長さ38.2 刃長[8.9] 刃幅5.5 背幅0.1 重さ125.7	SK144	木柄付 茎補修	
149	鉄製品	鋤先	縦[10.9] 横[15.6] 厚さ1.9 重さ519.9	SK144		
150	鉄製品	鎌	長さ38.8 刃長[13.2] 刃幅6.3 背幅0.3 重さ154.4	SK144	木柄付	
151	鉄製品	鎌	長さ38.2 刃長[18.1] 刃幅5.1 背幅0.3 重さ159.8	SK144	木柄付	31-8
152	鉄製品	雨樋受け金具	長さ32.8 幅1.4 厚さ0.4 重さ147.9	SK144		
153	銅製品	煙管	長さ5.2 火皿径1.1×1.2 小口径1.0 重さ13.0	SK145	雁首 内部に羅字残存	30-8
154	銅製品	柄杓か	口径5.7 底径3.5 高さ3.6 重さ37.6	SK145		
155	銅製品	石鍬箱	縦6.2 横8.2 幅1.8 厚さ0.02 重さ17.8	SK145	蓋「花王」ロゴ浮出し	
156	銅製品	ガスカンテラ	縦[15.3] 横[9.0] 重さ182.1	SK145	カンテラ取付部分	31-10
157	銅製品	時計針	長さ14.2 幅1.1 厚さ0.3 重さ13.0	SK145		
158	銅製品	時計針	長さ[12.3] 幅1.1 厚さ0.2 重さ10.1	SK145		

番号	種別	器種	法量	造構	備考	図版
159	鉄製品	五徳	縦22.9 横14.1 高さ1.9 厚さ0.6 重さ322.5	SK145	吉原五徳	
160	鉄製品	火箸	長さ[13.1] 厚さ0.5 重さ20.7	SK145		
161	鉄製品	鎌	刃長[11.4] 刃幅4.0 背幅0.5 重さ112.7	SK145		
162	鉄製品	火格子か	縦[15.9] 横[27.1] 高さ5.0 厚さ0.8 重さ731.8	SK145		
163	鉄製品	火格子か	縦[17.7] 横[26.3] 高さ[5.2] 厚さ0.7 重さ510.4	SK145		
164	鉄製品	門金具	縦[7.1] 横[11.9] 幅1.2 厚さ0.5 重さ77.5	SK145		

SK 3



1

2

3

4

5

SK 6



6

7

8

9

SK 12

SK 19



SK 22

SK 28

SK 32

SK 38

10

11

12

13

14

15

SK 45



16

17

18

19

20

21

SK 53



22

23

24

25

26

SK 56

SK 59

SK 67

SK 70

SK 75・76



27

28

29

30

SK 144

SK 144



31

32

33

34

35

0 5cm

第99図 土壇出土遺物 (53)

第22表 土壇出土遺物観察表(8) (第99図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径27.9 厚さ1.1 重さ4.2	SK3	寛永通寶(新) 11波	
2	銅製品	銭貨	径22.2 厚さ1.3 重さ3.5	SK3	半銭銅貨 明治16年	
3	銅製品	銭貨	径22.2 厚さ1.3 重さ3.5	SK3	半銭銅貨 明治17年	
4	銅製品	銭貨	径23.2 厚さ1.0 重さ2.0	SK4	寛永通寶(新)	
5	鉄製品	銭貨	径24.4 厚さ1.4 重さ2.9	SK4	寛永通寶(新)	
6	鉄製品	銭貨	径29.1 厚さ1.3 重さ3.2	SK4	寛永通寶(新) 鉄四文銭	
7	銅製品	銭貨	径26.6 厚さ1.0 重さ3.3	SK6	文久永寶	
8	鉄製品	銭貨	径23.2 厚さ1.3 重さ3.1	SK6	寛永通寶(新)	
9	銅製品	銭貨	径28.1 厚さ1.0 重さ4.1	SK12	寛永通寶(新) 11波	
10	銅製品	銭貨	径23.1 厚さ1.1 重さ3.3	SK19	寛永通寶(新)	
11	銅製品	銭貨	径22.8 厚さ1.1 重さ2.2	SK22	寛永通寶(新)	
12	銅製品	銭貨	径22.6 厚さ0.9 重さ2.0	SK28	寛永通寶(新)	
13	銅製品	銭貨	径22.8 厚さ1.1 重さ2.4	SK32	寛永通寶(新)	
14	銅製品	銭貨	径22.1 厚さ0.8 重さ1.9	SK32	寛永通寶(新)	
15	銅製品	銭貨	径26.7 厚さ1.1 重さ3.6	SK38	文久永寶	
16	銅製品	銭貨	径24.3 厚さ1.4 重さ4.2	SK45	寛永通寶(新)	
17	銅製品	銭貨	径23.3 厚さ0.9 重さ2.0	SK45	寛永通寶(新)	
18	銅製品	銭貨	径22.1 厚さ1.2 重さ3.1	SK46	半銭銅貨 明治八?年	
19	銅製品	銭貨	径23.5 厚さ0.9 重さ2.3	SK48	寛永通寶(新)	
20	銅製品	銭貨	径23.2 厚さ1.1 重さ2.4	SK49	寛永通寶(新)	
21	銅製品	銭貨	径24.3 厚さ1.3 重さ3.4	SK51	寛永通寶(古)	
22	銅製品	銭貨	径23.6 厚さ1.3 重さ2.5	SK53	寛永通寶(新)	
23	鉄製品	銭貨	径24.5 厚さ1.2 重さ1.3	SK56	寛永通寶か	
24	銅製品	銭貨	径26.4 厚さ1.1 重さ3.3	SK59	文久永寶	
25	鉄製品	銭貨	径24.3 厚さ1.4 重さ3.2	SK67	寛永通寶(新)	
26	銅製品	銭貨	径24.5 厚さ1.2 重さ3.0	SK70	寛永通寶(古)	
27	銅製品	銭貨	径23.3 厚さ1.0 重さ2.6	SK75-76	寛永通寶(新)	
28	銅製品	銭貨	径26.8 厚さ1.0 重さ3.2	SK144	文久永寶	
29	銅製品	銭貨	径26.5 厚さ1.1 重さ3.2	SK144	文久永寶	
30	銅製品	銭貨	径25.1 厚さ1.1 重さ3.7	SK144	寛永通寶(新) 背文	
31	銅製品	銭貨	径21.4 厚さ1.1 重さ2.2	SK144	寛永通寶(新)	
32	銅製品	銭貨	径25.7 厚さ1.6 重さ4.3	SK144	寛永通寶	
33	鉄製品	銭貨	径24.2 厚さ1.3 重さ2.4	SK144	寛永通寶(新)	
34	銅製品	銭貨	径22.1 厚さ1.3 重さ3.4	SK144	半銭銅貨 明治16年	
35	銅製品	銭貨	径28.4 厚さ1.7 重さ2.6	SK145	大清銅幣 裏面剥離	

なる。8は焼塩壺と考えられる。

第73図はミニチュアの製品である。鍋、徳利、急須、播鉢がある。

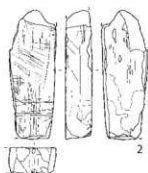
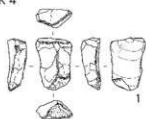
第74・75図は玩具類である。箱庭道具の建造物、人形、鳩笛、泥面子、基石状土製品などがある。人形には、狛犬(11)、獅子頭(13)、大黒(15・16)、猿(23)のモチーフがある。19の基石状土製品は表面を黒色に仕上っている。

第76～80図には瓦を掲載した。「川松」、ヤマに「三」、「安柴」、「田宮瓦」、「長門」／ヤマに「吉」、「赤坂」、「〇」などの刻印が見られる。

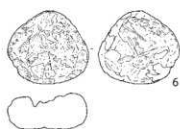
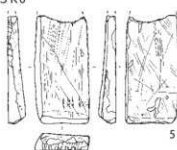
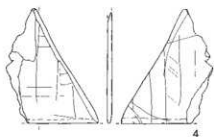
第81～87図には木製品を掲載した。漆椀や下駄が主体である。そのほか、刷毛(6・48・49)、内面に漆が固まった曲物(58)など道具類も出土した。漆椀や下駄には屋号が記され、ヤマに「森」(7)、枡(84)、ヤマに「キ」(90)などがある。第46号土壇では墨書の残る経木・木札が多数出土した(68～81)。78・79ではヤマに枡印／「武州栗橋 枡屋儀兵衛殿」、81では「枡屋 ます屋儀兵衛」という名が見られる。78には「一上関弁 柄 老樽／十箱合」と取引内容が書かれている。

第88～98図には金属製品を掲載した。24は灯

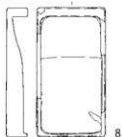
SK4



SK6



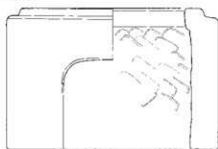
SK12



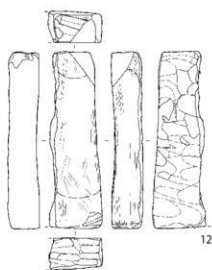
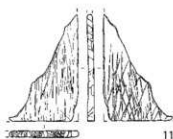
SK18・19



SK26



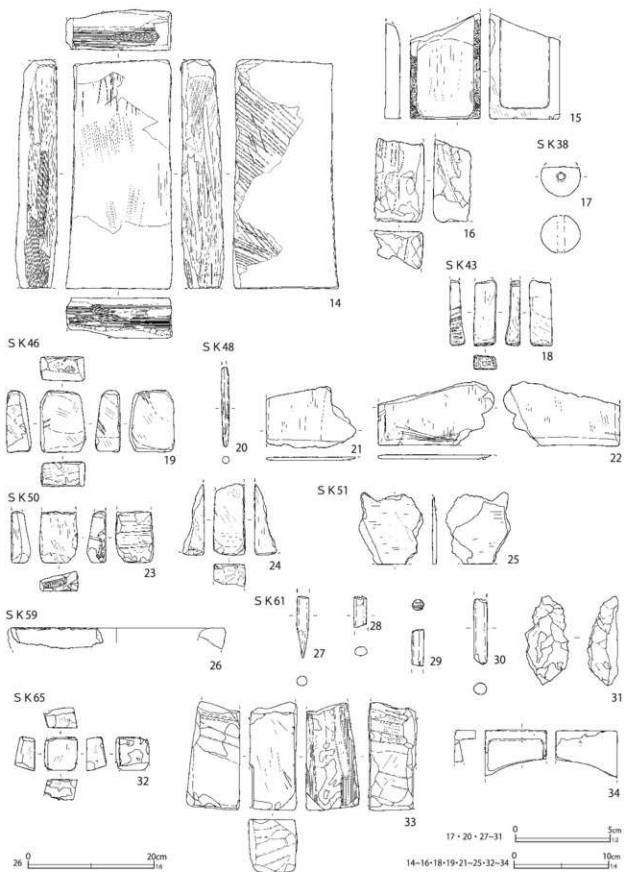
SK36



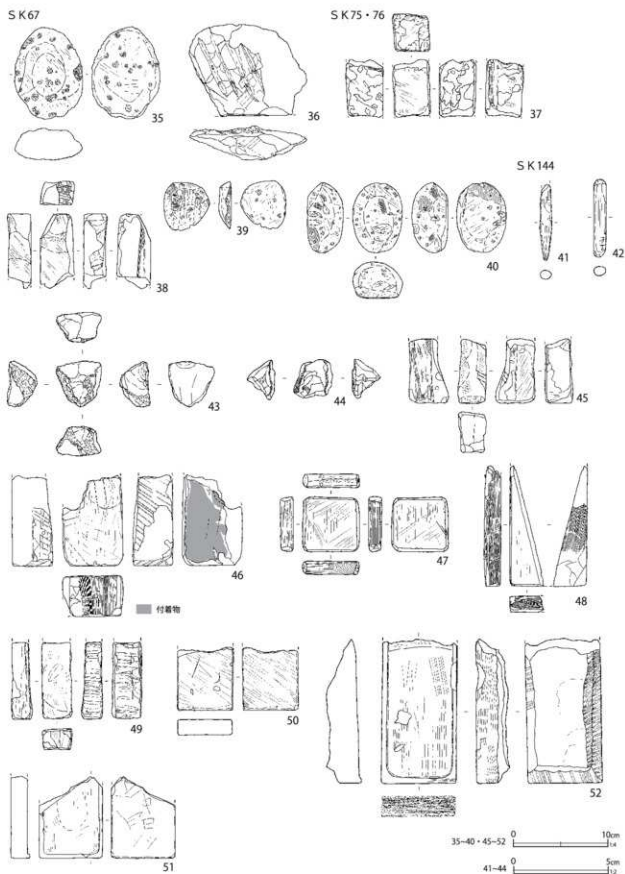
■ 光沢部分



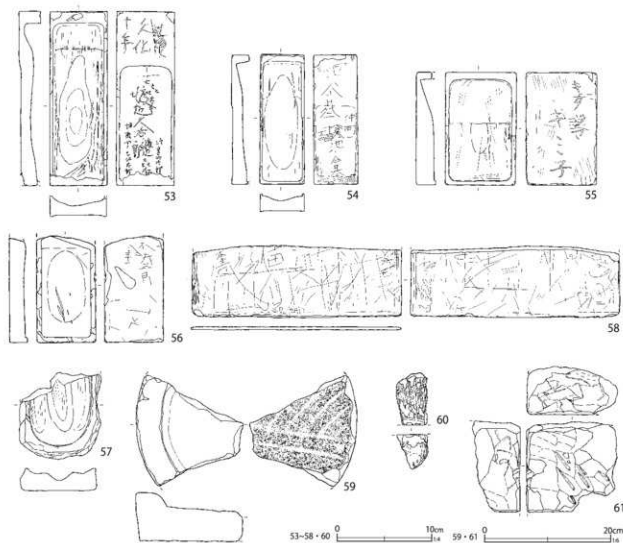
第100図 土壙出土遺物 (54)



第101図 土坑出土遺物 (55)



第102図 土壙出土遺物 (56)



第103図 土壌出土遺物 (57)

第23表 土壌出土遺物観察表 (9) (第100～103図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	火打石	2.8	1.9	1.0	5.8	玉髄	SK4	剥片利用(再生剥片)	
2	石製品	砥石	[13.6]	[5.0]	2.8	331.4	ホルンフェルス	SK4	刀物痕 砥面4 被熱	
3	石製品	砥石	[6.6]	5.0	2.4	128.7	砂岩	SK4	ツルハシ状工具痕か、砥面4 被熱	
4	石製品	石板	[12.1]	[9.7]	0.5	66.2	粘板岩	SK4	側面工具痕 貫線	
5	石製品	砥石	[11.4]	5.8	1.8	187.2	ホルンフェルス	SK6	幅広工具痕 砥面5	32-2
6	石製品	磨石	7.7	8.6	4.3	75.9	軽石	SK6	自然面使用 刀物痕	32-1
7	石製品	磨石	4.9	3.2	2.4	10.5	軽石	SK6	自然面残存 使用面1 刀物痕	
8	石製品	硯	13.6	7.2	—	280.5	凝灰岩(繖状)	SK12	器高2.2cm	
9	石製品	磨石	[5.0]	[2.6]	[2.2]	11.9	角閃石ゲイサイト	SK18-19	多孔質 自然面使用 使用面2	32-3
10	石製品	竈	長軸45.8 高さ29.0	短軸43.4 口径37.7	—	19800.0	凝灰岩(軟質)	SK26	方形 口縁円形、煤付着 内面幅広工具痕	
11	石製品	砥石	[11.3]	[7.3]	0.7	63.1	粘板岩	SK36	ノコギリ痕か、幅広工具痕 刀物痕 砥面3	
12	石製品	砥石	18.7	5.7	2.3	534.4	流紋岩	SK36	幅広工具痕 丸ノミ痕か、砥面3 被熱	32-2
13	石製品	砥石	4.5	6.0	2.5	106.9	砂岩	SK36	刀物痕 砥面6 被熱部光沢	32-2
14	石製品	砥石	24.2	11.2	4.3	1991.9	ホルンフェルス	SK36	ノコギリ痕か、幅広工具痕 刀物痕 砥面5 被熱	32-2
15	石製品	硯	[11.2]	7.5	—	293.9	粘板岩	SK36	器高1.7cm 線刻	32-3
16	石製品	切石材	[8.8]	[5.3]	[3.9]	189.4	凝灰岩	SK36	幅広工具痕か	

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
17	石製品	簪玉	径2.1	高さ2.0		8.2	メノウか	SK38		
18	石製品	砥石	[6.9]	2.4	1.5	40.9	流紋岩	SK43	幅広工具痕 刃物痕 砥面4	32-2
19	石製品	砥石	6.5	4.7	2.6	125.8	砂岩	SK46	刃物痕 砥面6	32-2
20	石製品	石筆	[4.2]	0.4	—	1.1	滑石	SK48		
21	石製品	石板	[6.5]	[9.5]	0.3	32.3	粘板岩	SK48	スレート瓦か	
22	石製品	石板	[6.8]	12.3	0.4	60.8	粘板岩	SK48	側面工具痕 スレート瓦か	
23	石製品	砥石	[5.4]	4.0	2.0	63.6	流紋岩	SK50	ノコギリ痕 幅広工具痕 砥面4	
24	石製品	砥石	[7.5]	3.4	[2.4]	60.9	流紋岩	SK50	砥面4	
25	石製品	石板	[7.6]	[6.8]	0.4	37.2	粘板岩	SK51	側面工具痕	
26	石製品	石臼	径[35.0]	高さ[3.3]		276.0	黒雲母花崗岩	SK59	上臼 被熱	
27	石製品	石筆	[3.2]	0.6	—	1.8	滑石	SK61		
28	石製品	石筆	[1.6]	0.6	—	1.3	滑石	SK61		
29	石製品	石筆	[1.9]	0.6	—	1.5	滑石	SK61		
30	石製品	石筆	[3.4]	0.7	—	3.2	滑石	SK61		
31	石製品	火打石	4.7	2.3	1.7	15.3	玉髓	SK61		
32	石製品	砥石	3.5	3.5	2.1	36.2	流紋岩	SK65	砥面6 被熱	
33	石製品	砥石	[11.4]	5.1	5.6	579.9	流紋岩	SK65	ノコギリ痕 幅広工具痕 刃物痕 砥面3 溝状使用痕 被熱	
34	石製品	硯	[4.9]	6.5	—	60.6	凝灰岩	SK65	器高2.2cm 穿孔1 黒色処理	
35	石製品	磨石	9.7	7.2	3.3	95.3	角閃石デイスサイト	SK67	多孔質 自然面使用 被熱	32-1
36	石製品	切石材	[9.8]	[12.4]	[3.6]	293.4	砂岩	SK67	ツルハシ状工具痕 幅広工具痕か	
37	石製品	砥石	[6.1]	4.0	3.9	160.5	流紋岩	SK75・76	ノコギリ痕 摩耗	
38	石製品	砥石	[7.9]	3.6	2.5	109.9	流紋岩	SK75・76	ノコギリ痕 幅広工具痕 砥面3	
39	石製品	磨石	5.1	4.8	1.3	16.7	角閃石デイスサイト	SK75・76	多孔質 自然面使用 線条痕	32-1
40	石製品	磨石	7.4	5.2	3.8	79.0	角閃石デイスサイト	SK75・76	多孔質 自然面使用 刃物痕 線条痕	32-1
41	石製品	石筆	4.0	0.6	—	1.6	滑石	SK144		
42	石製品	石筆	4.1	0.6	—	3.0	滑石	SK144	両端使用	
43	石製品	火打石	2.4	2.4	1.6	10.0	玉髓	SK144		
44	石製品	火打石	2.1	1.5	2.0	5.3	玉髓	SK144		
45	石製品	砥石	[6.8]	3.0	4.2	127.2	流紋岩	SK144	ノコギリ痕 幅広工具痕 砥面4	
46	石製品	砥石	[9.6]	6.4	4.3	408.0	ホルンフェルス	SK144	ノコギリ痕 幅広工具痕 砥面2	
47	石製品	砥石	5.8	6.0	1.4	84.4	凝灰岩	SK144	ノコギリ痕か 砥面4	32-2
48	石製品	砥石	12.7	4.6	1.7	98.1	粘板岩	SK144	ノコギリ痕か 砥面1	
49	石製品	砥石	[8.1]	3.2	2.2	103.8	流紋岩	SK144	ノコギリ痕 幅広工具痕か 砥面3	
50	石製品	礫石	[6.6]	5.9	1.6	113.1	砂岩	SK144		
51	石製品	硯	[8.6]	6.7	—	155.1	凝灰岩	SK144	器高2.0cm 裏刻書「中田□□□」	
52	石製品	硯	[15.3]	7.9	—	592.9	凝灰岩	SK144	器高3.4cm 櫛歯状工具痕 ツルハシ状工具痕 粗整形部残存	
53	石製品	硯	18.4	6.1	—	458.5	粘板岩	SK144	器高2.3cm 刃物痕 裏刻書「文化十年 渡辺久治郎」か	32-3
54	石製品	硯	13.7	4.7	—	227.5	粘板岩	SK144	器高1.9cm 裏刻書「仲町 池谷基吉」か	32-3
55	石製品	硯	11.9	7.5	—	313.4	粘板岩	SK144	器高2.1cm 裏刻書「キタジマキミ子」	
56	石製品	硯	[11.2]	6.2	—	221.6	凝灰岩	SK144	器高1.9cm 裏刻書 器面黒色	
57	石製品	硯	[9.1]	[8.6]	—	225.8	ホルンフェルス	SK144	器高2.3cm 被熱 (黒化)	
58	石製品	石板	[7.6]	22.1	0.3	132.5	粘板岩	SK144	背線 刻書	
59	石製品	石臼	長さ[17.8] 幅[17.2]			2594.4	安山岩	SK144		
		(上臼)	高さ7.9 径[35.0]							
60	石製品	切石材	[5.5]	[3.3]	[3.6]	59.1	砂岩	SK144	ノコギリ痕か	
61	石製品	切石材	[14.7]	[14.6]	[7.7]	1564.7	凝灰岩	SK144	ツルハシ状工具痕 幅広工具痕 側面粗整形部残存	

明具で使用する搔立てである。鋤先(64・65)などの農具も見られる。94は銅製の櫛である。109は銅製の簪で、植物をモチーフとした飾りがつけられる。156は照明具のガスカンテラである。

第99図は銭貨である。寛永通宝が主体で、一

部に文久永宝が見られる(7・15・24・28・29)。

第100～103図には石製品を掲載した。14は長さ24.2cm、幅11.2cmと大形の砥石である。17は簪の玉でメノウと推定される。10は石製の籠で石材は大谷石と推定される。

(6) ビット

ビットは第一面で8基検出された。位置、規模等の基本的な情報は第24表に、遺構図は第104図にまとめた。

ビット3・6・7は直線的に並び、ビット間の距離は約1.2mである。ビット3・6では8cm角の杭状の木材が残存していた。ビット3・6・7

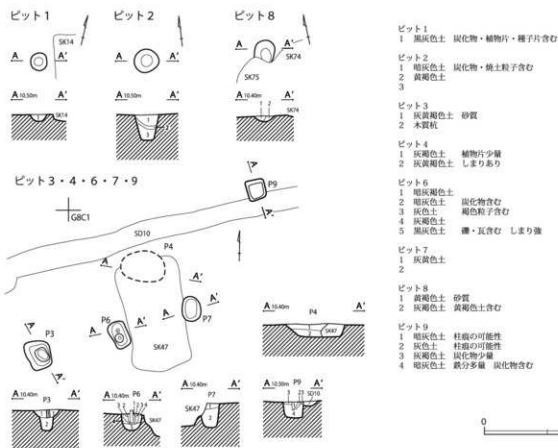
から北東部に位置するビット9では、覆土の第1・2層が柱痕の可能性ある。ビット3・6・7・9は柱を伴う構造物の一部と考えられる。

ビット9は第4号杭列より新しく、杭列によって区切られた敷地をまたいで造られている。いずれのビットも遺物の出土はごく少量であった。

第24表 第一面ビット一覧表

単位：m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考
1	F7-J9	円形	0.28	0.26	0.12	N-22°-W	
2	G7-J10	円形	0.40	0.38	0.40	N-34°-E	
3	G7-C10	不整形	0.47	0.40	0.32	N-13°-W	
4	G8-C1	楕円形	(0.70)	(0.48)	0.20	N-81°-W	SK47より新
6	G8-C1	隅丸長方形	0.42	0.28	0.27	N-29°-W	
7	G8-C1	隅丸長方形	0.39	0.29	0.39	N-12°-W	SK47より古
8	G7-D10	不整形円形	(0.33)	(0.31)	0.09	N-18°-E	SK75より新
9	G8-B1	隅丸方形	0.33	0.30	0.25	N-17°-W	



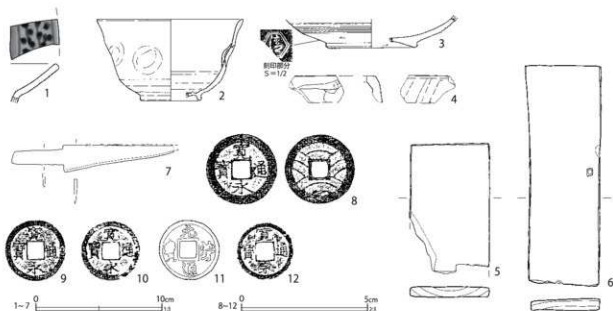
第104図 ビット

(7) グリッド出土遺物

遺構に伴わない遺物を第105図に掲載した。

1～4は陶磁器類である。1は初期伊万里の鉢である。2は地方窯の製品で拓器質の碗である。4は京都系の涼炉で、栗橋宿跡での出土は希少である。5・6は木製品の木札である。5には墨書でヤマに耕印と、菱に「三」の屋号が書かれている。これは『営業便覧』にある「乾物五十商 耕屋

田中儀兵衛」と考えられる。6には「紀州屋 坂庭重蔵」と書かれている。『営業便覧』の中に「荒物商 坂庭重蔵」の名があり、位置は第9地点にあたる。「信州上伊那郡」の地名が書かれ、取引先がうかがわれる。7は鉄製品の刀子である。8～13には銭貨を掲載した。11は北宋銭で元豊通宝である。



第105図 グリッド出土遺物

第25表 グリッド出土遺物観察表 (第105図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	鉢	—	[3.2]	—	—	5	良好	白	G8E1	肥前系 脇軸 染付 初期伊万里	
2	陶器	碗	(11.4)	6.4	(4.6)	I	30	良好	にぶい褐	G7E10	鉄軸斑状 体部印2 内面ビン痕1 拓器質	
3	陶器	鉢	—	[2.3]	(6.8)	EK	30	良好	灰黄	G7E10 G8E1	銅緑釉 体部下位刻印	
4	土師質土器	涼炉	—	[2.1]	—	AHK	5	普通	灰白	G8E1	S33周辺 京都系 外面ケズリ	
5	木製品	木札	長さ[10.2]	幅6.2	厚さ0.8	板目				F719	表裏面墨書 文字35	35-3
6	木製品	木札	長さ17.5	幅6.0	厚さ0.9	板目				G7B10	裏面墨書 櫓の側板転用 文字34	35-2
7	鉄製品	刀子	長さ[12.7]	刃長[8.7]	刃幅2.0	背幅0.2	重さ19.9			表探		
8	銅製品	銭貨	径28.1	厚さ1.1	重さ4.2					G7C10	寛永通寶 (新) 11歳	
9	銅製品	銭貨	径24.6	厚さ1.1	重さ2.9					G7C10	寛永通寶 (新)	
10	銅製品	銭貨	径23.6	厚さ1.0	重さ2.0					G7C10	寛永通寶 (新)	
11	銅製品	銭貨	径23.5	厚さ1.0	重さ2.6					表探	表探 元豊通寶	
12	銅製品	銭貨	径22.7	厚さ1.0	重さ1.9					表探	表探 寛永通寶 (新)	

2 第二面の遺構と遺物

第二面では、埋設桶10基、井戸跡2基、溝跡4条、土壌65基、ビット3基が検出された。

(1) 埋設桶

埋設桶は10基検出された。位置、規模等の基本的な情報は第26表にまとめた。

第5号埋設桶（第106図）

G7-E10グリッドに位置する。第6号埋設桶と接する。土層の堆積状況から、第6号埋設桶と同時に設置された可能性があるが、設置面の高さが0.34mほど異なるため同時期の設置は確定的ではない。径0.52mの掘り方に径0.42mの桶が設置されている。検出面で底板が露出し、側板はほとんど残っていなかった。上部が削平されている可能性がある。

第6号埋設桶（第106図）

G7-E10グリッドに位置する。第5号埋設桶と接する。径1.37mの掘り方に径1.02m、高さ0.42mの大型の桶が設置されている。遺物は陶磁器、木製品、金属製品、銭貨が出土し、このうち図化した遺物を第108～110図に掲載した。遺物は多くが桶の内側から出土し、底板下の掘り方からは漆碗（第109図1）が出土した。銭貨は寛永通宝3点である（第110図3～5）。1点は覆土中で、2点は底板上で出土した。

覆土の土壌分析を行った結果、1cmあたり82個の寄生虫卵が検出された。糞便の可能性のある

1000個以上を下回ることから、便槽遺構の可能性は低い（第V章-2）。

第7号埋設桶（第106図）

G7-C9グリッドに位置する。第9号埋設桶が東側に0.59m離れて位置する。桶の底板のみが出土し、掘り方は確認できなかった。

第8号埋設桶（第106図）

G7-D9・10グリッドに位置する。第91号土壌を壊している。掘り方内に径0.42cmの桶の底板が設置され、側板は残存していない。遺構の上部は削平されていると考えられる。底板上面で土製品のぶら人形が出土した（第108図16）。

第9号埋設桶（第106図）

G7-C9・10グリッドに位置する。西側に第7号埋設桶が位置する。径0.94mの大型の桶が設置され、掘り方は不明である。灰黄褐色土の上に板状の木製品が散在している。覆土が堆積した後に一括して投棄したと推定される。

第10号埋設桶（第107図）

G8-E1グリッドに位置する。掘り方内で桶が崩れた状態で出土した。上部は削平されていると考えられる。底板下の掘り方から陶磁器類と瓦が出土し、一部を図化して掲載した（第108図9～13）。

第11号埋設桶（第107図）

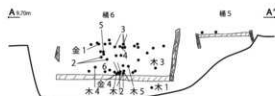
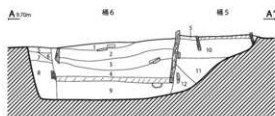
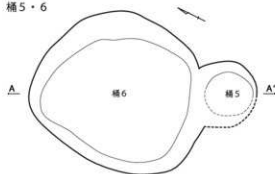
G8-C1グリッドに位置する。東側0.23m

第26表 第二面埋設桶一覧表

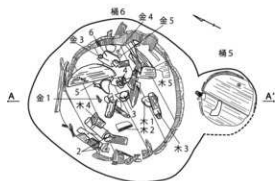
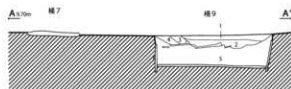
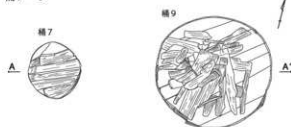
単位：m

番号	グリッド	外径	高さ	内法		掘り方径	深さ	備考
				内径	深さ			
5	G7-E10	0.45	0.08	0.40	0.03	0.52	0.15	
6	G7-E10	1.02	0.42	0.90	0.37	1.37	0.48	
7	G7-C9	—	—	0.42	—	—	—	
8	G7-D9/10	—	—	0.42	—	0.52	0.07	SK91より新
9	G7-C9/10	0.94	0.24	0.90	0.20	—	—	
10	G8-E1	—	—	—	—	0.69	0.20	
11	G8-C1	0.46	(0.13)	0.43	0.07	0.60	0.26	SK117重複
12	G8-C1	—	—	0.40	—	0.49	0.30	
13	G7-C10	—	—	0.26	—	0.43	0.04	
15	G7-D10	—	—	0.43	—	0.58	0.04	SD4より新

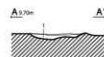
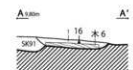
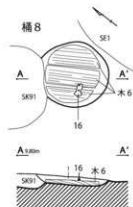
桶5・6



桶7・9



- 第6号埋桶
 1 明灰褐色土 炭化物含む 粘性あり
 2 暗灰褐色土 炭化物含む
 3 黒褐色土 植物片多量 炭化物含む
 4 暗灰色土 粘性非常に強 底板上に暗灰色の砂層
 5 褐色土 砂層 しまりなし
 6 灰色土 砂層 しまりあり
 7 灰色土 砂層 しまりあり
 8 暗灰色土 砂層 しまりなし 6層よりしまりなし
 9 暗灰色土 非常に粘質
 10 灰黄色土 粘質
 11 灰白色土 粘質
 12 灰黄褐色土 粘質

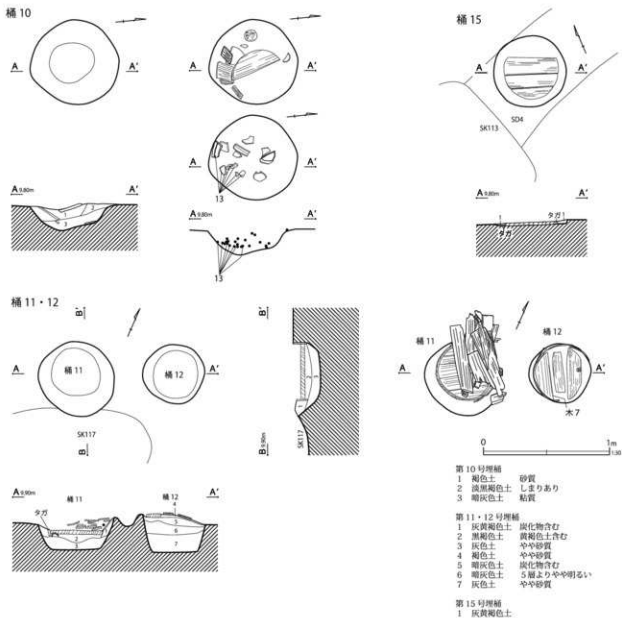


- 第8号埋桶
 1 黒褐色土 砂質

- 第9号埋桶
 1 灰黄色土 砂質 白色微粒子多量 しまり強
 2 灰褐色土 砂質 しまり強
 3 灰色土 しまり強
 4 灰色土 砂質 黒褐色土少量 しまり強
 5 灰黄褐色土

- 第13号埋桶
 1 灰褐色土 粘質

第106図 埋設桶(1)



第107図 埋設桶（2）

の位置に第12号埋設桶が造られる。掘り方内から径0.46mの桶の底板が出土した。側板部分は外れており、底板の上に重なって出土した。底板の下からは磁器が出土した（第108図14）。

第12号埋設桶（第107図）

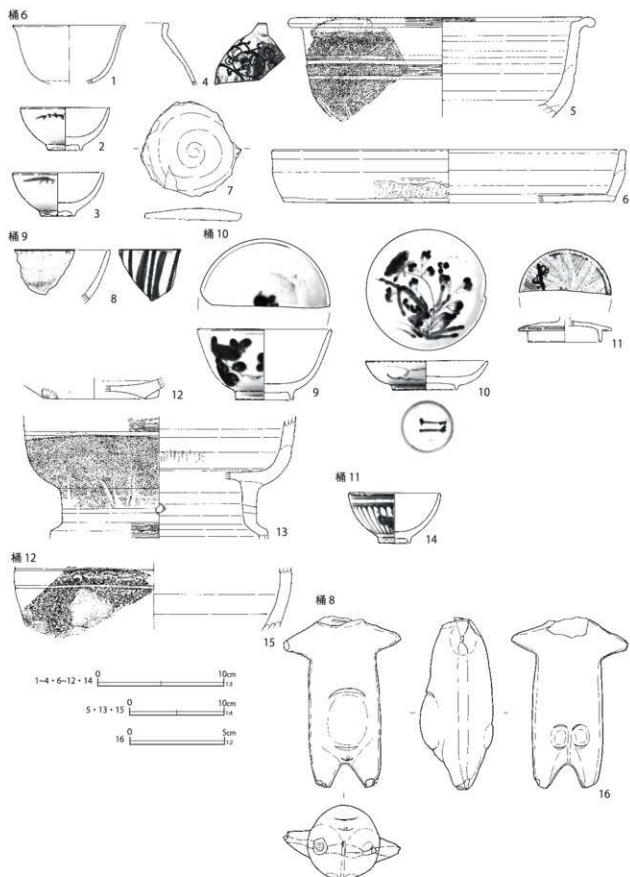
G 8－C 1 グリッドに位置する。第11号埋設桶が西側に近接する。遺構検出面で径0.40cmの桶の底板と籬が出土した。上部は削平されて、側板は残存していない。0.30mと深い掘り方を持つ。

第13号埋設桶（第106図）

G 7－C 10 グリッドに位置する。上部が削平されていると考えられる。径0.26mの桶の底板が出土した。側板は残存していない。

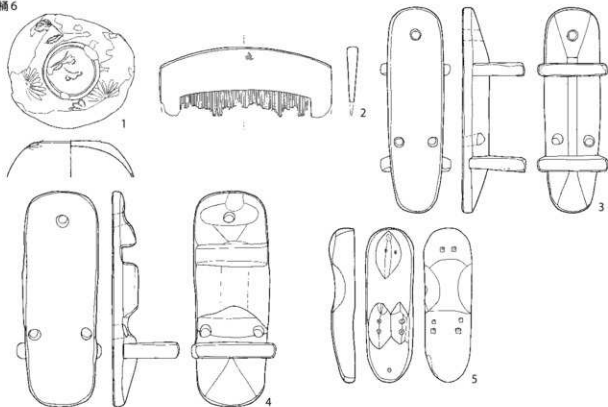
第15号埋設桶（第107図）

G 7－D 10 グリッドに位置する。第4号溝跡を壊して造られる。上部は削平され、桶の底板と籬のみが残存する。

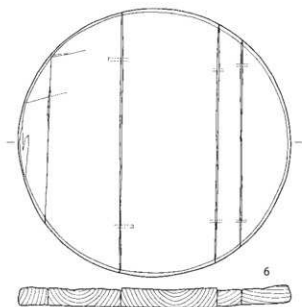


第108図 埋設桶出土遺物（1）

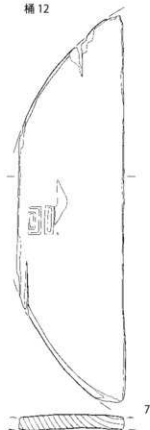
桶6



桶8



桶12



第109図 埋設桶出土遺物 (2)